

2021年（令和3）年度

履修の手引き

看護学部看護学科

目次

I. 看護学部について

- 1. 看護学部の教育目的・教育目標・到達目標…………… 3
- 2. 教育目標（体系図）…………… 4
- 3. 教育課程の概要…………… 5
 - 1) カリキュラムポリシー 2) ディプロマポリシー 3) 卒業時に取得できる資格…………… 5
- 4. カリキュラムの構成 …………… 6
- 5. 教員体制…………… 7

II. 履修について

- 1. 授業について…………… 1 1
 - 1) 学年…………… 1 1
 - 2) 学期…………… 1 1
 - 3) 単位…………… 1 1
 - 4) 授業時間…………… 1 1
 - 5) 授業科目の種類…………… 1 1
 - 6) 休講・補講・集中講義…………… 1 1
- 2. 欠席・公欠・忌引…………… 1 2
- 3. 履修登録…………… 1 3
 - 1) 履修登録とは…………… 1 3
 - 2) 履修登録の流れ…………… 1 3
 - 3) 履修にあたり修得が必要な科目…………… 1 3
 - 4) 履修の注意事項…………… 1 4
- 4. 他大学等の既修得単位の認定…………… 1 4
 - 1) 申請書類…………… 1 4
 - 2) 申請時期…………… 1 4
 - 3) 書類の請求および提出先…………… 1 4
 - 4) 認定の通知…………… 1 4
 - 5) その他…………… 1 4
- 5. 卒業条件について…………… 1 4
- 6. 試験について…………… 1 5
 - 1) 試験…………… 1 5
 - 2) 再試験・追試験…………… 1 6
- 7. 臨地実習の単位について…………… 1 6
- 8. 成績評価について…………… 1 6
 - 1) 評価区分…………… 1 6
 - 2) 成績通知…………… 1 7
 - 3) 再履修…………… 1 7
 - 4) GPA(グレード・ポイント・アベレージ)制度について…………… 1 7
- 9. 他専攻の授業科目の履修について …………… 1 7
- 10. 高等教育コンソーシアム信州における他大学単位の扱いについて …………… 1 7
- 11. 学生による授業評価について …………… 1 8

III. 履修課程表 …………… 1 9

IV. 授業概要 …………… 2 3

看護学部について

1. 看護学部 of 教育目的・教育目標

1) 看護学部 of 教育目的

本学は、「仁心妙術」と「徳風四海に洽(あまね)く」を教育理念に掲げ、人を慈しむ豊かな人間性と保健・医療・福祉に関する高い知識と技能を備え、学生が会得する知識や技能をすべからず人類愛に基づき世界(四海)に広める気概を持って社会に貢献することとしている。

本学看護学部では、「地域で学び、地域を学ぶ」及び「地域で育ち、地域が育つ」を学びの特徴として、地域の多様なニーズに対応できる質の高い看護を習得し、探求心を持って、生涯に渡って自律的に自己研鑽する看護職の育成を教育上の目的とする。

2) 教育目標

本学看護学部では、多様化する保健医療福祉の分野で、地域の生活基盤を支える質の高い専門職業人材としての看護職者、健康寿命の延伸、地域包括ケアシステム整備に寄与する専門職としての看護職者、多職種連携チームの中核としての看護職者の育成を目指し、次のような人材を育成する。

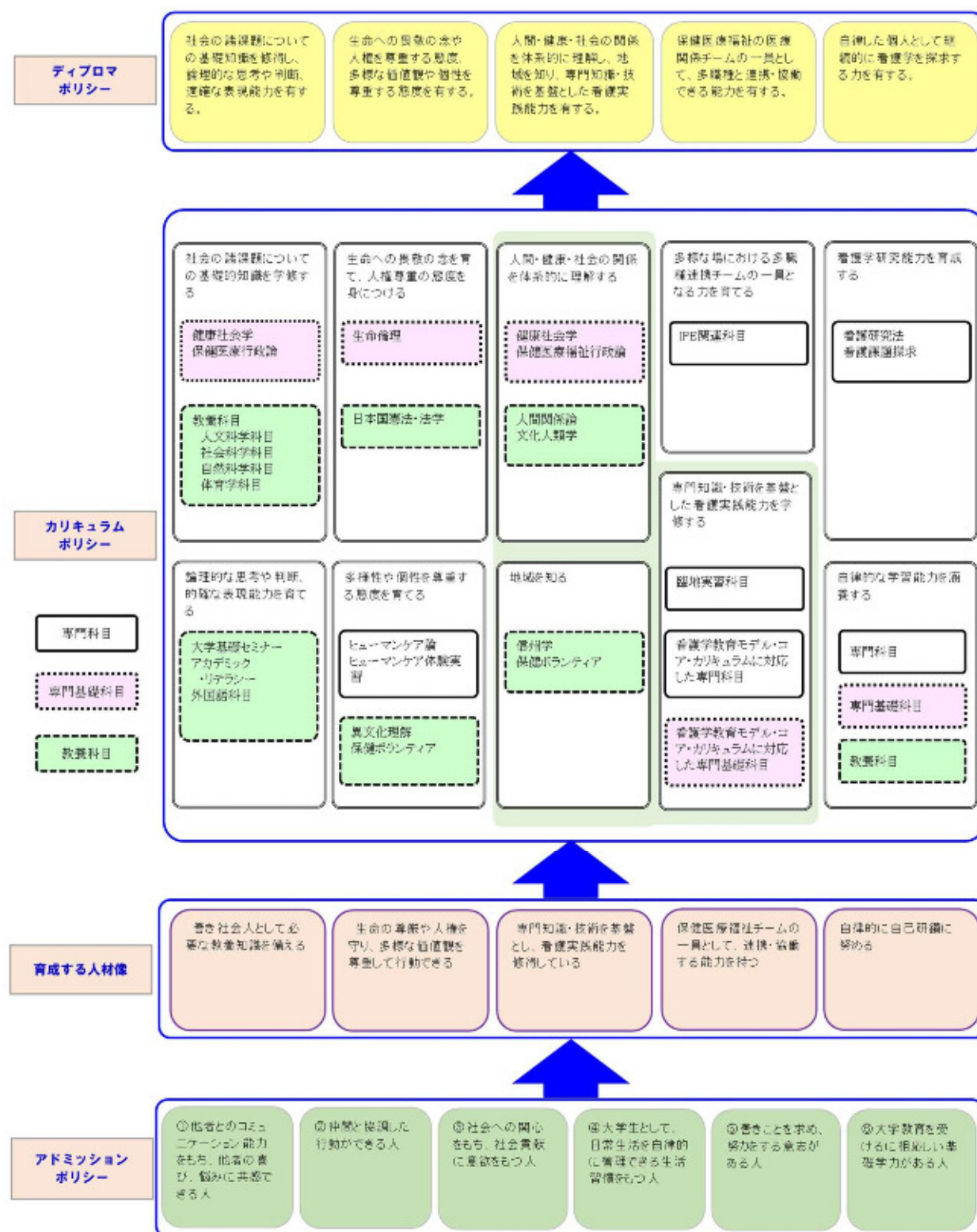
- (1) 善き社会人として必要な教養知識を備える。
- (2) 生命の尊厳や人権を守り、多様な価値観を尊重して行動できる。
- (3) 専門知識・技術を基盤とし、看護実践能力を修得している。
- (4) 保健医療福祉チームの一員として、連携・協働する能力を持つ。
- (5) 自律的に自己研鑽に努める。

3) 到達目標(卒業認定・学位授与方針:ディプロマポリシー)

- (1) 社会について基礎的知識に基づく論理的思考力、判断力、的確な表現能力を有する。
- (2) 生命への畏敬の念、人権尊重、多様な価値観や個性を尊重する態度を有する。
- (3) 人間・健康・社会の関係を体系的に理解し、地域を知り、専門知識・技術を基盤とした看護実践力を有する。
- (4) 保健医療福祉の医療関係チームの一員として、多職種と連携・協働できる能力を有する。
- (5) 自律した個人として継続的に看護学を探究する力を有する。

2. 教育目標(体系図)

教育体系図



3. 教育課程の概要

1) カリキュラムポリシー

本学看護学部では、ディプロマポリシーの達成に向け、教養科目、専門基礎科目、専門科目の3分野によりカリキュラムを編成し、知識や理論、実践を関連づけながら学べるように科目を配置した。

- (1) 社会の諸課題についての基礎的知識を学修するために、教養科目に人文科学、社会科学、自然科学、体育学を、専門基礎科目に「健康社会学」、「保健医療行政論」を配置した。
- (2) 論理的な思考、判断、的確な表現能力を育てるために、教養科目に「大学基礎セミナー」、「アカデミック・リテラシー」、「外国語科目」を配置した。
- (3) 生命への畏敬の念を育て、人権尊重の態度を身につけるため、教養科目に「日本国憲法・法学」、専門基礎科目に「生命倫理」を、多様性や個性を尊重する態度を育てるために、教養科目に「異文化理解」、「保健ボランティア」を、専門科目に「ヒューマンケア論」、「ヒューマンケア体験実習」を配置した。
- (4) 人間・健康・社会の関係を体系的に理解するために、教養科目に「人間関係論」、「文化人類学」、専門基礎科目に「健康社会学」、「保健医療福祉行政論」を、地域を知るために、教養科目に「信州学」、「保健ボランティア」を配置した。
- (5) 専門知識・技術を基盤とした看護実践能力の学修のために、モデル・コア・カリキュラムを参照し専門基礎分野、専門分野、領域別臨地実習を構成した。さらに、多様な場における多職種連携チームの一員となる力を育てるため、保健科学部との合同による IPE 関連科目を1～4年次に配置し、3,4年次は演習とした。
- (6) 看護学研究能力を育成するために、3,4年次に看護課題探究、看護研究法を配置した。
- (7) 自律的な学習能力の涵養するについては、全ての科目に係る。外国語科目に関しては、1～4年次にわたり英語Ⅰ、Ⅱ（基礎英語）、英語Ⅲ、医学英語Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ（原著医学看護学論文に購読を含む）を配置した。

2) ディプロマポリシー

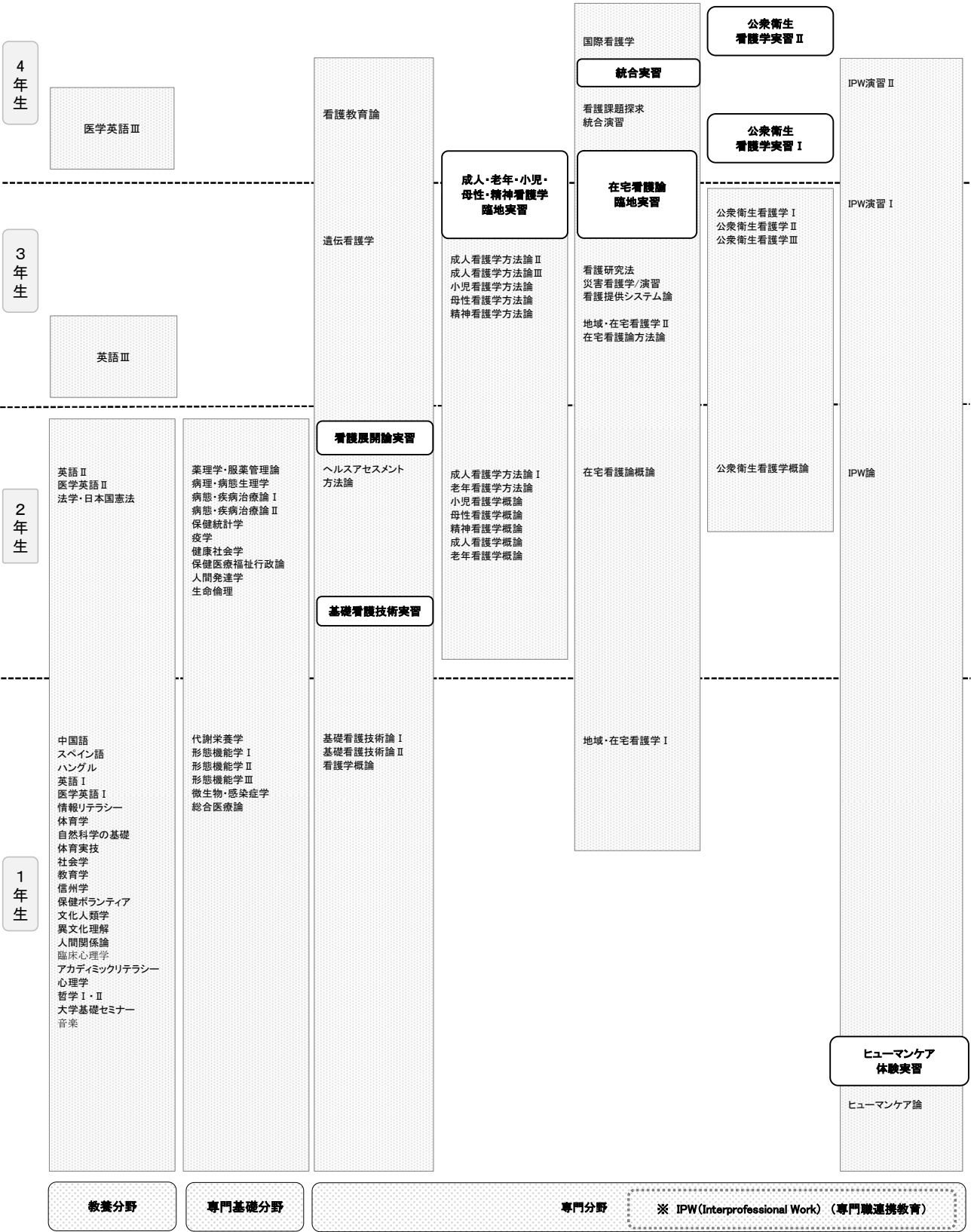
- (1) 社会の諸課題についての基礎的知識を修得し、論理的な思考力や判断、適確な表現能力を有する。
- (2) 生命への畏敬の念や人権を尊重する態度、多様な価値観や個性を尊重する態度を有する。
- (3) 人間・健康・社会の関係を体系的に理解し、地域を知り、専門知識・技術を基盤とした看護実践能力を有する。
- (4) 保健医療福祉の医療関係チームの一員として、多職種と連携・協働できる能力を有する。
- (5) 自律した個人として継続的に看護学を探究する力を有する。

3) 卒業時に取得できる資格

本学看護学部においては、必要な単位を修得し卒業した学生に、「看護師国家試験受験資格」と「社会福祉主事任用資格」を与える。また、特定の科目を選択履修した学生に対しては、「保健師国家試験受験資格」を与える。保健師資格取得者は、申請により第一種衛生管理者の取得できる。

4. カリキュラムの構成

カリキュラムの構成



5. 教員体制

講座・分野		氏名	担当科目
学 長		岩 谷 力	総合医療論/ヒューマンケア論
学 部 長		井 部 俊 子	ヒューマンケア論/看護学概論
教養	英 語	奥 村 信 彦	英語Ⅰ・Ⅱ/医学英語Ⅰ・Ⅱ
基 盤 領 域	基 礎 看 護 学	井 部 俊 子	ヒューマンケア論/看護学概論
		田 渕 祥 恵	基礎看護技術論Ⅰ・Ⅱ/ヘルスアセスメント方法論/ヒューマンケア体験実習/基礎看護技術実習/看護展開論実習/大学基礎セミナー
		宮澤美津子	基礎看護技術論Ⅰ・Ⅱ/基礎看護技術実習/看護展開論実習/保健ボランティア/大学基礎セミナー/ヒューマンケア体験実習
		松石健太郎	形態機能学Ⅱ/基礎看護技術論Ⅱ/ヒューマンケア体験実習/基礎看護技術実習/看護展開論実習
	精 神 看 護 学	田 中 高 政	精神看護学概論/基礎看護技術論Ⅰ/保健ボランティア/ヘルスアセスメント方法論/疾病治療論Ⅱ/基礎看護技術実習/看護展開論実習
	在 宅 看 護 学 論	横 関 裕 子	基礎看護技術実習/看護展開論実習
	成 人 看 護 学	林 か お り	病態疾病治療論Ⅰ・Ⅱ/基礎看護技術実習/看護展開論実習
発 達 領 域	成 人 看 護 学	鈴木真理子	成人看護学概論/成人看護学方法論Ⅰ/病態疾病治療論Ⅰ・Ⅱ/基礎看護技術実習/看護展開論実習
		水 寄 知 子	老年看護学概論/老年看護学方法論/病態疾病治療論Ⅰ・Ⅱ/大学基礎セミナー/ヒューマンケア体験実習/基礎看護技術実習/看護展開論実習
	老 年 看 護 学	桑 原 良 子	老年看護学方法論/基礎看護技術実習/看護展開論実習
		溝 口 智 鶴	ヒューマンケア体験実習/基礎看護技術実習/看護展開論実習
		樋 貝 繁 香	小児看護学概論/大学基礎セミナー/病態疾病治療論Ⅱ/ヒューマンケア体験実習/基礎看護技術実習/看護展開論実習
	小 児 看 護 学	風 間 邦 子	基礎看護技術実習/看護展開論実習
	母 性 看 護 学	坂口けさみ	母性看護学概論/大学基礎セミナー/ヒューマンケア体験実習/基礎看護技術実習/看護展開論実習
広 域 領 域	災害・国際看護学	宮 越 幸 代	IPW 論/大学基礎セミナー/保健ボランティア/ヒューマンケア体験実習/基礎看護技術実習/看護展開論実習
	公衆衛生看護学	川 崎 千 恵	ヒューマンケア論/地域・在宅看護学Ⅰ/公衆衛生看護学概論/保健医療福祉行政論/ヒューマンケア体験実習/基礎看護技術実習/看護展開論実習
		塚田ゆみ子	ヒューマンケア体験実習/地域・在宅看護学Ⅰ/基礎看護技術実習/看護展開論実習/大学基礎セミナー

履修について

1. 授業について

1) 学年

学年は、4月1日に始まり翌年3月31日までです。

2) 学期

学年を半期毎、前期と後期に区分します。

前期：4月1日から9月第3週まで

後期：9月第4週から翌年3月31日まで

3) 単位

授業科目の単位数は1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、授業方法に応じ授業の教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して、次の基準により単位数を定めています。

(1)講義および演習 15時間から45時間の授業をもって1単位。

(2)実験、実習および実技については30時間から45時間の授業をもって1単位。

4) 授業時間

授業時間は原則として次の通りです。授業科目によって別に指定することがあります。

時限	授業時間帯	時間
第1時限	9 : 0 0 ~ 1 0 : 3 0	9 0 分
第2時限	1 0 : 4 0 ~ 1 2 : 1 0	9 0 分
昼休み	1 2 : 1 0 ~ 1 3 : 0 0	5 0 分
第3時限	1 3 : 0 0 ~ 1 4 : 3 0	9 0 分
第4時限	1 4 : 4 0 ~ 1 6 : 1 0	9 0 分
第5時限	1 6 : 2 0 ~ 1 7 : 5 0	9 0 分

※ 土曜日、日曜日、祝日に授業を行う場合があります。

5) 授業科目の種類

(1)科目区分

本学の授業科目は、教養科目、専門基礎科目、専門科目に分けられます。

(2)必修・選択科目など

各授業科目は、必修科目、選択科目から構成されます。

必修科目：卒業のために必ず単位を修得しなければならない科目

選択科目：定められた条件内で選択できる科目

6) 休講・補講・集中講義

(1)休講：荒天や災害発生時、担当教員が都合により授業ができなくなった場合は、休講になります。連絡は一階（本館・南館）掲示板および学生用情報システム（Active Academy）で行います。

(2)補講：休講となった授業または時間数が不足している授業等を補うために補講を行います。連絡は一階（本館・南館）掲示板および学生用情報システム（Active Academy）で行います。

(3)集中講義：授業科目により、ある一定期間に集中して講義を行うことがあります。

2. 欠席・公欠・忌引

- 1) 欠席する場合は、本館事務室窓口に欠席届を提出してください。
- 2) 各科目において欠課、遅刻、早退した場合は、本館事務室窓口に所定の届を提出してください。
- 3) 遅刻及び早退は2回をもってその科目の1授業時間の欠課として扱われます。
- 4) 30分以上の遅刻、早退は欠席として扱います。
- 5) 実習については、原則として遅刻及び早退2回をもって1日の欠席として扱います。
- 6) 公欠は次の場合とします。公欠願は本館事務室窓口に提出してください。
 - (1) 公的な事由による疾病の場合
 - (2) 就職試験受験の場合
 - (3) 公文書による対外行事に参加する場合
 - (4) その他学長が必要と認めた場合
- 7) 忌引の場合は、忌引届を本館事務室窓口に提出してください。
なお 忌引の日数(土・日曜日、休日を含む)は、次のとおりです。
父母：7日 子：7日 祖父母：3日 兄弟姉妹：3日 叔父伯母：1日

3. 履修登録

1) 履修登録とは

卒業するためには、学則に定められた所定の科目を履修し、単位を修得しなければなりません。さらに、授業を受けるためには履修登録しなければなりません。指定された期日までに履修登録を行わなかった場合は、たとえ授業に出席していても、その科目の単位は修得できませんので十分注意してください。

2) 履修登録の流れ

(1) オリエンテーション

履修の手引きとシラバス、時間割等を配布説明します。

(2) プランニング時間割表の作成

配布された資料をもとに、時間割表を作成してください。

(3) 履修登録

学生用情報システム (Active Academy) から履修登録を行います。選択科目の履修登録を必ず行ってください。

(4) 履修登録内容の修正・確認

学生用情報システム (Active Academy) から時間割表が正しく登録されているか確認してください。

(5) 最終登録 4 月 13 日 (月) 17 : 00 までです。

(6) 履修登録修正期間

前期 : 4 月 14 日 (火) ~ 4 月 17 日 (金) 17 : 00 まで

後期 : 9 月 28 日 (月) ~ 10 月 2 日 (金) 17 : 00 まで

3) 履修にあたり修得が必要な科目

科目	修得が必要な科目
基礎看護技術実習	看護学概論、基礎看護技術論Ⅰ、基礎看護技術論Ⅱ
看護展開論実習	看護学概論、基礎看護技術論Ⅰ、基礎看護技術論Ⅱ、基礎看護技術実習
成人看護学実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ	成人看護学概論、成人看護学方法論Ⅰ、成人看護学方法論Ⅱ、成人看護学方法論Ⅲ
老年看護学実習Ⅰ・Ⅱ	老年看護学概論、老年看護学方法論
小児看護学実習	小児看護学概論、小児看護学方法論
母性看護学実習	母性看護学概論、母性看護学方法論
精神看護学実習	精神看護学概論、精神看護学方法論
在宅看護論実習	地域・在宅看護学Ⅰ、地域在宅看護学Ⅱ、在宅看護論概論、在宅看護論方法論
公衆衛生看護学実習Ⅰ	公衆衛生看護学概論、公衆衛生看護学Ⅰ、公衆衛生看護学Ⅱ、公衆衛生看護学Ⅲ
公衆衛生看護学実習Ⅱ	公衆衛生看護学概論、公衆衛生看護学Ⅰ、公衆衛生看護学Ⅱ、公衆衛生看護学Ⅲ、公衆衛生看護学実習Ⅰ

4) 履修の注意事項

履修登録にあたっては履修課程表を参考に履修基準に沿って登録してください。

- (1) 1年間の必修科目・選択科目のすべてを登録してください。後期の開講科目については後期履修内容確認期間に修正することができます。
- (2) 履修年次が指定されている科目は、その年次において履修してください。
- (3) 原則としてⅠ・Ⅱ・Ⅲ等のついた科目は、数字の順番に履修してください。
- (4) 同一時間帯に開講される2つ以上の科目を同時に履修することはできません。
- (5) 履修登録した科目は確実に履修し、試験を受けなければなりません。登録しただけで終わると総合評価が下がります。履修を取り消す場合は別途定めた期間に申請してください。
- (6) 通年の授業科目については、後期の履修内容確認期間中でも、変更できません。
- (7) 科目名が同じであっても、在籍している学科ではない科目は、履修登録できません。
- (8) すでに履修した科目は、再度履修することはできません。ただし、担当教員の許可を得れば聴講することができます。
- (9) 単位取得できなかった科目は、必ず履修登録（再履修登録）を行ってください。

4. 他大学等の既修得単位の認定

本学入学前に大学、短期大学、高等専門学校等で修得した単位を本学の単位として認定する場合があります。既修得単位の認定を希望する場合には、以下の要領で申請を行ってください。

1) 申請書類

- (1) 既修得単位認定申請書（履修ガイダンスで配布します。）
- (2) 既修得科目明細書
- (3) 成績証明書
- (4) 当該科目の内容がわかるもの（シラバス・講義概要）

2) 申請時期

4月6日（月）17時まで

3) 書類の請求および提出先

学務部（本館事務室）

4) 認定の通知

4月中に本人に認定通知書を交付します

5) その他

- ・既修得単位の認定は学則により60単位までと決められています。
- ・申請した単位が認定されとは限らないため、不認定になった場合を考慮して履修登録を必ず行ってください。
- ・認定の申請は入学時のみです。また期日を過ぎての申請は認められません。

5. 卒業条件について

看護学科の卒業に必要な授業科目の単位数は、次の表のとおりとする。

区 分	教養科目	専門基礎科目	専門科目	合 計
必修科目	15 単位	21 単位	76 単位	112 単位
選択科目	8 単位以上	2 単位	2 単位	12 単位以上
合 計	23 単位以上	23 単位	78 単位	124 単位以上

- * 1 教養科目 中国語、スペイン語、ハングルのうち 1 科目 2 単位以上選択
- * 2 信州学、音楽、文化人類学、社会学、日本国憲法・法学、情報リテラシー、哲学Ⅰ、哲学Ⅱ、英語Ⅲ、医学英語Ⅲの教養科目のうち 2 科目 4 単位以上選択し、異文化理解、教育学の教養科目のうち 1 科目 2 単位以上選択。
- * 3 専門基礎科目 人間発達学、疫学、保健統計学のうち 1 科目 2 単位以上選択。
- * 4 専門科目 急性・クリティカルケア論、リハビリテーション看護論、国際看護学のうち 1 科目 2 単位以上選択。
- * 5 保健師国家試験受験資格取得のためには公衆衛生看護学科目の全科目を修得し、卒業要件単位として合わせて 139 単位以上を取得すること。

看護師課程必修科目（必修・選択必修）を履修・単位修得する他に、下記の科目 10 科目 26 単位の履修及び単位修得が必要です。

1 年：情報リテラシー、

2 年：日本国憲法・法学、疫学、保健統計学、総合医療論、公衆衛生看護学概論

3 年：公衆衛生看護学Ⅰ、公衆衛生看護学Ⅱ、公衆衛生看護学Ⅲ

4 年：公衆衛生看護学実習Ⅰ、公衆衛生看護学実習Ⅱ

- * 6 保健師免許状取得後の養護教諭二種免許状取得のための科目履修

保健師助産師看護師法第 7 条の規定により、保健師の免許状を受けた者が、養護教諭二種免許状を取得する場合、教育職員免許法施行規則第 66 条の 6 に定める科目である、日本国憲法、体育、外国語コミュニケーション、情報機器の操作の単位を修得している必要がある。

日本国憲法に対応する科目は「日本国憲法・法学」2 単位（2 年次）、外国語コミュニケーションに対応する科目は、「英語Ⅰ」「英語Ⅱ」の 2 単位（1-2 年次）、情報機器の操作に対応する科目は、「情報リテラシー」2 単位（1 年次）及び「保健統計」1 単位（2 年次）、体育に対応する科目は、「体育（実技）」「体育学」2 単位（1 年次）で、これらの科目は卒業に必要な単位です。

6. 試験について

1) 試験

学期ごとに期末の定期試験を行います。担当教員が必要と認めるときは、別に試験を行うことがあります。

授業の出席時間数が、授業の総時間数の 3 分の 2 未満の場合は定期試験の受験資格を失います。

(1) 試験場は時間割表で確認し、指定された試験場で受験してください。座席は、試験場の扉に掲示してある座席表を確認し着席してください。

(2) 学生証を机上に提示してください。学生証を忘れた場合は、本館または南館の事務室で、仮学生証（発行日の記載受験科目のみ有効）の申請をすること。

- (3)机上に置けるのは、筆記用具（筆箱を除く）と学生証のみです。許可を得たもの以外は机上に置かないこと。
- (4)バッグはロッカーに入れてください。
- (5)試験場へのスマートフォン・スマートウォッチ等、通信機能のある物の持ち込みは禁止します。携帯が確認された時点で不正行為と見なされます。
- (6)試験開始より 30 分以上遅刻した場合はその科目は受験できません。
- (7)試験開始後 30 分を経過するまでは試験場より退出することはできません。
- (8)不正行為が行われた場合には、当該科目を不合格とします。また、所定の措置をとり、本大学学則第 48 条に定める懲戒処分の対象とすることがあります。
- (9)試験に関しては、試験監督者の指示に従ってください。従わない場合は不正行為と見なされます。

2) 再試験・追試験

- (1)試験により、成績が 60 点未満であった者に対しては、教科担当者が必要と認める場合、再試験を行うことがあります。なお、学生がやむを得ない理由により定期試験を受験できなかった場合は、追試験を行います。
- (2)再試験及び追試験の受験は、所定の期日までに受験料（再試験 1 科目 2,000 円、追試験 1 科目 1,000 円）を添え、本館事務室に申し込んでください。
なお、追試験については、許可願を事前に本館事務室へ提出してください。
- (3)正当な理由がなく定期試験を欠席した者は、その年度の当該科目の追試験を受けることができません。
- (4)追試験を認める正当な理由とは、次のとおりです。これらのものは教授会の議を経て学長が許可します。
 - ①病気及び負傷（診断書の提出）
 - ②忌引（届の提出）
 - ③公欠（事前に許可されている場合）
 - ④その他やむを得ないと認められる場合（理由を証明する書類の提出）なお、①～③に該当する場合は受験料を納入する必要がありません。
- (5)再試験・追試験受験のために授業を欠席する場合は、公欠扱いとします。
- (6)再試験・追試験の実施方法は、上記 1)(試験) に準じて行います。机上に領収証を提示してください。

7. 臨地実習の単位について

臨地実習においては、出席が 5 分の 4 に満たない場合は、評価の資格を失います。

8. 成績評価について

1) 評価区分

成績の評価を S、A、B、C、D、とし S、A、B、C を合格、D を不合格とします。
合格と認定された授業科目については、所定の単位が与えられます。

点数区分	評価区分	単位認定	内容	GP
100～90 点	S	合格	特に優れた成績	4.0
89～80 点	A	合格	優れた成績	3.0
79～70 点	B	合格	良好な成績	2.0
69～60 点	C	合格	合格と認められる成績	1.0
59～0 点	D	不合格	不合格	0.0
	N	単位認定	他大学等で履修した科目を本学の単位として認定したことを表す。	

2) 成績通知

成績は学生用情報システム（Active Academy）にて通知します。なお、前期、後期とも学生に配布します。

3) 再履修

単位の修得が認められなかった授業科目は、次年度以降にその授業科目を再履修します。

4) GPA(グレード・ポイント・アベレージ)制度について

学業成績を年次毎に総合評価のポイントで表します。各科目の成績は次のようにポイント化します。総合評価ポイントは次のように計算されます。

$$\text{GPA} = (\text{各科目のポイント (GP)} \times \text{各科目の単位数}) / (\text{履修登録の単位数})$$

GPA 制度は、

- ①学習状況を自己評価する目安とすること
- ②学修の成果をより明確に現すこと
- ③履修登録に責任をもつこと を目的とします。

また、GPA をもとに履修登録の上限を設定する場合があります。

※単位認定科目は GPA の対象となりません。

9. 他専攻の授業科目の履修について

他専攻の授業科目の履修または聴講については、別に定められた科目について、許可を得て履修登録することができます。

ただし、演習科目、実習科目、履修人数の制限等、何らかの不都合が生じる科目については履修または聴講することができません。事前に学務部に申請し許可を得る必要があります。

10. 高等教育コンソーシアム信州における他大学単位の扱いについて

長野県内大学単位互換協定に基づき、必要な手続きを行い、単位を取得することができます。

他大学での履修可能科目数は、個別に学長が認めた範囲とし、原則として本校の科目に読み替えません。

1 1. 学生による授業評価について

本学では、より良い授業が行われるようになることを目的に、授業科目の内容および方法に関して、学生による授業評価を実施しています。

これは授業の質を高めるために行うもので、個々の教員の人気投票ではありません。皆さんの真剣な評価を期待します。皆さんの成績に影響を与えることはありません。

学生の皆さんからのフィードバックによって良い授業を作るという趣旨を理解いただき、協力をお願いします。

履修課程表

注)●必修科目 ○選択科目

分野	区分	科目名称	ページ	配当	単位		看護学科				履修方法
					必修	選択	1年次	2年次	3年次	4年次	
教養科目	導入科目	大学基礎セミナー	1	1前	1		●				看護師課程 23単位(必修15単位、選択8単位)
	人文科学	心理学	2	1前	2		●				保健師課程 23単位(必修19単位、選択4単位) ◎保健師必修科目 「文化人類学」、「哲学Ⅰ」、「哲学Ⅱ」、「信州学」、「音楽」、「社会学」、「日本国憲法・法学」、「情報リテラシー」、「英語Ⅲ」、「医学英語Ⅲ」の教養科目のうち2科目(4単位)以上選択
		アカデミックリテラシー	3	1前	1		●				
		人間関係論	4	1前	1		●				
		文化人類学	5	1前		2	○				
		哲学Ⅰ	6	1前		1	○				
		哲学Ⅱ	7	1集中		1	○				
		臨床心理学	8	1後	1		●				
		信州学	9	1後		1	○				
		音楽	10	1後		1	○				
		異文化理解	11	1後		2	○				
		保健ボランティア	12	1通	1		●				
	社会科学	社会学	13	1前		2	○				「異文化理解」、「教育学」の教養科目の内1科目(2単位)以上選択
		教育学	14	1後		2	○				
		日本国憲法・法学	15	2前		2		○◎			
	自然科学	自然科学の基礎	16	1前	2		●				「中国語」、「スペイン」、「ハングル」のうち1科目(2単位)以上選択
		情報リテラシー	17	1後		2	○◎				
	体育学	体育(実技)	18	1前	1		●				
		体育学	19	1後	1		●				
	外国語	英語Ⅰ	20	1前	1		●				
		医学英語Ⅰ	21	1後	1		●				
		中国語	22	1後		2	○				
		スペイン語	23	1後		2	○				
		ハングル	24	1後		2	○				
		英語Ⅱ	25	2前	1			●			
		医学英語Ⅱ	26	2後	1			●			
		英語Ⅲ	27	3前		1			○		
		医学英語Ⅲ	28	4前		1				○	
専門基礎科目	人間と環境	代謝栄養学	29	1後	2		●			看護師課程 23単位(必修21単位、選択2単位)	
		形態機能学Ⅰ	30	1通	2		●				
		形態機能学Ⅱ	31	1通	2		●				
		形態機能学Ⅲ	32	1後	1		●			保健師課程 25単位(必修25単位) ◎保健師必修科目	
		病理・病態生理学	33	2前	2			●			
		薬理学・服薬管理論	34	2前	2			●			
		病態・疾病治療論Ⅰ	35	2通	2			●			
		病態・疾病治療論Ⅱ	36	2通	2			●			
		人間発達学	37	2前		2		○			
	生命倫理	38	2後	1			●				
	環境と健康	微生物・感染症学	39	1後	1		●				
		疫学	40	2前		2		○◎			
		保健統計学	41	2前		2		○◎			
		総合医療論	42	1前	1		●				
		健康社会学	43	2後	1			●			
		保健医療福祉行政論	44	2後	2			●			
	専門科目	看護専門科目	看護学概論	45	1前	1		●			看護師課程 78単位(必修76単位、選択2単位)
			基礎看護技術論Ⅰ	46	1前	2		●			
基礎看護技術論Ⅱ			47	1後	2		●				
ヘルスアセスメント方法論			48	2通	2			●			
遺伝看護学			49	3前	1				●		
看護教育論			50	4通	2					●	
成人看護学		成人看護学概論	51	2前	2			●			
		成人看護学方法論Ⅰ	52	2後	2			●			
		成人看護学方法論Ⅱ	53	3前	2				●		
		成人看護学方法論Ⅲ	54	3前	2				●		
急性・クリティカルケア論	55	3前		2			○		「急性・クリティカルケア論」、「リハビリテーション看護論」、「国際看護学」のうち1科目(2単位)以上選択		
リハビリテーション看護論	56	3前		2			○				

看護師課程:合計124単位(必修112単位、選択12単位)以上を取得すること。(履修科目の登録の上限:49単位(年間))
保健師課程:合計139単位(必修133単位、選択6単位)以上を取得すること。(履修科目の登録の上限:49単位(年間))

授業概要

看護学部看護学科 シラバス

授業科目	大学基礎セミナー														
担当教員	樋貝 繁香			坂口 けさみ		水寄 知子		宮越 幸代		田淵 祥恵		宮澤 美津子		塚田 ゆみ子	
配当年次	1 年次	配当学期	前期	単位数	1 単位	必修・選択	必修	授業形態	講義						
授業目標	学修の基礎となる看護専門職の役割と多職種の役割を理解する。スタディスキルとして図書館利用法や情報収集方法、レポート・論文の書き方の基礎を学ぶ。ソーシャルスキルとして社会人に必要となる基本的な知識を学ぶ。更に、本学の建学の精神の意味・意義について学び、大学生活で実践する態度を養う。														
学習目標	1. 看護専門職を目指す学生として、又、自ら学ぶ大学生として、マナーや社会的規範、コミュニケーションスキル、課題を自ら発見し、解決する能力を身につけ実践できる。 2. 能動的に学ぶことの意義と共に、面白さと楽しさを実感する。 3. 基本的な学習技能（見る・聞く・読む・書く・要約する・考える・話し合う・発表する）を身につける。														
授業計画															
回	開講日	授業内容										担当教員			
1	4/13	大学で学ぶことの意味：看護学を学ぶ意味										樋貝・坂口・水寄・宮越・田淵・宮澤・塚田			
2	4/20	学習に必要な技能①：ノートの取り方										〃			
3	4/27	文献とは、文献検索の方法										〃			
4	5/11	学習に必要な技能②：文献の読み方										〃			
5	5/18	メディアリテラシー										〃			
6	5/25	学習に必要な技能③：文献検索の実際										〃			
7	6/1	学習に必要な技能④：文章の書き方										〃			
8	6/8	学習に必要な技能⑤：レポートのまとめ方①図表の書き方										〃			
9	6/15	学習に必要な技能⑥：レポートのまとめ方②書誌事項の書き方										〃			
10	6/22	学習に必要な技能⑦：発表の仕方										〃			
11	6/29	学習に必要な技能⑧：グループワーク										〃			
12	7/6	学習に必要な技能⑨：グループワーク										〃			
13	7/13	学習に必要な技能⑩：グループワーク										〃			
14	7/20	学習に必要な技能⑪：発表										〃			
15	7/27	学習に必要な技能⑫：発表										〃			
教科書		適宜紹介する。													
参考図書		井部俊子. 看護師のための文章ノート. 日本看護協会出版会.													
予習・復習内容		授業で呈示する課題を予習・復習する。													
成績評価方法・基準		評価配分：課題 30%、レポート 50%、グループワークの取り組み 20% の総合評価													
履修上の注意		毎回の授業資料とタブレットを持参すること。													
担当教員への連絡方法		E-mail:higai.shigeka@shitoku.ac.jp													
実務経験と授業科目との関連性		なし													
保健師助産師看護師学校養成所指定規則に定める別表の種類と教育内容 別表 3 （看護師課程） 科学的思考の基盤															

看護学部看護学科 シラバス

授業科目	心理学								
担当教員	高瀬 弘樹								
配当年次	1 年次	配当学期	前期	単位数	2 単位	必修・選択	必修	授業形態	講義
授業目標	心理学の“心の研究・学問”としての歴史は浅く、古くは実験と観察を通じて始まり、近年では、生活の場における人間の理解を深めて、臨床の場でそれを生かしていこうといった試みも増えている。 本講義では、①心理学の入門編として様々な心理学の知見を概観、②心理学の視点や考え方を理解することを目的とする。臨床の話も織り交ぜながら、学生と共に考えていく講義とする。								
学習目標	1. 心理学の歴史やその成果に関して幅広く理解できる。 2. 科学としての心理学における諸理論、研究法を説明できる。								
授業計画									
回	開講日	授業内容							担当教員
1	4/10	心理学とは何か							高瀬 弘樹
2	4/17	現代心理学の成立							〃
3	4/24	心の進化							〃
4	5/8	心の発達							〃
5	5/15	動機づけ・情動							〃
6	5/22	身体化認知							〃
7	5/29	性格							〃
8	6/5	知能							〃
9	6/12	メンタルヘルス							〃
10	6/19	心理療法							〃
11	6/26	感覚・知覚							〃
12	7/3	学習・記憶							〃
13	7/10	思考・言語							〃
14	7/17	心と社会							〃
15	7/31	まとめ							〃
教科書		教科書は使用しない。プリントを配布。							
参考図書		無藤 隆・森 敏昭・遠藤 由美・玉瀬 耕治：心理学 新版 (New Liberal Arts Selection) 有斐閣							
予習・復習内容		授業時に配布したプリントの内容について理解する。							
成績評価方法・基準		評価配分：期末試験 60％、不定期に行われる小テスト 40％							
履修上の注意		授業中は、私語を慎むこと。							
担当教員への連絡方法		E-mail:takaseh(at)shinshu-u.ac.jp (at)は@							
実務経験と授業科目との関連性			なし						
保健師助産師看護師学校養成所指定規則に定める別表の種類と教育内容 別表 3 (看護師課程) 人間と生活・社会の理解									

看護学部看護学科 シラバス

授業科目	アカデミックリテラシー									
担当教員	杉山 俊一郎									
配当年次	1 年次	配当学期	前期	単位数	1 単位	必修・選択	必修	授業形態	講義	
授業目標	大学で作成するよい文章とはどのような文章か。そもそも言葉は必要なのか。そのような根本的なことを常に意識しながら、日本語にまつわる話をし、よき日本語が使えるようになることを目指す。古今の代表的な文章を読み、どのような文体、どのような表現が効果的なのか、を考え、実際に文章を書いてみる。また、日本語の文字、文法など具体的な知見を得る。									
学習目標	1. 目的に応じて適切な表現を用いた文章が書けるようになる。 2. 様々な種類の文章を読解できるようになる。 3. 学術的なレポートや小論文が書けるようになる。									
授業計画										
回	開講日	授業内容							担当教員	
1	4/13	イントロダクションー自己紹介文を書くー							杉山 俊一郎	
2	4/20	作文の基礎(1)ー話し言葉と書き言葉の相違ー							〃	
3	4/27	作文の基礎(2)ー分かりやすいレポート・論文とはどのような文章かー							〃	
4	5/11	構想を練るーテーマ・課題・文章展開を考えるー							〃	
5	5/18	書く(1)ー内容・方法の説明ー							〃	
6	5/25	書く(2)ー課題文を読んで自分の考えを述べるー							〃	
7	6/1	書く(3)ー2つの課題文を読み比べて自分の考えを述べるー							〃	
8	6/8	小論文の作成に向けてー引用と参考文献の書き方についてー							〃	
教科書		教科書は使用しない。プリントを配布する。								
参考図書		1. 戸田山和久『新版 論文の教室 レポートから卒論まで』NHK出版, 2012年 2. 石黒圭『論文・レポートの基本』日本実業出版社, 2012年								
予習・復習内容		配布プリントや返却した答案・課題は、必ず内容を確認すること。								
成績評価方法・基準		評価配分: 提出物・発言等 50%, 期末試験(小論文) 50%								
履修上の注意		執筆された課題文章を授業内で公表し、教材として用いる場合がある。								
担当教員への連絡方法		E-mail shun_sugiyama@shinshu.u.ac.jp								
実務経験と授業科目との関連性		なし								
保健師助産師看護師学校養成所指定規則に定める別表の種類と教育内容 別表3 (看護師課程) 科学的思考の基盤										

看護学部看護学科 シラバス

授業科目	人間関係論								
担当教員	羽田 行男								
配当年次	1 年次	配当学期	前期	単位数	1 単位	必修・選択	必修	授業形態	講義
授業目標	人間関係、社会（集団）と個人との関係を心理学的、精神医学的視点からとらえ、科学的思考ではとらえきれない個性、主観性などの多様性を理解し、自己を見つめ直し、他者を客観的にとらえ、コミュニケーションをとることを学び、医療者の役割を考え、病める人々、苦悩する人々を理解し、繋がりを作るスキルを習得させる。								
学習目標	1. 基本的傾聴スキルを習得する。 2. 認知的複雑性理論に基づいた他者理解の知識とスキルを習得する。 3. カウンセリング・コミュニケーションの基本部分を知識として習得する。 4. ロールプレイをもとに、問題解決コミュニケーションの基礎を習得する。 5. 対人コミュニケーションにおける自己効力感を高める。								

授業計画			
回	開講日	授業内容	担当教員
1	4/17	オリエンテーション	羽田 行男
2	4/17	認知的複雑性理論から読み解く「やさしさ」とは	〃
3	5/9	「聞く」と「聴く」の差異について	〃
4	5/9	基本的傾聴スキル かかわり技法	〃
5	5/9	基本的傾聴スキル 観察技法	〃
6	5/9	基本的傾聴スキル 質問技法	〃
7	5/23	基本的傾聴スキル 言語コミュニケーション	〃
8	5/23	基本的傾聴スキル 非言語コミュニケーション	〃
9	5/23	中間のまとめ 振り返りと質疑応答	〃
10	5/23	感情の転移 陽性転移と陰性転移	〃
11	7/3	感情の転移 陽性逆転移と陰性逆転移	〃
12	7/3	交流分析 エゴグラムによる自己理解	〃
13	7/10	交流分析 交流分析による関係性理解	〃
14	7/10	交流分析 交流分析による関係性理解（ロールプレイ）	〃
15	7/17	まとめ 本講義のまとめ	〃

教科書	プリントを配布
参考図書	参考書は指定しない
予習・復習内容	予習：配布資料の下読みをする 復習：配布資料の再読し疑問点を抽出する
成績評価方法・基準	評価配分：小テスト（２回）：７０％ レポート１回：３０％
履修上の注意	なし
担当教員への連絡方法	事務室に伝言してください。

実務経験と授業科目との関連性	臨床心理士、公認心理士として教育相談機関に勤務した。臨床事例を踏まえながら人間の成長発達についての理解を深めることができる。
保健師助産師看護師学校養成所指定規則に定める別表の種類と教育内容 別表3 (看護師課程) 人間と生活・社会の理解	

看護学部看護学科 シラバス

授業科目	文化人類学								
担当教員	阿久津 昌三								
配当年次	1 年次	配当学期	前期	単位数	2 単位	必修・選択	選択	授業形態	講義
授業目標	文化人類学は、自己と他者、自文化と他文化との差異を探索しながら、エスノセントリズムの発想を脱して、自文化と他文化を理解しようとする学問である。本講義では、人間と文化、人と人のつながり（生殖、家族、親族、結婚）、人生と時間（儀礼）信仰と世界観、身体・病気・医療、人間と死について学ぶ。授業は講義、視聴覚教材の活用、アクティブ・ラーニング、リフレクションテストの実施により進めていく。								
学習目標	1. フィールドワークの方法を学び、人々の話を聞き、行動を観察しながら記録し、医療にかかわる行為のバックグラウンドとなる文化とは何かを知る。 2. ローカルな／グローバルな医療活動に携わるときに必要な文化人類学の知の技法を学ぶ。 3. 医療を多様な角度からとらえなおす医療人類学の最前線を学ぶ。								

		授業計画	
回	開講日	授業内容	担当教員
1	4/13	文化人類学と看護学	阿久津 昌三
2	4/20	家族①—家族概念と家族関係語彙	〃
3	4/27	家族②—生殖と親子	〃
4	5/11	家族③—結婚と親族	〃
5	5/18	ジェンダーとセクシュアリティ	〃
6	5/25	生業経済の諸類型（採集・狩猟、農耕、牧畜）	〃
7	6/1	コミュニティとアソシエーション	〃
8	6/8	民族と国家	〃
9	6/15	民族と紛争	〃
10	6/22	人生と通過儀礼①—通過儀礼と境界理論	〃
11	6/29	人生と通過儀礼②—儀礼の構造と理論	〃
12	7/6	宗教とコスモロジー①—呪術、宗教、科学	〃
13	7/13	宗教とコスモロジー②—憑依とトランス状態	〃
14	7/20	医療人類学①—病いと治療	〃
15	7/27	医療人類学②—生と死と再生	〃

教科書	波平恵美子編:文化人類学 [カレッジ版] 第3版 医学書院
参考図書	澤野美智子編:医療人類学を学ぶための60冊 2018年 明石書店
予習・復習内容	事後課題として基礎知識+リフレクションシートを配布します。
成績評価方法・基準	評価配分:課題 45% レポート 25% 期末試験 30%
履修上の注意	基本的には講義形式であるが、授業のなかに口頭発表の場を設ける。主体的に参加する。
担当教員への連絡方法	E-mail:sakutsu@shinshu-u.ac.jp

実務経験と授業科目との関連性	なし
保健師助産師看護師学校養成所指定規則に定める別表の種類と教育内容 別表 3 (看護師課程) 人間と生活・社会の理解	

看護学部看護学科 シラバス

授業科目	哲学 I									
担当教員	三谷 尚澄									
配当年次	1 年次	配当学期	前期	単位数	1 単位	必修・選択	選択	授業形態	講義	
授業目標	人間、生命、認識、存在、倫理、善悪、人権など科学では捉えられない概念について先人に学び、自分の価値観を自覚し、他者と比べ、より統一的なものとして、科学的思考の適応と限界を判断し、自律した社会人として、善き医療実践に結びつける力を養う。									
学習目標	1. 哲学的に重要な問題と真剣に向き合うことを通じて、虚心にことの真相をつきとめようとする視点・態度を獲得する。 2. 哲学的に重要な問題の批判的検討を通じて、他者の受け売りでない、自分なりの言葉で自分自身の思考を表現できるようにする。									
授業計画										
回	開講日	授業内容							担当教員	
1	4/13	「哲学すること」に会う							三谷 尚澄	
2	4/20	生の困難について							〃	
3	4/27	生きている理由							〃	
4	5/11	人間は考えたがってなどいない							〃	
5	5/18	おしまいの人間たち							〃	
6	5/25	悲しみについて							〃	
7	6/1	最大のニヒリズム							〃	
8	6/8	まとめ							〃	
教科書		三谷尚澄 著：若者のための〈死〉の倫理学 2013版 ナカニシヤ出版								
参考図書		参考書：授業中に指示する。								
予習・復習内容		毎回の授業終了時に指示する。								
成績評価方法・基準		評価配分：期末試験 100%								
履修上の注意		アクティブ・ラーニングを取り入れた形態で授業を進めるので、毎回のアクティビティへの参加が必須である。								
担当教員への連絡方法		E-Mail: nmitani@shinshu-u.ac.jp								
実務経験と授業科目との関連性			なし							
保健師助産師看護師学校養成所指定規則に定める別表の種類と教育内容 別表3 (看護師課程) 科学的思考の基盤										

看護学部看護学科 シラバス

授業科目	哲学Ⅱ									
担当教員	村上 靖彦									
配当年次	1 年次	配当学期	集中講義	単位数	1 単位	必修・選択	選択	授業形態	講義	
授業目標	看護実践、看護研究の重要なアプローチとなっている現象論的アプローチについて学ぶ。 フッサールの現象論的認識論、ハイデガー、メルロ・ポンティらの現象論的存在論について学び、病める人、苦悩する人のありのままを理解し、認識し、健康の意味、看護の本質を体系的にとらえる力を養う。									
学習目標	1. 看護実践を意識化する能力を身につける。 2. 看護実践を記述する能力を身につける。 3. 看護実践を分析する能力を身につける。									
授業計画										
回	開講日	授業内容							担当教員	
1	9/7	ナラティブ・メディスンの技法を用いて看護実践を意識化する能力を身につける。							村上 靖彦	
2	9/7	〃							〃	
3	9/7	〃							〃	
4	9/7	〃							〃	
5	9/8	現象学の技法を用いて看護実践を分析する能力を身につける。							〃	
6	9/8	〃							〃	
7	9/8	〃							〃	
8	9/8	〃							〃	
教科書		なし								
参考図書		リタ・シャロン他『ナラティブ・メディスンの原理と実践』北大路書房 村上靖彦『在宅無限大』医学書院								
予習・復習内容		追って指示する。								
成績評価方法・基準		評価配分：授業での議論への参加 20%、レポート課題 80%								
履修上の注意		なし								
担当教員への連絡方法		murakami@hus.osaka-u.ac.jp								
実務経験と授業科目との関連性		なし								
保健師助産師看護師学校養成所指定規則に定める別表の種類と教育内容 別表 3 （看護師課程） 科学的思考の基盤										

看護学部看護学科 シラバス

授業科目	臨床心理学								
担当教員	羽田 行男								
配当年次	1 年次	配当学期	後期	単位数	1 単位	必修・選択	必修	授業形態	講義
授業目標	本科目では、人の心や行動の問題に対して、心理学の知識と技術を用いて、その問題を軽減、解消するために援助することを目的とする。臨床心理学の基本的理論や研究法、発達理論、人格理論、心理査定法や各種心理療法について学習する。								
学習目標	1. 臨床心理学の諸理論についての知識を習得する。 2. 心理アセスメントの基礎について知識を習得し、基本的心理アセスメントを習得する。 3. 心理面接の基礎について知識を習得し、傾聴カウンセリングを軸とした面接技法を習得する。 4. 心理的地域援助について知識を習得し、コンサルテーションを軸とした援助技法を習得する。 5. 心理的研究調査法についての基本知識、スキルを習得する。								

授業計画			
回	開講日	授業内容	担当教員
1	10/3	オリエンテーション	羽田 行男
2	10/3	臨床心理学の概要 領域と分野について	〃
3	10/3	心理アセスメント 心理検査によるアセスメント	〃
4	10/3	心理アセスメント 面接法・観察法によるアセスメント	〃
5	10/24	心理面接 傾聴カウンセリングの基礎	〃
6	10/24	心理面接 傾聴カウンセリングの理論	〃
7	10/24	心理面接 傾聴カウンセリングの実際（ロールプレイ）	〃
8	10/24	中間のまとめ 振り返りと質疑応答	〃
9	11/7	事例研究 発達障害（小児）	〃
10	11/7	事例研究 発達障害（成人）	〃
11	11/7	事例研究 反応性愛着障害	〃
12	11/7	事例研究 選択性緘黙	〃
13	11/21	心理的地域支援 コンサルテーションとコーディネーション	〃
14	11/21	心理的研究調査法 客観的データの処理方法と統計の読み方	〃
15	11/21	まとめ 本講義のまとめ 質疑応答	〃

教科書	プリントを配布
参考図書	参考書は指定しない
予習・復習内容	予習：配布資料の下読みをする　復習：配布資料の再読し疑問点を抽出する
成績評価方法・基準	評価配分：小テスト（２回）：７０％　レポート１回：３０％
履修上の注意	なし
担当教員への連絡方法	事務室に伝言してください。

実務経験と授業科目との関連性	臨床心理士、公認心理士として教育相談機関に勤務した。臨床事例を踏まえながら人間の成長発達についての理解を深めることができる。
保健師助産師看護師学校養成所指定規則に定める別表の種類と教育内容 別表3 (看護師課程) 人間と生活・社会の理解	

看護学部看護学科 シラバス

授業科目	信州学								
担当教員	和田 恭良								
配当年次	1 年次	配当学期	後期	単位数	1 単位	必修・選択	選択	授業形態	講義
授業目標	健康県、長寿県である信州を、様々な面から考察し、またそこで営まれてきた人々の文化や生活（特に健康資源の開発と健康増進活動）のあり方を検討し、これからの地域看護活動、地域振興活動の展望を得る。								
学習目標	1. 信州の自然、地理・歴史を踏まえて人々の暮らしや知恵、そこに生まれた文化などを学ぶ。 2. 信州の生活を支える産業について学ぶ。 3. 健康長寿を支えてきた保健活動を学ぶ。								

授業計画			
回	開講日	授業内容	担当教員
1	9/30	信州の自然：県歌「信濃の国」をひも解き、名所、偉人を知るとともに、山岳県、海なし県といった信州の自然の特徴を考察する。信州の気候と風土、人と自然の共生の歴史について概説する。	和田 恭良
2	10/14	地理的特性：3000m級の山岳、火山、大きな河川、急峻な地形、盆地など信州の地理的な特性やそこに暮らす人々を襲った数々の災害について理解するとともに、食をはじめとする豊かな自然の恩恵について考える。	〃
3	10/28	信州の生活：雪深い北部県境地方、八ヶ岳周辺の高原地域、諏訪湖、盆地など地域ごとの人々の生活を農業と食文化を中心に考察する。	〃
4	11/11	信州の歴史：茅野市尖石遺跡の縄文のビーナス、和田峠の黒曜石、古事記に登場する諏訪大社、長野県・筑摩県の確執と南北対立など、古代から現在に至るまで、信州の歴史をたどり、人々の暮らしを考察する。	〃
5	11/25	信州の伝統文化：御柱祭り、ご開帳など、信州に古代から伝わる多くの祭りや信仰、方言など、それぞれの地域で暮らす人々について考察する。	〃
6	12/9	信州の交通・産業：信州の生活を支える産業・経済活動の現状等について概説する。	〃
7	12/23	健康長寿信州：世界でも有数の長寿国である日本の中で、トップクラスの平均寿命を誇る信州の健康長寿について、保健活動の歴史などを踏まえて概説する。	〃
8	1/13	信州の保健活動：健康長寿県となった要因とも考えられる減塩運動、食生活改善運動、保健補導員活動など、信州における保健活動について学ぶ。	〃

教科書	長野県立歴史館 信州を学ぶ（全３冊） 信濃毎日新聞社
参考図書	参考書は指定しない
予習・復習内容	なし
成績評価方法・基準	期末レポート１００％
履修上の注意	なし
担当教員への連絡方法	事務室に伝言してください。

実務経験と授業科目との関連性	長野県職員としての知見が講義内容の一部に入る。
保健師助産師看護師学校養成所指定規則に定める別表の種類と教育内容 別表3 (看護師課程) 人間と生活・社会の理解	

看護学部看護学科 シラバス

授業科目	音楽									
担当教員	北村 智佳子									
配当年次	1 年次	配当学期	後期	単位数	1 単位	必修・選択	選択	授業形態	講義	
授業目標	音楽は音と時間空間を司る芸術であると同時に心に癒しを与える。また脳の活性化にも有効であることが分かっている。看護、介護の現場でも有効活用できるよう楽譜から正しく音楽を導き出す読譜力を養い、正しい呼吸法で歌えるよう実技により習得する。また、地域における様々な活動の場で小児、地域住民、高齢者、障害者などとのコミュニケーションツールとしての音楽の活用について学ぶ。									
学習目標	1. シニア世代の愛唱歌を学ぶ。 2. 幼児～シニア世代とのコミュニケーション手段の一つとしてリトミック（音楽遊び）を学ぶ。 3. 読譜力を養う。 4. 「歌の国・信州」の背景（近代日本音楽史）を学ぶ。									
授業計画										
回	開講日	授業内容								担当教員
1	10/7	読譜力の構築、日本の童謡・唱歌の歴史、歌唱の実践、リトミックの実践								北村 智佳子
2	10/21	同上								〃
3	11/4	同上								〃
4	11/18	同上								〃
5	12/2	読譜力の構築、歌唱の実践、リトミックの実践、シニア世代との交流準備								〃
6	12/16	同上								〃
7	1/6	同上								〃
8	1/20	シニア世代との交流（実践）								〃
教科書		1. “唱歌と童謡を愛する会”編：愛唱名歌200 2. 講師作成テキスト及び配布資料								
参考図書		信濃毎日新聞社発行：音楽の信州（抜粋）								
予習・復習内容		毎回の授業時に提示する。								
成績評価方法・基準		・シニア世代との交流会出席は必須。やむを得ず欠席の場合は対応を検討。 ・評価配分：レポート70％：シニア世代との交流会についてのレポート提出。 筆記試験30％：読譜力（ソルフェージュ）問題、日本の童謡・唱歌についての問題。								
履修上の注意		リトミックの実践があるため、動きやすい服装、靴（上履き）にて参加のこと。 ヒールの高い靴、サンダル、スリッパ、ミニスカートは不可。 リトミックは、歌に合わせてスキップしたり、小走りで動いたり、しゃがんだりします。 サンダルなど、かかとのない靴は危険ですし、脱げるのが気になり自由に動けません。 また、正しい呼吸法を学ぶためにヒールの高い靴は適しません。								
担当教員への連絡方法		E-mail:c.k-yamaon@mountain.ocn.ne.jp								
実務経験と授業科目との関連性			デイサービスや子育て支援室にて、シニア世代や幼児に、音楽を用いて指導する経験から、音楽をコミュニケーションの手段として学生に伝えることが可能である。							
保健師助産師看護師学校養成所指定規則に定める別表の種類と教育内容 別表3（看護師課程） 人間と生活・社会の理解										

看護学部看護学科 シラバス

授業科目	異文化理解									
担当教員	伊原 巧									
配当年次	1 年次	配当学期	後期	単位数	2 単位	必修・選択	選択	授業形態	講義	
授業目標	ややもすれば、「異文化＝外国人・外国文化」、「異文化理解＝外国理解」と反射的に捉えられがちな異文化理解は、自分の所属する文化の価値観を絶対視するのではなく、自分の文化は多くの文化の中の 1 つにすぎないと相対化して認識することから始まる。差異に対する開かれた心を持ち、個別言語や個別文化の多様性や相対性を理解するとともに、多様な言語や文化を持つ人々と差別や偏見なしに共生するにはどうすればよいのかについて考察する。									
学習目標	1. 事象を相対化して認識できるようになる。 2. 文化とコミュニケーションについて理解できるようになる。 3. 認知・情意・行動の点において他者との関係が深まる。 4. 外国語と国際語の違いを理解できるようになる。									
授業計画										
回	開講日	授業内容								担当教員
1	10/2	本授業の目標と概要、授業の進め方、参考書、課題、成績・評価等に関する解説を行う。								伊原 巧
2	10/9	文化とは何か：異文化理解に関わる呼び方と、高等文化、一般文化								〃
3	10/16	文化とは何か：その構成要素とその特徴								〃
4	10/23	文化とは何か：上位(支配)文化と下位文化								〃
5	10/30	文化とは何か：自文化中心主義と文化相対主義								〃
6	11/6	文化とは何か：農耕文化と遊牧文化								〃
7	11/13	文化とは何か：文化一般と個別文化								〃
8	11/20	文化とは何か：個別文化の事例発表								〃
9	11/27	文化とコミュニケーション：コミュニケーションの構成要素、文化とコミュニケーション								〃
10	12/4	文化とコミュニケーション：母語、母国語、異言語、外国語、第二言語、国際語								〃
11	12/11	文化とコミュニケーション：EFL、ESL、EIL								〃
12	12/18	文化とコミュニケーション：EIL 文献の原書講読								〃
13	1/8	異文化理解とは何か：その内容と留意点								〃
14	1/15	異文化理解教育とは何か：異文化トレーニング								〃
15	1/22	異文化理解教育とは何か：異文化トレーニングの事例発表								〃
教科書		なし								
参考図書		1. 伊原巧 著：国際コミュニケーションのための英語教育研究 現代図書 2. 八代京子、他：異文化トレーニング 三修社								
予習・復習内容		授業中に指示をする。								
成績評価方法・基準		評価配分：定期試験 90%、2 回の事例発表点 10%								
履修上の注意		事例発表はグループで協力して行なうこと。								
担当教員への連絡方法		授業前後か、研究室（南館）へ。								
実務経験と授業科目との関連性		なし								
保健師助産師看護師学校養成所指定規則に定める別表の種類と教育内容 別表 3 （看護師課程） 人間と生活・社会の理解										

看護学部看護学科 シラバス

授業科目	保健ボランティア									
担当教員	宮越 幸代 田中 高政 宮澤 美津子									
配当年次	1年次	配当学期	通年	単位数	1単位	必修・選択	必修	授業形態	演習	
授業目標	地域の社会資源を活用しながら、人、社会、自然と直接関わるボランティア活動を通して、他者や社会との関り方や自分自身が役立つと感じ取り、人間として自然な温かい感情を培うとともに、地域や社会の構成員としての自覚を確認するだけでなく、相互に支え合うという意識の醸成を図り、就職に向けた将来の人生を設計する一助とする。また、救命救急法を学び、日常の救急場面に対応できる知識や技術を身につける。									
学習目標	1. 国内外で行われるボランティア活動の基礎知識、活動の原則、留意点を知り、各自およびグループで活動する準備をする。 2. 地域社会におけるボランティア活動を選び、計画書に基づき、実際に活動に参加する。 3. ボランティアの計画から発表会までの全体を通して、集団のルールやマナーを順守した行動をとる。 4. 活動を通してボランティアの責任や意味について考え、一市民として自覚したことを意見交換し、整理したことを説明する。 5. 保健ボランティアを行う上での課題について意見交換し、整理したことを説明する。									
授業計画										
回	開講日	授業内容							担当教員	
1	5/1	ボランティアの意義、関連する用語や組織、法規等（講義）、日赤救急法ガイダンス							宮越幸代・宮澤美津子	
2	5/8	「保健」の概念、多様な場における多様な市民、専門職者によるボランティア活動の理解と活動の原則（地域の理解、協調、社会への関心、社会貢献への意欲）（活動例の紹介と講義）							宮越幸代	
3	5/15・22	日赤救急法① 胸骨圧迫と人工呼吸（演習）							田中高政・宮澤美津子	
4	5/15・22	日赤救急法② AEDの基本的操作および一連の救命法（演習）							田中高政・宮澤美津子	
5	6/12	救急法の振り返り、ボランティア活動の提示（講義）、活動の必要性（意見交換）、グループの決定							宮越・田中・宮澤	
6	6/19	グループワーク（意見交換・活動計画の立案）								
7	7/3	活動計画の共有・意見交換・計画の修正（発表・意見交換）								
8	7/10	グループワーク（活動計画の修正・活動準備）								
9	9/29	活動進行および発表準備の確認・質疑応答								
10	10/6	グループワーク（発表の準備）							宮越 幸代 田中 高政 宮澤 美津子	
11	10/27	活動結果と発表内容の共有（発表・意見交換）・発表内容の修正								
12	11/10	グループワーク（発表の準備）								
13	11/17	グループ発表会①								
14	11/24	グループ発表会②								
15	12/1	学習のまとめ、保健ボランティアの課題								
教科書		プリントを配布します。また適宜、参考書を引用しますので詳しくは図書館で探し、考察などに活用してください。								
参考図書		1. 秦辰也. ボランティアの考え方. 岩波書店. 2. 渡辺一史. こんな夜更けにバナナかよ. 北海道新聞社. 3. D. ワーナー&サンダース. いのち・開発・NGO. 新評論. 4. 吉野源三郎. 君たちはどう生きるか. マガジンハウス.								
予習・復習内容		グループごとの活動と活動後の考察に必要な事前学習（各活動先ごとに必要な内容を担当教員と相談しながら探し、計画書や発表資料に明記する）。 活動の振り返りに適切な文献検討と発表におけるそれらの資料の活用を期待します。 実習とは異なるこの科目の学習目標を意識し、考察には体験したことを文献から裏づける、様々な視点で考えるなどグループで力を合わせて発表準備をしましょう。								
成績評価方法・基準		・活動計画の具体性、事前学習の適格性、実現可能性、提出期限を守るなど（30％）。 ・グループ発表の内容、質疑応答、態度など（40％）。 ・グループワークにおける参加度、貢献度、メンバーシップ、リーダーシップについてのメンバー間での「ピア評価」（30％）。								
履修上の注意		・ボランティア活動先の特性により、授業時間外、平日以外、公共交通機関使用などの条件があります。 ・活動先決定後の詳細な打ち合わせは、学生が直接活動先と行い、担当教員に結果を報告してください。 ・一市民としての責任、必要な報告・連絡・相談、マナーについては、開講期間を通じて常に自他を振り返りながら考えてみましょう。 ・服装や持ち物、教材、軽食費など活動先ごとに細やかな指定があるので、打ち合わせで必ず確認し厳守してください。								
担当教員への連絡方法		宮越：miyakoshi.sachiyo@shitoku.ac.jp 田中：tanaka.takamasa@shitoku.ac.jp 宮澤：miyazawa.mitsuko@shitoku.ac.jp								
実務経験と授業科目との関連性		宮越および田中はNP0法人およびJICA等での看護師として国内外でのボランティア活動経験があり、定期訓練や報告会への参加によって常に派遣要請に備えており、保健ボランティア実施中の危機管理や責任についても経験にもとづき具体的に指導できる。								
保健師助産師看護師学校養成所指定規則に定める別表の種類と教育内容 別表3 （看護師課程） 人間と生活・社会の理解										

看護学部看護学科 シラバス

授業科目	社会学								
担当教員	茅野 恒秀								
配当年次	1 年次	配当学期	前期	単位数	2 単位	必修・選択	選択	授業形態	講義
授業目標	社会学は、人と人とが関わりあうことで形作られ変化していく社会現象を、読み解こうとする学問である。本講義では、特に健康、病気、老い、死、医療、ケア、家族、コミュニティ、制度、格差等をキーワードに、社会学の成果や問いについて学ぶ。授業は講義、視聴覚教材の活用、グループワークや小テストの実施により進めていく。受講生には、社会学的なものの見方を身につけ、自分の日常生活や臨床実践を捉えなおす力を養う。								
学習目標	1. 社会学的な認識の枠組みを理解することができる。 2. 自らもその構成員である現代社会の成立基盤を理解することができる。 3. 医療従事者として身につけておくべき社会認識の方法を獲得することができる。								

授業計画			
回	開講日	授業内容	担当教員
1	4/8	社会を学ぶための学びとは	茅野 恒秀
2	4/15	自己、インタラクショ ン	〃
3	4/22	家族、親密圏	〃
4	4/29	教育、学校	〃
5	5/13	医療、福祉	〃
6	5/20	ジェンダー、セクシュアリティ	〃
7	5/27	メディア、情報	〃
8	6/10	世代、ライフコース	〃
9	6/17	労働、消費	〃
10	6/24	階層、格差	〃
11	7/1	社会問題、社会運動	〃
12	7/8	科学技術、環境	〃
13	7/15	文化、表象	〃
14	7/22	都市、コミュニティ	〃
15	7/29	グローバリゼーション、エスニシティ	〃

教科書	難波功士 著：広告で社会学 2018版 弘文堂
参考図書	参考書は指定しない
予習・復習内容	(予習) 毎回の授業にあたっては、教科書の該当章を読み込んでくること。 (復習) 授業内容を確認し、社会的な認識の枠組みが修得されているかを問う小レポートを定期的に課す。
成績評価方法・基準	評価配分：授業期間中の小レポート 50%、期末レポート 50%
履修上の注意	なし
担当教員への連絡方法	電子メール (chino@shinshu-u.ac.jp)

実務経験と授業科目との関連性	なし
----------------	----

保健師助産師看護師学校養成所指定規則に定める別表の種類と教育内容
別表3 (看護師課程) 人間と生活・社会の理解

看護学部看護学科 シラバス

授業科目	教育学								
担当教員	高柳 充利								
配当年次	1 年次	配当学期	後期	単位数	2 単位	必修・選択	選択	授業形態	講義
授業目標	本科目では、教育社会的な視点を取り入れ、以下の三点を軸に「生涯教育」と「教育的コミュニケーション」について実際のプランと技法を習得することを目的とする。1. 技術の進歩の著しい現代社会にあって、専門職として活躍する上で必要となる、生涯に渡る自己教育の意義と見通し。2. 成熟社会における一般市民にとっての学びの意義と可能性。3. 医療の現場に携わる専門職に必要な「伝える」「共感する」「習慣を再構築する」ためのアプローチ。以上を学生による発表やディスカッションを適宜取り入れながら講義形式で学ぶ。								
学習目標	1. 生涯にわたる自己教育の重要性について自分なりにイメージをもつことができる。 2. 他者への共感につながる人間洞察について自分なりの見通しをもつことができる。								
授業計画									
回	開講日	授業内容							担当教員
1	10/1	導入：授業の概要、評価の方針等についての説明							高柳 充利
2	10/8	生成と発達：人間が変化するとはどのようなことかについての説明							〃
3	10/15	変容と成長：人間の変化の二つの容態を具体的な事例から検討							〃
4	10/22	教育と関係性：教える-学ぶという関係性について考える							〃
5	10/29	教育と人生の前半のころ：人生の前半のころの課題から教育を考える							〃
6	11/5	教育と人生の後半のころ：人生の後半のころの課題から教育を考える							〃
7	11/12	教育と声：教育と声との関わりを考える							〃
8	11/19	青年期と教育：青年期特有の教育的課題について文化作品を通して考える							〃
9	11/26	中年期と教育：中年期特有の教育的課題について文化作品を通して考える							〃
10	12/3	老年期と教育：老年期特有の教育的課題について文化作品を通して考える							〃
11	12/10	思春期と教育：思春期特有の教育的課題について文化作品を通して考える							〃
12	12/17	教育と倫理：よい教育とは何かを歴史的に考察する							〃
13	1/7	ケースステディ：現代的事例から教育を学ぶ							〃
14	1/14	ケーススタディ：古典的名著から教育を学ぶ							〃
15	1/21	まとめ：授業の総括等							〃
教科書		教科書は使用しない。必要に応じてプリント等を配布する。							
参考図書		参考書は指定しない。必要に応じてスライド等で紹介する。							
予習・復習内容		事前学習：授業内容で示された事項について、日常的に好奇心をもって観察・思索すること。 事後学習：授業で扱われた事項について、生活のなかで読書や省察の機会をみつけ、思考を深めること。							
成績評価方法・基準		評価配分：期末試験 80%、課題提出 10%、口頭発表 10%の総合評価							
履修上の注意		筆記用具等を持参のこと。							
担当教員への連絡方法		takayana@shinshu-u.ac.jp							
実務経験と授業科目との関連性			なし						
保健師助産師看護師学校養成所指定規則に定める別表の種類と教育内容 別表3 (看護師課程) 科学的思考の基盤									

看護学部看護学科 シラバス

授業科目	日本国憲法・法学									
担当教員	関 良徳									
配当年次	2 年次	配当学期	前期	単位数	2 単位	必修・選択	選択	授業形態	講義	
授業目標	日本国憲法の全体像は、基本的人権と統治機構の2つに大別される。本科目では、日本国憲法の基礎的知識、とりわけ基本的人権の内容と意義、統治機構の基本原則と司法権・違憲審査制の理解を目的とする。基本概念・判例などの基礎的知識の獲得を大前提に、それらの知識を活用して、社会における多様な問題を憲法や法律との関わりから捉え、自らの言葉で発言できる力を身に付ける。									
学習目標	1. 憲法で保障されている基本的人権について理解する。 2. 基本的人権が社会の中でどのように保障されているのかを具体的に理解する。 3. 人権や権利に関わる紛争を防ぐための立法や行政の役割について理解する。 4. 人権や権利に関わる紛争を解決する司法の役割について理解する。 5. 人権侵害を防ぐための違憲立法審査権について理解する。									
授業計画										
回	開講日	授業内容							担当教員	
1	4/10	個人の尊厳と自己決定権について説明する。							関 良徳	
2	4/17	消費生活における契約の自由と立法・行政・司法の役割について概説する。							〃	
3	4/24	消費者保護のための立法・行政・司法の役割について解説を行う。							〃	
4	5/1	医療場面での個人の尊厳にかかわる事例の検討（模擬裁判）を行う。							〃	
5	5/8	家族法と法の下の平等について概説する。							〃	
6	5/15	児童虐待と子どもの人権及び行政の役割について説明する。							〃	
7	5/22	子どもの人権と少年法の役割について解説を行う。							〃	
8	5/29	子どもの人権にかかわる事例の検討（模擬裁判）を行う。							〃	
9	6/5	犯罪と刑罰にかかわる人権保障について説明を行う。							〃	
10	6/12	裁判員制度と司法の役割について解説する。							〃	
11	6/19	医療にかかわる法の役割と安楽死・尊厳死について概説する。							〃	
12	6/26	医療場面における犯罪事例の検討（模擬裁判）を行う。							〃	
13	7/3	子の出生に関わる法の役割について説明する。							〃	
14	7/10	労働にかかわる人権保障と立法・行政・司法の役割について解説する。							〃	
15	7/17	憲法による人権保障について総括的な説明を行う。							〃	
教科書		指定しない。								
参考図書		1. 安念潤司 他著：論点 日本国憲法 第2版 東京法令出版 2. 宇賀克也 他編：ポケット六法 有斐閣								
予習・復習内容		予習と復習のための課題を授業時に配布し、次回授業時に提出すること。								
成績評価方法・基準		評価配分：期末試験 100%								
履修上の注意		毎時間出席するとともに、日頃から復習を怠らないように注意して下さい。								
担当教員への連絡方法		e-mail yosseki@shinshu-u.ac.jp								
実務経験と授業科目との関連性		なし								
保健師助産師看護師学校養成所指定規則に定める別表の種類と教育内容 別表3 （看護師課程） 科学的思考の基盤										

看護学部看護学科 シラバス

授業科目	自然科学の基礎								
担当教員	松山 敏彦 松岡 樂								
配当年次	1 年次	配当学期	前期	単位数	2 単位	必修・選択	必修	授業形態	講義
授業目標	医療現場や介護現場で必要となる数学、生物、物理、化学の基礎について、高大連携科目として学ぶ。 (オムニバス方式／全15回) 【松岡樂 数学／4回】 「分数」、「小数」、「割合」、「速さ」、「濃度」、「複数の値の関係」、「色々な単位」、図やグラフの「数量関係」について看護の現場で必要となる内容を学ぶ。 【松山敏彦 理科（生物・物理・化学）／11回】 生物では、「細胞の成り立ち」、「有性生殖」、「遺伝の規則性」について看護の現場で必要となる基本的なことを確認する。物理では、「力の働き」、「圧力」、「力の法則性」、「熱の働き」について看護の現場で必要となる基本的なことを学ぶ。化学では、「身の回りの物質」、「物質の成り立ち」、「水溶液」、「酸とアルカリ、中和」について看護の現場で必要となる基本的なことを学ぶ。								
学習目標	1. 生物：高校までの生物の基礎的内容を理解して、大学の理系科目の学習準備性を高める。 2. 化学：高校までの化学の基礎的内容を理解して、大学の理系科目の学習準備性を高める。 3. 物理：高校までの物理の基礎的内容を理解して、大学の理系科目の学習準備性を高める。 4. 数について理解を深める。								

授業計画			
回	開講日	授業内容	担当教員
1	4/7	生物の特徴：細胞の成り立ちと機能、細胞分裂、生命活動とエネルギー	松山 敏彦
2	4/14	遺伝子とその働き：生物と遺伝子、DNAと遺伝情報、たんぱく質の合成	〃
3	4/21	体内環境の維持①：ホメオスタシス、自律神経	〃
4	4/28	体内環境の維持②：ホルモン、免疫	〃
5	5/12	物質の構成：身の回りの物質の成分、原子の構造、元素の周期表、化学結合	〃
6	5/19	物質の変化：分子量と物質質量、水溶液の濃度、化学反応式	〃
7	5/26	酸と塩基：水素イオン濃度とpH、中和反応、酸化と還元	〃
8	6/9	物体の運動とエネルギー：速度、加速度、落下運動	〃
9	6/16	運動の法則：力とは、運動の法則、力学的エネルギー	〃
10	6/23	熱と波：絶対温度、熱量の保存、身の回りの波の現象	〃
11	6/30	電気と磁気：電流と抵抗、電流がつくる磁場	〃
12	7/7	「分数」、「小数」について学習する。	松岡 楽
13	7/14	「割合」、「速さ」、「濃度」について学習する。	〃
14	7/21	「複数の値の関係」、「いろいろな単位」について学習する。	〃
15	7/28	図やグラフの「数量関係」について学習する。	〃

教科書	教科書は使用しない。 理科：「テキスト」と「ワークシート」を配布する。 数学：毎回プリントを配布する。
参考図書	参考書は指定しない。
予習・復習内容	理科：「テキスト」と講義に基づき、毎回「ワークシート」を完成させる。 数学：プリント内に記載されている演習問題を解く。
成績評価方法・基準	定期試験 100% 理科：ワークシートの中から出題する 数学：演習問題の中から出題する。
履修上の注意	理科：完成した「ワークシート」を各自ファイリングして定期試験に備える。 数学：毎回配られるプリントをよく読んで理解すること。
担当教員への連絡方法	南館事務室に伝言してください。

実務経験と授業科目との関連性	なし
保健師助産師看護師学校養成所指定規則に定める別表の種類と教育内容 別表 3 (看護師課程) 科学的思考の基盤	

看護学部看護学科 シラバス

授業科目	情報リテラシー								
担当教員	熊本 圭吾								
配当年次	1 年次	配当学期	後期	単位数	2 単位	必修・選択	選択	授業形態	演習
授業目標	コンピュータを操作し必要な情報を得て目指す作業を行う知識と能力、いわゆる「情報リテラシー」は、看護の分野においても今や必須である。この科目では、統計処理を含む数値データの分析や電子的に表現を行う上で必要となる基礎知識と手法を学ぶ。また公的統計情報や学術情報など多種多様な情報を適切かつ安全に利用し運用するための基礎的な知識やセキュリティについても学習する。								
学習目標	1. コンピュータやインターネットを利用する上での基本的な注意事項が理解できる。 2. インターネットなどを利用して公的統計情報などの情報を集めることができる。 3. コンピュータなどを利用して基礎的な数値データの処理や保健指標について理解できる。 4. コンピュータなどを利用して文書やプレゼンテーションなどで表現できる。								
授業計画									
回	開講日	授業内容							担当教員
1	9/28	コンピュータの基礎, Windowsの基本操作							熊本 圭吾
2	10/5	インターネット, Web, 電子メールの基礎							〃
3	10/12	情報検索と文献検索データベース利用の基礎							〃
4	10/19	情報安全管理の基礎							〃
5	10/26	情報運用のモラル							〃
6	11/2	数値データ分析(1): 表計算ソフトの基礎							〃
7	11/9	数値データ分析(2): データ分析の基礎							〃
8	11/16	数値データ分析(3): 記述統計							〃
9	11/30	数値データ分析(4): 推測統計 1							〃
1 0	12/7	数値データ分析(5): 推測統計 2							〃
1 1	12/14	数値データ分析(6): 保健統計の基礎							〃
1 2	12/21	文書の作成(1) 文書作成の基礎							〃
1 3	1/4	文書の作成(2) 文書の体裁							〃
1 4	1/18	プレゼンテーション(1) プレゼンテーションの基礎							〃
1 5	1/25	プレゼンテーション(2) プレゼンテーション資料作成の基礎							〃
教科書	1. Office基礎と情報モラル. noa出版 2. 上藤一郎, 西川浩昭, 朝倉真粧美, 森本栄一. データサイエンス入門. オーム社								
参考図書	なし								
予習・復習内容	電子媒体による事前事後の演習課題を課す。								
成績評価方法・基準	評価配分: 期末試験 5 0 %、演習課題 5 0 %								
履修上の注意	授業では、コンピュータやアプリケーションソフトウェア、ネットを利用する上での基本的な事項と社会常識の理解が中心となる。PCやソフトウェア操作解説の際はPCを持参して受講することが望ましいが、操作の習熟は、授業時間外の演習課題で各自で行う。								
担当教員への連絡方法	E-mail:kumamoto.keigo@shitoku.ac.jp								
実務経験と授業科目との関連性			学業上、業務上、情報機器と情報通信を利用し続けてきた。これまでの勤務で部署内のサーバ管理、ネットワーク管理の担当経験を有する。以上から学生の学業上の必要性に即し実際的な内容を教授することができる。						
保健師助産師看護師学校養成所指定規則に定める別表の種類と教育内容									
別表 3 (看護師課程)			科学的思考の基盤						
別表 1 (保健師課程)			保健統計学						

看護学部看護学科 シラバス

授業科目	体育（実技）								
担当教員	藤田 育郎								
配当年次	1 年次	配当学期	前期	単位数	1 単位	必修・選択	必修	授業形態	実験・実習
授業目標	全人的な人間形成に必要な身体運動に関する科学的な知識と、筋・心肺機能についての特性を理解し、それぞれの機能の維持や向上を図るための基本的な知識を身につけ、実技を行う。								
学習目標	1. 健康や体力の意義について理解し、それらを維持・向上させるための実践力を身につけることができる。 2. 各種の運動を通して、チーム医療に通じるコミュニケーションやチームワークの能力を養うことができる。								

授業計画			
回	開講日	授業内容	担当教員
1	4/9	オリエンテーション：授業の進め方等について	藤田 育郎
2	4/16	体ほぐしの運動①コミュニケーションゲーム	〃
3	4/23	体ほぐしの運動②用具を用いた手軽な運動	〃
4	4/30	体ほぐしの運動③軽快な音楽を使用した運動	〃
5	5/7	ネット型球技①プレルボール	〃
6	5/14	ネット型球技②シットイングバレーボール	〃
7	5/21	ネット型球技③ソフトバレーボール	〃
8	5/28	ゴール型球技①アルティメット	〃
9	6/11	ゴール型球技②タグラグビー	〃
10	6/18	ゴール型球技③ブラインドサッカー	〃
11	6/25	ゴール型球技④フロアホッケー	〃
12	7/2	ターゲット型スポーツ①ドッジビー	〃
13	7/9	ターゲット型スポーツ②ディスクゴルフ	〃
14	7/16	ターゲット型スポーツ③ポッチャ	〃
15	7/30	授業のまとめ	〃

教科書	適宜資料を配布する
参考図書	適宜資料を配布する
予習・復習内容	毎回の授業終了時に予習・復習内容を提示する。
成績評価方法・基準	期末試験：１００％
履修上の注意	運動に適した服装を準備すること。
担当教員への連絡方法	ifujita@shinshu-u.ac.jp

実務経験と授業科目との関連性	なし
----------------	----

保健師助産師看護師学校養成所指定規則に定める別表の種類と教育内容
別表 3 (看護師課程) 人間と生活・社会の理解

看護学部看護学科 シラバス

授業科目	体育学							
担当教員	田邊 愛子							
配当年次	1 年次	配当学期	後期	単位数	1 単位	必修・選択	必修	授業形態 講義
授業目標	ヒトの身体がどのような過程を経て大人へと成長していくかを理解することは重要なことである。そこでは単に遺伝的な素質が変容する過程としての変化ではなく、どのように才能を開花させるか、といった視点による発育発達理解が重要となる。そこで本講義では、基本的な運動生理学を学習したうえで、成人以降の老化と体力や運動能力などの関連を理解するとともに、体力と遺伝的要因や運動の実践の有無など後天的要因との関連についても学習する。							
学習目標	1. 健康と運動についての基礎的知識を学ぶ。 2. ヒトの発育発達および加齢における身体変化に応じて、幅広い視点から健康に関わる分野を理解する。							

授業計画			
回	開講日	授業内容	担当教員
1	9/29	日本の健康づくりのための運動基準と指針	田邊 愛子
2	10/6	発育発達における各段階での運動処方	〃
3	10/13	生活習慣病予防と運動処方	〃
4	10/20	ウォーミングアップとストレッチングの基礎理論	〃
5	10/27	運動と呼吸・循環・骨格筋	〃
6	11/10	ロコモティブシンドロームと運動処方（実践含む）	〃
7	11/17	効果的なトレーニングとは 有酸素運動と無酸素運動（実践含む）	〃
8	11/24	レジスタンストレーニングの基礎理論（実践含む）	〃
9	12/1	ウォーキングの理論と実践（実践含む）	〃
10	12/8	エネルギー消費と基礎代謝	〃
11	12/15	運動処方における性差	〃
12	12/22	体力と遺伝的要因	〃
13	1/5	運動時の水分補給と体温調節	〃
14	1/12	障害予防のためのコンディショニング概論	〃
15	1/19	講義全体のまとめ	〃
教科書		授業内で必要に応じてプリント等を配布する。	
参考図書		彼末一之, 能勢博編集, やさしい生理学, 南江堂	
予習・復習内容		事前課題として授業に適応したプリント等を配布する。	
成績評価方法・基準		評価配分：授業内レポート50%、期末レポート50%	
履修上の注意		実技も含めた授業展開となります。その際は運動のできる服装で挑んでください。	
担当教員への連絡方法		事務室を通す	

実務経験と授業科目との関連性	健康運動指導士・ヘルスケアトレーナーとして病院ほかNP0法人等での運動指導経験を有する。幅広い年代への運動について理論と実践と交えて伝えることで、学生にはより深い理解が可能となる。
保健師助産師看護師学校養成所指定規則に定める別表の種類と教育内容 別表3 （看護師課程） 人間と生活・社会の理解	

看護学部看護学科 シラバス

授業科目	英語 I								
担当教員	奥村 信彦								
配当年次	1 年次	配当学期	前期	単位数	1 単位	必修・選択	必修	授業形態	講義
授業目標	諸外国の保健・医療の専門職と交流、協力できる人材を育成する上で不可欠な能力である、英語の受信・発信力と異文化対応力を育成するために、英文を読む力と書く力を培うと共に、比較文化的視点から自文化と異文化への気づきを高めることによって、国際的マインドを培う。 この目標を達成するために、日本人と欧米人が発想、言語、アイデンティティ、笑い、精神性等をどのように理解しているか、各分野における違いについて書かれた英文を読ませ、英文読解力を高める。次に、各分野で理解した日本と欧米の違いに対する対応法を自分の立場から英語で書かせ、英作文力と異文化対応力を高める。								
学習目標	1. 国際交流するのに必要な、英文読解力と英作文力並びに異文化対応力が高まる。								

授業計画			
回	開講日	授業内容	担当教員
1	4/9	本授業の目標と概要、使用するテキスト、授業の進め方、課題、成績・評価等に関する解説を行う。	奥村 信彦
2	4/16	Chapter 1を読み、挨拶に見る日欧の発想の違いを明らかにする。違いに対する対応法を200字以上の英語で書いてきて次時に提出する。	〃
3	4/23	Chapter 2を読み、日英語の難易度の違いを明らかにする。違いに対する対応法を200字以上の英語で書いてきて次時に提出する。	〃
4	4/30	Chapter 3を読み、日本人と西欧人のアイデンティティの違いを明らかにする。違いに対する対応法を200字以上の英語で書いてきて次時に提出する。	〃
5	5/7	Chapter 4を読み、アルファベットと漢字の違いを明らかにする。違いに対する対応法を200字以上の英語で書いてきて次時に提出する。	〃
6	5/14	Chapter 5を読み、日本人と西欧人の笑いの違いを明らかにする。違いに対する対応法を200字以上の英語で書いてきて次時に提出する。	〃
7	5/21	Chapter 6を読み、アメリカ人と日本人の精神性を明らかにする。違いに対する対応法を200字以上の英語で書いてきて次時に提出する。	〃
8	5/28	Chapter 7を読み、仏教と神道と儒教の違いを明らかにする。違いに対する対応法を200字以上の英語で書いてきて次時に提出する。	〃
9	6/11	Chapter 8を読み、日本人とアメリカ人の縮みの文化に対する違いを明らかにする。違いに対する対応法を200字以上の英語で書いてきて次時に提出する。	〃
10	6/18	Chapter 9を読み、キリスト教と仏教の死後の世界観の違いを明らかにする。違いに対する対応法を200字以上の英語で書いてきて次時に提出する。	〃
11	6/25	Chapter 10を読み、現代と将来の少子高齢化社会との違いを明らかにする。違いに対する対応法を200字以上の英語で書いてきて次時に提出する。	〃
12	7/2	Chapter 11を読み、日本と西洋の右と左の捉え方の違いを明らかにする。違いに対する対応法を200字以上の英語で書いてきて次時に提出する。	〃
13	7/9	Chapter 12を読み、西洋の足の文化と日本の手の文化の違いを明らかにする。違いに対する対応法を200字以上の英語で書いてきて次時に提出する。	〃
14	7/16	Chapter 13を読み、西洋と日本の労働観の違いを明らかにする。違いに対する対応法を200字以上の英語で書いてきて次時に提出する。	〃
15	7/30	Chapter 14を読み、日本の西洋化と日本文化の違いを明らかにする。違いに対する対応法を200字以上の英語で書いてきて指定する日までに提出する。	〃

教科書	石井孝之 他編著：日英おもしろ文化比較 朝日出版社
参考図書	1. 石井敏他 他編著：はじめて学ぶ異文化コミュニケーション -- 多文化共生と平和構築に向けて 有斐閣 2. 原沢伊都夫 著：異文化理解入門 研究社 3. 松本美江 著：改訂版 英語で日本紹介ハンドブック アルク
予習・復習内容	教科書による当該授業の予習・復習、レポート課題
成績評価方法・基準	評価配分：期末筆記試験（30％）とレポート提出（70％）
履修上の注意	英語のレポートを毎回確実に提出して下さい。
担当教員への連絡方法	E-mail: okumura.nobuhiko@shitoku.ac.jp

実務経験と授業科目との関連性	高等学校および高等専門学校での教職ならびにテキストの分担執筆の経験を授業に生かすことができる。
保健師助産師看護師学校養成所指定規則に定める別表の種類と教育内容 別表 3 (看護師課程) 人間と生活・社会の理解	

看護学部看護学科 シラバス

授業科目	医学英語Ⅰ									
担当教員	奥村 信彦									
配当年次	1 年次	配当学期	後期	単位数	1 単位	必修・選択	必修	授業形態	講義	
授業目標	初めて医学英語に接する医学・医療技術系の大学生が、専門的な医学英語への橋渡しとなる基礎的な医学英語を理解する力を培う。 この目標を達成するために、医学・医療の基本である人体の主要な組織や器官や機能について解説した専門図書を読むことによって、その内容、及びそれぞれの医学用語を理解すると共に、日常英語とは異なる医学英語の特徴、特にほとんどがギリシャ語、ラテン語からの借入である医学用語特有の構成パターンを学び、医学英語に慣れることを目指す。									
学習目標	1. 医学英語が理解できるとともに、基礎的な医学英語が読めるようになる。									

授業計画			
回	開講日	授業内容	担当教員
1	10/1	本授業の目標と概要、使用するテキスト、授業の進め方、課題、成績・評価等に関する解説を行う。	奥村 信彦
2	10/8	Chapter 1 The Human Body	〃
3	10/15	Chapter 2 The Skeletal Systemと人体に関する単語テスト	〃
4	10/22	Chapter 3 The Muscular Ststemと骨格系に関する単語テスト	〃
5	10/29	Chapter 4 The Circulartory Systemと筋肉系に関する単語テスト	〃
6	11/5	Chapter 4 The Circulartory System	〃
7	11/12	Chapter 6 The Respiratory Systemと循環系に関する単語テスト	〃
8	11/19	Chapter 7 The Digestive Systemと呼吸器系に関する単語テスト	〃
9	11/26	Chapter 7 The Digestive System	〃
10	12/3	Chapter 9 The Nervous Systemと消化器系に関する単語テスト	〃
11	12/10	Chapter 9 The Nervous System	〃
12	12/17	Chapter 10 The Sense Organsと神経系に関する単語テスト	〃
13	1/7	Chapter 10 The Sense Organs	〃
14	1/14	Chapter 13 The Aging and the end of lifeと感覚器官に関する単語テスト	〃
15	1/21	Chapter 13 The Aging and the end of life	〃
教科書		清水雅子 著：医療従事者のための医学英語入門 講談社	
参考図書		瀬谷幸男 他著：医療・看護・歯科・福祉英語基本用語用例集 南雲堂	
予習・復習内容		教科書による当該授業の予習・復習、英単語テストの準備・復習	
成績評価方法・基準		評価配分：期末筆記試験（60％）、単語テスト（40％）	
履修上の注意		予習を必ず行うとともに、各チャプター後半の「医学英語の常識」も読んでください。	
担当教員への連絡方法		E-mail: okumura.nobuhiko@shitoku.ac.jp	

実務経験と授業科目との関連性	高等学校および高等専門学校での教職ならびにテキストの分担執筆の経験を授業に生かすことができる。
保健師助産師看護師学校養成所指定規則に定める別表の種類と教育内容 別表 3 (看護師課程) 人間と生活・社会の理解	

看護学部看護学科 シラバス

授業科目	中国語								
担当教員	張 勇								
配当年次	1年次	配当学期	後期	単位数	2単位	必修・選択	選択	授業形態	講義
授業目標	中国語では、国際化しつつある地域の特性を踏まえ、異文化を理解しつつ医療現場に対応するために中国語の基礎を学ぶ。 目標：①中国語の基礎を理解できる。②中国語による簡単な会話ができる。③異文化に触れ、国際社会に関心を寄せることができる。 講義内容は、発音の話、辞書の引き方を解説し、基本的な中国語文を覚えることを中心に、基本文法の理解を学ぶ。 また、中国語表現に関する日本と中国の違いや文化の違い等をビデオ等を利用しつつ映像などとともに紹介する。								
学習目標	1. 現代中国の基礎知識 2. 中国語の基礎を学ぶ 3. 自己紹介とあいさつ 4. 日常会話 5. 中国の医療事情								
授業計画									
回	開講日	授業内容							担当教員
1	10/1	オリエンテーション 異文化理解について							張 勇
2	10/8	東西健康観・身体観、中国事情について							〃
3	10/15	自己紹介 名前とあいさつ							〃
4	10/22	中国語とは 中国語の歴史、文字改革							〃
5	10/29	発音、ピンイン、声調（四声）							〃
6	11/5	発音、ピンイン、声調（四声）							〃
7	11/12	発音、ピンイン、声調（四声）							〃
8	11/19	中国漢詩の朗読 中国語歌							〃
9	11/26	季節、生活用語							〃
10	12/3	身体部位、医療の用語							〃
11	12/10	基礎文法、作文など							〃
12	12/17	旅行、買い物などの会話実践							〃
13	1/7	漢方薬とは？ 按摩・推拿について							〃
14	1/14	模擬テスト							〃
15	1/21	模擬テストと解答							〃
教科書		張淑華 編：日常会話で学ぶ 初級中国語 ほおずき書籍							
参考図書		医療会話資料配布							
予習・復習内容		なし							
成績評価方法・基準		評価配分：期末試験 100%							
履修上の注意		なし							
担当教員への連絡方法		E-mail：zhang.yong@u-nagano.ac.jp							
実務経験と授業科目との関連性			なし						
保健師助産師看護師学校養成所指定規則に定める別表の種類と教育内容 別表3 （看護師課程） 人間と生活・社会の理解									

看護学部看護学科 シラバス

授業科目	スペイン語								
担当教員	橋本 エリサ ルイス アントニオ ペラルタ ミランダ								
配当年次	1 年次	配当学期	後期	単位数	2 単位	必修・選択	選択	授業形態	講義
授業目標	スペイン語は現在、世界の 20 ヶ国の公用語として使用されている。スペイン及びメキシコやコスタリカ等の中央アメリカと南米、赤道ギネアとアメリカ合衆国でも話されている地域がある。スペイン語には母音が日本語と同じように a, e, i, o, u と五つあり、発音は日本語に近く読み方もアルファベット通りであるため、日本人にとっては学びやすい言語である。この科目では基本的な文法と簡単なコミュニケーション能力の習得をめざす。ビデオ映像も利用しつつ基本的スペイン語能力を獲得し、異文化理解に基づき国際感覚を育成することをめざす。言葉の歴史的背景やそれぞれの国々の文化を学び、人生を豊かにする。								
学習目標	1. スペイン語圏の文化や考え方を理解し、国際感覚を持つことをできるようにする。 2. スペイン語での日常コミュニケーションができるようになる。 3. 自己紹介から始め、大学や家での日々の生活について、正しいスペイン語を使って口頭でも筆記でも表現できるようになる。 4. この授業は基本的文法の習得が目的です。受信だけではなく発信にも使えるような文法力を習得するのが具体的なねらいです。日常会話も取り入れて練習します。 5. スペイン語圏の国々の文化的背景に触れながら進めていきます。								
授業計画									
回	開講日	授業内容						担当教員	
1	9/30	ガイダンス, スペイン語はどんな言語						橋本 エリサ	
2	10/7	アルファベットの発音, あいさつ						〃	
3	10/14	名詞, 男性名詞, 女性名詞, 冠詞, 定冠詞, 不定冠詞						〃	
4	10/21	職業, 国籍の形容詞						〃	
5	10/28	主語人称代名詞, スペイン語の BE 動詞 : SER (自己紹介)						ルイス ミランダ	
6	11/4	BE 動詞 SER, 出身地について						〃	
7	11/11	時間の表現						〃	
8	11/18	動詞 TENER 家族について						〃	
9	11/25	動詞 HABER						〃	
10	12/2	動詞 ESTAR						〃	
11	12/9	規則動詞 Ar , Er . Ir (直接法現在形)						〃	
12	12/16	規則動詞 Ar , Er . Ir (直接法現在形)						〃	
13	12/23	不規則動詞 Ir 、 Querer						橋本 エリサ	
14	1/6	動詞 Gustary Doler						〃	
15	1/13	総復習, 自己紹介の発表						〃	
教科書		Imagínatelo! イラストで楽しもうスペイン語. 筆者 Masako Ura , Francisco Partida							
参考図書		プログレッシブスペイン語辞典第2番、カレッジエディション. 筆者 Tsuzumi Naoya . 小学館 2016 年							
予習・復習内容		各授業には予習と復習をして臨んでください。							
成績評価方法・基準		評価配分 : 期末試験 50 % 小テスト・単語テスト・提出物 50 %							
履修上の注意		教科書と辞典は必ず毎週授業に持参してください。							
担当教員への連絡方法		E-mail mioeslawe123@Yahoo.co.jp							
実務経験と授業科目との関連性		なし							
保健師助産師看護師学校養成所指定規則に定める別表の種類と教育内容 別表 3 (看護師課程) 人間と生活・社会の理解									

看護学部看護学科 シラバス

授業科目	ハングル								
担当教員	高橋 比紗子								
配当年次	1 年次	配当学期	後期	単位数	2 単位	必修・選択	選択	授業形態	講義
授業目標	ハングルは朝鮮半島を中心に話されている言葉で、文法や単語など日本語と共通する部分の多い言語である。そのため日本人にとって最も簡単で学びやすい外国語と言われている。ハングルの文字や仕組みや発音、基礎的な文法を習得した上で、最終的には日常的な会話が可能になるレベルを目指す。多くの学生に発言する機会を与え、対話形式で進めていくことで、積極的に授業に参加できる環境づくりを目指す。								
学習目標	1. 積極的に学習する姿勢 2. 異文化言語に興味を持つ								

授業計画			
回	開講日	授業内容	担当教員
1	9/28	韓国語について・ハングル文字の仕組み・基本母音	高橋 比紗子
2	10/5	基本子音・複合母音	〃
3	10/12	パッチム・復習・簡単な挨拶	〃
4	10/19	発音の変化・基礎編終了	〃
5	10/26	実践編・自己紹介	〃
6	11/2	代名詞・位置名詞	〃
7	11/9	助詞	〃
8	11/16	指定詞・存在詞	〃
9	11/30	用言（動詞・形容詞）	〃
10	12/7	数詞・曜日	〃
11	12/14	時間	〃
12	12/21	用言の否定形	〃
13	1/4	連用形・会話体（～아요, ～어요, ～해요）	〃
14	1/18	過去形	〃
15	1/25	復習	〃
教科書		プリントを配布する。	
参考図書		参考書は指定しない。	
予習・復習内容		授業で配布されるプリントに目を通すこと。	
成績評価方法・基準		評価配分：授業に取り組む姿勢・態度 30% 授業内レポート 30% 期末試験 40%	
履修上の注意		学習意欲を持って臨むこと。	
担当教員への連絡方法		本館事務室に伝言してください。	

実務経験と授業科目との関連性	なし
保健師助産師看護師学校養成所指定規則に定める別表の種類と教育内容 別表 3 （看護師課程） 人間と生活・社会の理解	

看護学部看護学科 シラバス

授業科目	英語Ⅱ								
担当教員	奥村 信彦								
配当年次	2 年次	配当学期	前期	単位数	1 単位	必修・選択	必修	授業形態	講義
授業目標	保健・医療系の大学でコメディカルを目指す学生が、専門的な医療英語への橋渡しとなる基礎的な医療英語を、実際の保健・医療現場や諸外国の専門職との国際交流や協力の場で使えるように、生きた医療英語の総合的なコミュニケーション能力を培う。 この目標を達成するために、看護に焦点をあて、医療系特有のトピックを扱った英文を読ませると共に、それらの英文を用いて口頭でのコミュニケーションができるようにリスニング力とスピーキング力を高める。								
学習目標	1. 看護・医療の現場において必要とされる英語の基本的コミュニケーションスキルを身につける。 2. ゆっくりと話された患者の英語を聞き、内容を理解することができる。 3. 医療英語の基本的な表現を用いて、患者に指示、依頼などを伝えることができる。 4. 医療業務に関する基礎的な英文を読み、その内容を正確に理解できる。								

授業計画			
回	開講日	授業内容	担当教員
1	4/7	本授業の目標と概要、使用するテキスト、授業の進め方、課題、成績・評価等に関する解説を行う。	奥村 信彦
2	4/14	Unit 1 First Visit to a Hospital 患者の来院に対応する際のコミュニケーションスキルを学ぶ。課題を課す。	〃
3	4/21	Unit 2 How to Fill in a Registration Form 課題の確認に続き、初診受付の際のコミュニケーションスキルを学ぶ。課題を課す。	〃
4	4/28	Unit 3 Let's Ask about Mr. Brown's Daily Activities 課題の確認に続き、生活習慣を尋ねる際のコミュニケーションスキルを学ぶ。課題を課す。	〃
5	5/12	Unit 4 Mr. Brown's Symptoms 課題の確認に続き、問診の際のコミュニケーションスキルを学ぶ。課題を課す。	〃
6	5/19	Unit 5 Medical Ckeckup 1 課題の確認に続き、脈拍、血圧、体重の測定の際のコミュニケーションスキルを学ぶ。課題を課す。	〃
7	5/26	Unit 6 Medical Ckeckup 2 課題の確認に続き、採血、採尿の際のコミュニケーションスキルを学ぶ。課題を課す。	〃
8	6/2	Unit 7 Mr. Brown's Diagnosis 課題の確認に続き、診断の際のコミュニケーションスキルを学ぶ。課題を課す。	〃
9	6/9	Unit 8 Mr. Anderson's Sysmptoms 課題の確認に続き、問診の際のコミュニケーションスキルを学ぶ。課題を課す。	〃
10	6/16	Unit 9 Let's ask More about Mr. Andferson's Symptoms 課題の確認に続き、症状をより詳しく聞く際のコミュニケーションスキルを学ぶ。課題を課す。	〃
11	6/23	Unit 10 Explaining Blood Test Results 課題の確認に続き、診断（血液検査）の際のコミュニケーションスキルを学ぶ。課題を課す。	〃
12	6/30	Unit 11 How to Take Medicine 課題の確認に続き、薬服用の説明の際のコミュニケーションスキルを学ぶ。課題を課す。	〃
13	7/7	Unit 12 Mrs. Johnson Feels Dizzy 課題の確認に続き、問診の際のコミュニケーションスキルを学ぶ。課題を課す。	〃
14	7/14	Unit 13 An MRI Test 課題の確認に続き、MRI検査の際のコミュニケーションスキルを学ぶ。課題を課す。	〃
15	7/21	Unit 14 Recommending an Operation 課題の確認に続き、手術を勧める際のコミュニケーションスキルを学ぶ。	〃
教科書	樋口昌彦 John Tremarco 著:First Aid! English for Nursing 金星堂		
参考図書	平野美津子 他著:看護師たまごの英語40日間トレーニングキットワークブック 基礎編 KIT1 アルク		
予習・復習内容	教科書による当該授業の予習・復習、課題の提出		
成績評価方法・基準	評価配分:期末試験 50%、課題 50%		
履修上の注意	音声ファイルを用い、予習と課題を必ず行ってください。		
担当教員への連絡方法	E-mail: okumura.nobuhiko@shitoku.ac.jp		

実務経験と授業科目との関連性	高等学校および高等専門学校での教職ならびにテキストの分担執筆の経験を授業に生かすことができる。
保健師助産師看護師学校養成所指定規則に定める別表の種類と教育内容 別表3 (看護師課程) 人間の生活・社会の理解	

看護学部看護学科 シラバス

授業科目	医学英語Ⅱ								
担当教員	奥村 信彦								
配当年次	2年次	配当学期	後期	単位数	1単位	必修・選択	必修	授業形態	講義
授業目標	患者の看護に関する国際情勢、海外協力の在り方を理解させる上で不可欠な、海外の看護の状況に関わる英語テキストを、英語での議論を交えて精読させ、その内容を理解させると共に、医学英語の読解力と英語運用力の向上を目指す。 この目標を達成するために、アメリカの看護師の状況を取り上げた英語テキストを、英語での議論を時折交えながら深く読んでいくことで、看護に関する国際情勢、海外協力の在り方に対する理解を深める。								
学習目標	1. 看護、医療現場を取り巻く社会情勢の理解が重要であることを理解する。 2. ライフストーリーとして語られるアメリカの看護、医療現場の動向を日本の状況と比較し、問題意識を高める。 3. 医療制度に関する英語表現を理解できる。								
授業計画									
回	開講日	授業内容							担当教員
1	10/2	本授業の目標と概要、使用するテキスト、授業の進め方、課題、成績・評価等に関する解説を行う。							奥村 信彦
2	10/9	Unit 1 Community-based Settings (1) 地域看護の展開について(1)を読む。課題を課す。							〃
3	10/16	Unit 2 Community-based Settings (2) 課題提出に続き、地域看護の展開について(2)を読む。課題を課す。							〃
4	10/23	Unit 3 Rising Consumerism (1) 課題提出に続き、消費者意識の高まりについて(1)を読む。課題を課す。							〃
5	10/30	Unit 4 Rising Consumerism (2) 課題提出に続き、消費者意識の高まりについて(2)を読む。課題を課す。							〃
6	11/6	Unit 5 Technologic Advances (1) 課題提出に続き、医療技術の進歩について(1)を読む。課題を課す。							〃
7	11/13	Unit 6 Technologic Advances (2) 課題提出に続き、医療技術の進歩について(2)を読む。課題を課す。							〃
8	11/20	Unit 7 Access to Healthcare (1) 課題提出に続き、医療の利用と財源について(1)を読む。課題を課す。							〃
9	11/27	Unit 8 Access to Healthcare (2) 課題提出に続き、医療の利用と財源について(2)を読む。課題を課す。							〃
10	12/4	Unit 9 Access to Healthcare (3) 課題提出に続き、医療の利用と財源について(3)を読む。課題を課す。							〃
11	12/11	Unit 10 Today's Nurse (1) 課題提出に続き、今日の看護師について(1)を読む。課題を課す。							〃
12	12/18	Unit 11 Today's Nurse (2) 課題提出に続き、今日の看護師について(2)を読む。課題を課す。							〃
13	1/8	Unit 12 Today's Nurse (3) 課題提出に続き、今日の看護師について(3)を読む。課題を課す。							〃
14	1/15	Unit 13 Today's Nurse (4) 課題提出に続き、今日の看護師について(4)を読む。課題を課す。							〃
15	1/22	Unit 14 Today's Nurse (5) 課題提出に続き、今日の看護師について(5)を読む。							〃
教科書		山本淳子 柴山森二郎 編著：Nurses in the U.S. Now 三修社							
参考図書		白川優子 著：紛争地の看護師 小学館 メータオクリニック支援の会 編：国境の医療者 新泉社							
予習・復習内容		教科書による当該授業の予習・復習、課題の提出							
成績評価方法・基準		評価配分：期末試験 50%、課題 50%							
履修上の注意		海外の看護、医療を取り巻く状況に関する情報を日頃からニュース、書籍等で求めてください。							
担当教員への連絡方法		E-mail: okumura.nobuhiko@shitoku.ac.jp							
実務経験と授業科目との関連性		高等学校および高等専門学校での教職ならびにテキストの分担執筆の経験を授業に生かすことができる。							
保健師助産師看護師学校養成所指定規則に定める別表の種類と教育内容 別表3 (看護師課程) 人間の生活・社会の理解									

看護学部看護学科 シラバス

授業科目	英語Ⅲ							
担当教員	奥村 信彦							
配当年次	3 年次	配当学期	前期	単位数	1 単位	必修・選択	選択	授業形態 講義
授業目標	医療現場や諸外国の専門職との国際交流の場で専門的な英語表現ができるようになることを目指す。この目標を達成するために、看護現場や病院環境で使用される専門用語を含む英語表現を学び、それらを用いて口頭とライティングで表現する訓練を行う。							
学習目標	1. 海外の医療、看護の現場で責務を遂行できる基本的な英語コミュニケーション能力を身につける。 2. 医師、看護師はじめ医療関係者とのコミュニケーションに必要なリスニング力とスピーキング力を養う。 3. 患者に理解と共感を率直に伝えとともに冷静に指示を与えるコミュニケーションスキルを身につける。 4. 患者の様子を簡潔に英語でまとめる等、伝えるためのライティング力を身につける。							

授業計画			
回	開講日	授業内容	担当教員
1		本授業の目標と概要、使用するテキスト、授業の進め方、課題、成績・評価等に関する解説を行う。	奥村 信彦
2		Unit 1 Asking Basic Questions 必要な情報を得るための質問のスキルを学ぶ。課題を課す。	〃
3		Unit 2 A Patient's First Visit 課題確認に続き、患者来院の際のコミュニケーションスキルの運用力を高める。課題を課す。	〃
4		Unit 3 Where's Internal Medicine? 課題確認に続き、病院内案内の際のコミュニケーションスキルの運用力を高める。課題を課す。	〃
5		Unit 4 Admission to the Hospital 課題確認に続き、患者入院の際のコミュニケーションスキルの運用力を高める。課題を課す。	〃
6		Unit 5 Giving Information 課題確認に続き、患者に情報を提供する際のコミュニケーションスキルの運用力を高める。課題を課す。	〃
7		Unit 6 Symptoms 課題確認に続き、患者に症状を尋ねる際のコミュニケーションスキルの運用力を高める。課題を課す。	〃
8		まとめ Units 1-6 課題確認に続き、表現を中心に Units 1-6 のまとめを行う。	〃
9		Unit 7 Injuries and Emergencies 怪我や緊急時の際のコミュニケーションスキルの運用力を高める。課題を課す。	〃
10		Unit 8 How Are You Feeling? 課題確認に続き、患者に接する際のコミュニケーションスキルの運用力を高める。課題を課す。	〃
11		Unit 9 A Patient's Medical History 課題確認に続き、患者の病歴を尋ねる際のコミュニケーションスキルの運用力を高める。課題を課す。	〃
12		Unit 10 Medicine 課題確認に続き、薬の処方の際のコミュニケーションスキルの運用力を高める。課題を課す。	〃
13		Unit 11 I'm Going to Give You an IV 課題確認に続き、注射、点滴、採血の際のコミュニケーションスキルの運用力を高める。課題を課す。	〃
14		Unit 12 Congratulations! You're Having a Baby Girl 課題確認に続き、出産の際のコミュニケーションスキルの運用力を高める。課題を課す。	〃
15		まとめ Units 7-12 課題確認に続き、表現を中心に Units 7-12 のまとめを行う。	〃

教科書	Peter Vincent, Alan Measows 著: Speaking of Nursing 南雲堂
参考図書	平野美津子 菱田治子 著: 看護師たまごの英語40日間トレーニングキットワークブック 実践編 KIT 2 アルク
予習・復習内容	教科書による当該授業の予習・復習、課題の提出
成績評価方法・基準	評価配分: 積極的な参加姿勢 20%、課題 40%、期末試験 40%
履修上の注意	ペアワーク、グループワークなどに積極的に参加し、英語による自己表現に努めてください。 英語Ⅱで用いた First Aid! English for Nursing (樋口昌彦 John Tremarco著 金星堂) を毎回持参してください。
担当教員への連絡方法	E-mail: okumura.nobuhiko@shitoku.ac.jp

実務経験と授業科目との関連性	高等学校および高等専門学校での教職ならびにテキストの分担執筆の経験を授業に生かすことができる。
保健師助産師看護師学校養成所指定規則に定める別表の種類と教育内容 別表3 (看護師課程) 人間と生活・社会の理解	

看護学部看護学科 シラバス

授業科目	医学英語Ⅲ									
担当教員	奥村 信彦									
配当年次	4 年次	配当学期	前期	単位数	1 単位	必修・選択	選択	授業形態	講義	
授業目標	将来、国際社会において看護職の一員としてリーダーシップを発揮し、責務を遂行する能力を持つとともに、日本および国際社会における看護の機能と役割を広い視野で多面的に捉えることができるようになることを目指す。この目標を達成するために、PubMedより看護・医療の英語文献を検索して読むことで専門書の読解力を深めるとともに、看護現場で必要な知識、技能、視野を培う。									
学習目標	1. アブストラクトを含め論文全体の構成を理解することができる。 2. アブストラクトを読むことにより論文の概要をつかみ、読むべき論文を選択できる。 3. 論文の構成を意識し、内容理解へと進めることができる。 4. 理解した論文の要旨について効果的なプレゼンテーションができる。									
授業計画										
回	開講日	授業内容							担当教員	
1		本授業の目標と概要、使用するテキスト、授業の進め方、課題、成績・評価等に関する解説を行う。次回に読む論文を与える。							奥村 信彦	
2		論文 1. Fukada, M. (2018). Nursing Competency: Definition, Structure and Development. Yonago Acta Medica, Mar. 61(1). 1-7. 本論文（分野はnursing theories）を読み、構成と内容を理解する。課題を与える。							〃	
3		課題の確認に続き、同論文についてディスカッションを行う。次回に読む論文を与える。							〃	
4		論文 2. McGrail, K.A., Morse, D.S., Glessner, T., & Gardner, K. (2009). "What is Found There" : Qualitative Analysis of Physician-Nurse Collaboration Stories. Journal of General Internal Medicine, Feb. 24(2), 198-204. 本論文（分野はnurse physician relationship）を読み、構成と内容を理解する。課題を与える。							〃	
5		課題の確認に続き、同論文についてディスカッションを行う。第7回に読む論文を与える。							〃	
6		グループでPubMed掲載の看護・医療分野の論文を読み、プレゼンテーションに向け、論文の選択、準備を開始する。							〃	
7		論文 3. Grudt, S.K., & Hadders, H. (2017). Contested discourses and culture sensitivity: Norwegian nursing students' experience of clinical placement in Nicaragua. Nursing Open, Jan. 5(1), 84-93. 本論文（分野はtranscultural nursing）を読み、構成と内容を理解する。課題を与える。							〃	
8		課題の確認に続き、同論文についてディスカッションを行う。次回に読む論文を与える。							〃	
9		論文 4. Slattery, M.J., Logan, B., Mudge, B., Secore, K., Von Reyn, L.J., & Maue, R.A. (2016) An Undergraduate Research Fellowship Program to Prepare Nursing Students for Future Workforce Roles. Journal of PROFESSIONAL NURSING, Nov.-Dec. 32(6), 412-420. 本論文（分野はnursing theories）を読み、構成と内容を理解する。課題を与える。							〃	
10		課題の確認に続き、同論文についてディスカッションを行う。							〃	
11		PubMedからグループで選択した論文のプレゼンテーション資料を作成し、準備を進める。							〃	
12		グループで選択した論文のプレゼンテーションのリハーサルを行う。							〃	
13		発表 1. 選択した論文についてグループでプレゼンテーションし、質疑と評価を行う。							〃	
14		発表 2. 選択した論文についてグループでプレゼンテーションし、質疑と評価を行う。							〃	
15		全体の評価とまとめを行う。							〃	
教科書		PubMedに掲載されている論文と自主教材。								
参考図書		前田樹海 江藤 裕之 著：APAに学ぶ 看護系論文執筆のルール 医学書院 日経サイエンス編集部 編著：日経サイエンスで鍛える科学英語 医療・健康編 日本経済新聞出版社								
予習・復習内容		授業で扱う 4 論文を予習の段階で形式と論理に注目しながら読むとともに、自ら解説・発表する論文をPubMedから選択する。								
成績評価方法・基準		評価配分：積極的な参加姿勢 20%、課題 30%、プレゼンテーション 50%								
履修上の注意		PubMedからグループで興味・関心のある看護・医療分野の論文を選び、内容をまとめ、第13回、第14回にプレゼンテーションを行ってください。								
担当教員への連絡方法		E-mail: okumura.nobuhiko@shitoku.ac.jp								
実務経験と授業科目との関連性			高等学校および高等専門学校での教職ならびにテキストの分担執筆の経験を授業に生かすことができる。							
保健師助産師看護師学校養成所指定規則に定める別表の種類と教育内容 別表 3 （看護師課程） 科学的思考の基盤										

看護学部看護学科 シラバス

授業科目	代謝栄養学									
担当教員	三井 由香 池田 千鶴子									
配当年次	1 年次	配当学期	後期	単位数	2 単位	必修・選択	必修	授業形態	講義	
授業目標	生化学反応の場となる細胞と細胞小器官の構造と機能を理解する。エネルギーATPを産生し、生体成分を作り出す代謝反応が生命活動で果たす役割を理解し、代謝反応での酵素の働きを学ぶ。マクロとミクロの両視点から栄養学の理論を理解し、セルフケアの一つである食事療法の支援において必要となる知識や具体的な指導方法について学ぶ。									
学習目標	1. 細胞の働きを学ぶ。 2. タンパク質、糖質、脂質の性質と働きを学ぶ。 3. タンパク質、糖質、脂質の合成と分解、それに伴うATP合成方法を学ぶ。 4. 酵素の性質と働きを学ぶ。 5. 遺伝子の働きと性質、タンパク質の合成を学ぶ 6. 人間が、健康的な生活を送るために重要な食生活・栄養について、疾病との関連に着目して学ぶ。 7. 食生活・栄養について、看護の役割を学ぶ。									
授業計画										
回	開講日	授業内容							担当教員	
1	9/29	細胞の働き，細胞内小器官の機能，細胞膜の働き							三井 由香	
2	10/6	DNAの働きとタンパク質合成							〃	
3	10/13	タンパク質とアミノ酸の機能							〃	
4	10/20	糖質の性質と働き							〃	
5	10/27	脂質の性質と働き							〃	
6	11/10	酵素の性質と働き，糖代謝							〃	
7	11/17	タンパク質・アミノ酸代謝，脂質代謝，ビタミン							〃	
8	11/18	食生活・栄養の基礎 Ⅰ：人間栄養学と看護、栄養素の種類と働き（糖質、脂質、たんぱく質）							池田 千鶴子	
9	11/25	〃 Ⅱ：栄養素の種類と働き（ビタミン、ミネラル、食物繊維）							〃	
10	12/2	エネルギー代謝 Ⅲ：食品のエネルギー、エネルギーの出納、エネルギー消費							〃	
11	12/9	栄養ケアマネジメント Ⅳ：栄養スクリーニング、栄養アセスメント、栄養ケア計画、栄養状態の評価・判定							〃	
12	12/16	ライフステージと栄養：乳児期から高齢期まで							〃	
13	12/23	臨床栄養 Ⅴ：病院食、栄養補給法、経腸栄養食品等、循環器疾患の食事療法							〃	
14	1/6	〃 Ⅵ：消化器疾患、栄養代謝疾患及び腎臓疾患の食事療法							〃	
15	1/13	〃 Ⅶ：咀嚼・嚥下障害患者及びがん患者の食事療法 まとめ							〃	
教科書		1. 三輪一智 他著：系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能②(生化学) 医学書院 2. 小野章史 他著：系統看護学講座 専門基礎分野 専門基礎分野 人体の構造と機能③(栄養学) 医学書院								
参考図書		参考書は指定しない。								
予習・復習内容		三井：講義単元ごとに配る問題プリントを解き、提出すること。その際、講義のノート、教科書を確認しながら解くことで復習となる。その際生じた疑問点は次回質問し、解決してください。 池田：教科書の章末のゼミナールや配布プリントを参考に復習をしてください。								
成績評価方法・基準		定期試験 100%								
履修上の注意		三井：疑問点は教科書で調べる，開きに来るなど解決して先に進んでください。 池田：毎回の授業に配布プリントをファイルして持参してください。								
担当教員への連絡方法		三井：南館事務室へ伝言してください。 池田：spbz8q89@oboe.ocn.ne.jp								
実務経験と授業科目との関連性		三井：生理学，生化学分野での研究からより深い理解が可能になる。 池田：急性期病院やクリニックでの勤務を有する。このことから医療における栄養の役割を理論と実践を伝えることで、学生はより深い理解が可能になる。								
保健師助産師看護師学校養成所指定規則に定める別表の種類と教育内容 別表3 (看護師課程) 人体の構造と機能										

看護学部看護学科 シラバス

授業科目	形態機能学Ⅰ									
担当教員	三井 由香									
配当年次	1年次	配当学期	通年	単位数	2単位	必修・選択	必修	授業形態	講義	
授業目標	看護学を学ぶに当たり、人間はどのようなからだの構造と機能（仕組み）を使って生きているのか、日常生活行動を営んでいるのかを理解する。さらに、からだの仕組みが障害された時、それが生きることや、日常生活行動にどう影響するのかを理解する。本科目は主に呼吸器系、循環器系、内分泌系、血液リンパ体液・電解質について理解する。									
学習目標	1. 血液の機能と、各血球の働き、免疫の仕組みについて説明できる。 2. 呼吸器の構造と、換気機序、呼吸調節機序を説明できる。 3. 循環器系の構造と心臓、血管の働き、循環調節機序を説明できる。 4. 内分泌系による調節の仕組みを説明できる。 5. 体液の電解質濃度、pH維持の必要性和その異常について説明できる。									
授業計画										
回	開講日	授業内容							担当教員	
1	4/7	学ぶための基礎知識 素材から見た人体							三井 由香	
2	4/14	細胞の構造、細胞を構成する物質とエネルギー生成							〃	
3	4/21	細胞膜の構造と機能、細胞の増殖と染色体							〃	
4	4/28	分化した細胞が作る組織、機能から見た人体							〃	
5	5/12	呼吸器 構成							〃	
6	5/19	呼吸器の構造							〃	
7	5/26	肺呼吸と内呼吸、気道、肺胞、呼吸のメカニズム							〃	
8	6/9	呼吸気量、ガス交換とガスの運搬							〃	
9	6/16	呼吸調節、換気障害							〃	
10	6/23	血液の機能							〃	
11	6/30	組成、血球の分化							〃	
12	7/7	赤血球							〃	
13	7/14	貧血							〃	
14	7/21	ヘモグロビンの酸素解離曲線、ビリルビン代謝と黄疸							〃	
15	7/28	白血球、顆粒球							〃	
16	9/29	止血と血液凝固							〃	
17	10/6	血液型、不適合妊娠							〃	
18	10/13	体液、脱水、電解質異常							〃	
19	10/20	酸塩基平衡とその異常							〃	
20	10/27	循環 循環器系の構成、心臓の構造、血管と神経							〃	
21	11/10	心臓の興奮とその伝播							〃	
22	11/17	心臓の拍出機能							〃	
23	11/24	末梢循環器、血管の構造							〃	
24	12/1	動脈と静脈							〃	
25	12/8	血液の循環調節Ⅰ 神経系と圧受容器反射							〃	
26	12/15	血液の循環の調節Ⅱ 内分泌系、腎臓による調節							〃	
27	12/22	微小循環、循環器系の病態生理							〃	
28	1/5	内分泌 ホルモンの化学的構造と作用機序							〃	
29	1/12	ホルモン各論Ⅰ							〃	
30	1/19	ホルモン各論Ⅱ							〃	
教科書	坂井建雄 他著:系統看護学講座専門基礎分野人体の構造と機能①(解剖生理学) 医学書院									
参考図書	参考書は指定しない。									
予習・復習内容	講義単元ごとに配る問題プリントを解き、提出すること。講義のノート、教科書を確認しながら解くことで復習となる。その際生じた疑問点は次回質問し、解決してください。									
成績評価方法・基準	評価配分：期末試験 100%									
履修上の注意	解剖生理学は各単元独立しているようでいて、実は積み上げ型です。以前の学習の理解が次の学習に大きくかかわってきます。わからないことをそのままにせず、質問して、理解して、次に進んでください。									
担当教員への連絡方法	南館事務室に伝言してください。									
実務経験と授業科目との関連性										
なし										
保健師助産師看護師学校養成所指定規則に定める別表の種類と教育内容 別表3 (看護師課程) 人体の構造と機能										

看護学部看護学科 シラバス

授業科目	形態機能学 II								
担当教員	三井 由香 福谷 保								
配当年次	1 年次	配当学期	通年	単位数	2 単位	必修・選択	必修	授業形態	講義
授業目標	看護学を学ぶに当たり、人間はどのようなからだの構造と機能（仕組み）を使って生きているか、日常生活行動を営んでいるかを理解する。さらに、体の仕組みが障害された時、それが生きることや、日常生活行動にどう影響するのかを理解する。本科目は主に消化器系、運動器系、神経・感覚器系、内臓機能調節について理解する。								
学習目標	1. 消化器系に関わる器官の名称をはじめ、その構造と機能を理解する。 2. 骨の構造と機能をはじめ、全身の骨格の名称と特徴を理解する。 3. 骨格筋の名称をはじめ、その構造と機能を理解する。 4. 神経・感覚器系の名称をはじめ、その構造と機能を理解する。 5. 身体機能の防御と適応として、皮膚・免疫・代謝・体温調整を理解する。 6. 上記の各項を、日常生活行動・障害時の影響に関連させて理解する。								
授業計画									
回	開講日	授業内容							担当教員
1	4/8	本講義の紹介と諸注意							三井
2	4/15	解剖生理学のための基礎知識 A (1) 体表から触知する人体の構造							〃
3	4/22	解剖生理学のための基礎知識 A (2) 人体の構造と区分							〃
4	4/29	口・咽頭・食道の構造と機能							〃
5	5/13	腹部消化管の構造と機能 (1) 胃の構造と機能							〃
6	5/20	腹部消化管の構造と機能 (2) 小腸・大腸の構造と機能							〃
7	5/27	脾臓・肝臓・胆嚢の構造と機能 腹膜と腸間膜の構造と機能							〃
8	6/10	人体の骨格の構造と機能 (関節・骨格筋を含む)							福谷
9	6/17	体幹の骨格と筋							〃
10	6/24	上肢の骨格と筋							〃
11	7/1	下肢の骨格と筋							〃
12	7/8	頭頸部の骨格と筋							〃
13	7/15	骨格筋の収縮機構と特性							三井
14	7/22	心筋、平滑筋の収縮機構							〃
15	7/29	脊髄と脳							〃
16	10/2	脊髄神経と脳神経							〃
17	10/9	脳の高次機能							〃
18	10/16	運動機能と下行性伝導路							〃
19	10/23	感覚機能と上行性伝導路							〃
20	10/30	眼の構造と視覚							〃
21	11/6	耳の構造と聴覚・平衡覚							〃
22	11/13	味覚と嗅覚							〃
23	11/20	疼痛の分類と発生機序							〃
24	11/27	皮膚の構造と機能							〃
25	12/4	生体の防御機構 (1) 非特異的防御機構							〃
26	12/11	生体の防御機構 (2) 特異的防御機構							〃
27	12/18	生体の防御機構 (3) 生体防御の関連臓器							〃
28	1/8	代謝と運動							〃
29	1/15	体温とその調節							〃
30	1/22	まとめ							〃
教科書		坂井建雄 他著:系統看護学講座専門基礎分野人体の構造と機能①(解剖生理学) 医学書院							
参考図書		Frank H. Netter: Atlas of Human Anatomy (ネッター解剖学アトラス 訳 相磯貞和) 南江堂							
予習・復習内容		毎回の授業終了時に提示する							
成績評価方法・基準		定期試験 100%							
履修上の注意		専門用語が多数出てくるので自宅学習も重要となる							
担当教員への連絡方法		南館事務室に伝言してください							
実務経験と授業科目との関連性		なし							
保健師助産師看護師学校養成所指定規則に定める別表の種類と教育内容 別表 3 (看護師課程) 人体の構造と機能									

看護学部看護学科 シラバス

授業科目	形態機能学Ⅲ									
担当教員	三井 由香 森泉 哲次 福島 菜奈恵									
配当年次	1 年次	配当学期	後期	単位数	1 単位	必修・選択	必修	授業形態	講義	
授業目標	看護学を学ぶに当たり、人体の仕組みをより深く学び、その知識を看護現象の理解、看護実践に生かしていく道筋を組み立てる力を養う。本科目は腎・泌尿器系と生殖器について理解し、形態機能学で学んだことを解剖見学により統合的に学修する。 (オムニバス方式全 8 回) (三井由香／ 5 回) 腎・泌尿器系、生殖器系の仕組みとその知識について学ぶ。 (森泉哲次、福島菜奈恵／ 3 回) (共同) 形態機能学のまとめとして、人体解剖観察により、人体の正常構造を理解するとともに、ご遺体を通して生命の尊厳・医の倫理を学ぶ。グループごとに実習室に設けられたご遺体の解剖を見学する。									
学習目標	1. 腎臓の構造を説明できる。 2. 尿生成の方法を説明できる。 3. 男性生殖器、女性生殖器と生殖、発生、老化について説明できる。 4. 基本的な人体の正常構造を説明できる。 5. ヒト発生から見た人体構造を学ぶ。 6. 腹部内臓と腹膜の関係を学ぶ。 7. 画像と諸臓器の対応を学ぶ。 8. 脳画像と脳の対応を学ぶ。									
授業計画										
回	開講日	授業内容							担当教員	
1	11/24	腎臓の構造							三井	
2	12/1	尿生成Ⅰ							〃	
3	12/8	尿生成Ⅱ							〃	
4	12/15	男性生殖器、女性生殖器							〃	
5	12/22	生殖、発生と老化の仕組み							〃	
6	2/12	講義(ヒト発生 腹膜 画像) 観察実習(全身内臓 内臓摘出標本 脳 運動器)							森泉 福島	
7	〃	〃							〃	
8	〃	〃							〃	
教科書		坂井建雄 他著:系統看護学講座専門基礎分野人体の構造と機能①(解剖生理学) 医学書院								
参考図書		参考書は指定しない								
予習・復習内容		1－5回は、单元ごとの問題プリントを配布します。それを講義のノートや教科書を見ながら解くことで復習になります。講義後なるべく早いうちに解いて、必ず提出してください。								
成績評価方法・基準		定期試験 100%								
履修上の注意		解剖生理学は各单元独立しているようでいて、実は積み上げ型です。以前の学習の理解が次の学習に大きくかかわってきます。わからないことをそのままにせず、質問して理解して、次に進んでください。観察実習の出席(欠席は不可)です。								
担当教員への連絡方法		南館事務室へ伝言してください。								

実務経験と授業科目との関連性	なし
----------------	----

保健師助産師看護師学校養成所指定規則に定める別表の種類と教育内容
別表3 (看護師課程) 人体の構造と機能

看護学部看護学科 シラバス

授業科目	病理・病態生理学								
担当教員	金物 壽久								
配当年次	2 年次	配当学期	前期	単位数	2 単位	必修・選択	必修	授業形態	講義
授業目標	病理では、生理状態の各臓器の構造・機能に係る知識を基に、病的状態での臓器の変化、原因、経過、転帰あるいは死因を学ぶ。さらに、疾病の病態生理を理解するために形態観察に加えて分子レベルでの機能や構造の異常と、個体への影響に関する知識を学修する。								
学習目標	1. 人体の構造と機能において正常から逸脱する場合のさまざまな症状・兆候のメカニズムに共通する現象を理解できる。 2. 人体の構造と機能において正常から逸脱する場合の分類と対処の原則が理解できる。 3. よく遭遇し、かつ重要な症状・兆候の原因・病態生理が理解できる。 4. よく遭遇し、かつ重要な症状・兆候の問診・検査などのポイントがわかる。 5. よく遭遇し、かつ重要な症状・兆候の対応や対処の原則が理解できる。								
授業計画									
回	開講日	授業内容							担当教員
1	4/10	Ⅰ 病理病態論 1. 体液・電解質・酸塩基平衡							金物 壽久
2	4/17	2. 循環障害・炎症							〃
3	5/1	3. 感染・老化							〃
4	5/8	4. 腫瘍・先天異常							〃
5	5/15	Ⅱ 病態症候論 1. 咳嗽・喀痰・喀血・呼吸困難・胸痛・不整脈							〃
6	5/22	2. チアノーゼ・ショック・腹痛・肥満							〃
7	5/29	3. やせ・食欲不振・嚥下障害・嘔気・嘔吐・吐血、下血							〃
8	6/12	4. 便秘・下痢・腹部膨満。腹水・黄疸							〃
9	〃	5. 貧血・出血傾向・リンパ節腫脹・皮膚掻痒							〃
10	6/19	6. レイノー・意識障害・頭痛・痙攣							〃
11	〃	7. 運動麻痺・運動失調・歩行障害・嚔声・めまい・視力障害							〃
12	6/26	8. 難聴・耳鳴・味覚障害・嗅覚障害・しびれ・腰痛							〃
13	7/3	9. 関節症状・発熱・低体温・浮腫							〃
14	7/10	10. 脱水・排尿異常・尿量異常・尿所見異常・睡眠障害・倦怠感							〃
15	7/17	11. まとめ							〃
教科書		山内豊明編：ナーシンググラフィカ 疾病の成り立ち①病態生理学 メディカ出版							
参考図書		1. 福井次矢、奈良信雄編：内科診断学 医学書院 2. 浅野嘉延、吉山直樹編：看護のための臨床病態学 南山堂							
予習・復習内容		病理病態論の学習項目、病態症候論の学習項目に常に目を通し、内容をイメージしてください							
成績評価方法・基準		定期試験 100%							
履修上の注意		教科書を持参のこと							
担当教員への連絡方法		本館事務室に伝言してください							
実務経験と授業科目との関連性		救急外来や整形病棟での勤務経験から具体例を示し、理解を深めることが可能である。							
保健師助産師看護師学校養成所指定規則に定める別表の種類と教育内容 別表 3 (看護師課程) 疾病の成り立ちと回復の促進									

看護学部看護学科 シラバス

授業科目	薬理学・服薬管理論									
担当教員	若林 雅人 柴田 美恵子									
配当年次	2 年次	配当学期	前期	単位数	2 単位	必修・選択	必修	授業形態	講義	
授業目標	臨床に応用できる実践薬理を学習する。どうして薬が効くのか（作用機序）、そしてどのような効果を示すか、また副作用はどうか、そのときに看護師として必要な服薬管理の実際について学ぶ。									
学習目標	１．身体の生理作用に対して、薬物がどのように関与し治療効果を発揮するのか、またどのような副作用に注意する必要があるのか等を講義する。 ２．薬剤の種類や投与経路、対象者の違いによる薬物の体内動態の違いを理解し、適切な服薬管理への支援のために必要な知識を学習する。									
授業計画										
回	開講日	授業内容							担当教員	
1	4/13	薬理学を学ぶにあたって、薬理学の基礎知識							若林 雅人	
2	4/20	感染症治療に関する基礎事項、抗感染症薬、消毒薬							〃	
3	4/27	がん治療に関する基礎事項、抗がん薬							〃	
4	5/11	免疫系の基礎知識、免疫治療薬、抗アレルギー薬、抗炎症薬							〃	
5	5/18	末梢での神経活動に作用する薬物							〃	
6	5/25	中枢神経系に作用する薬物							〃	
7	6/1	循環器系に作用する薬物							〃	
8	6/8	呼吸器・消化器・生殖器系に作用する薬物							〃	
9	6/15	物質代謝に作用する薬物、皮膚科用薬・眼科用薬							〃	
10	6/22	救急の際に使用される薬物、漢方薬、輸液製剤、看護業務に必要な薬の知識							〃	
11	6/29	服薬管理とは 服薬管理における困難・問題及び看護師の役割							柴田 美恵子	
12	7/6	薬剤の種類及び投与経路							〃	
13	7/13	対象者の違いによる薬物の体内動態							〃	
14	7/20	適切な服薬管理に向けた支援①							〃	
15	7/27	適切な服薬管理に向けた支援②							〃	
教科書		吉岡充弘 他著：系統看護学講座専門基礎分野疾病の成り立ちと回復の促進③（薬理学） 医学書院								
参考図書		参考書は指定しない。								
予習・復習内容		授業後に講義内容を復習する。								
成績評価方法・基準		期末試験 100%								
履修上の注意		なし								
担当教員への連絡方法		南館事務室に伝言してください。								
実務経験と授業科目との関連性		病院薬剤師として勤務しており、薬物の薬理作用のみならず臨床現場における薬物療法の実際を伝えることで、学生はより深い理解が可能となる。								
保健師助産師看護師学校養成所指定規則に定める別表の種類と教育内容 別表 3 （看護師課程） 疾病の成り立ちと回復の促進										

看護学部看護学科 シラバス

授業科目	病態・疾病治療論Ⅰ									
担当教員	林 かおり 浜 善久		水 崙 知子 板倉 慈法		鈴木 真理子		西村 博行		本郷 実 金木 利通 高松 道生	
配当年次	2 年次	配当学期	通年	単位数	2 単位	必修・選択	必修	授業形態	講義	
授業目標	病態・診断・治療法に関する知識基盤を構築することを目的とし、主に呼吸器系、循環器系、泌尿・生殖器系、代謝・内分泌系、血液・リンパ系、感覚器系を学修する。									
学習目標	1. 消化器系疾患の病態・症状・診断・治療・看護を理解する。 2. 呼吸器系疾患の病態・症状・診断・治療・看護を理解する。 3. 循環器系疾患の病態・症状・診断・治療・看護を理解する。 4. 内分泌系疾患の病態・症状・診断・治療・看護を理解する。 5. 血液系疾患の病態・症状・診断・治療・看護を理解する。									
授業計画										
回	開講日	授業内容							担当教員	
1	4/9 5限	消化器系の病態・症状							西村 博行	
2	4/16 5限	消化器系の疾患と治療							〃	
3	4/23 5限	〃							〃	
4	5/14 5限	〃							〃	
5	5/21 5限	〃							〃	
6	5/27 3限	消化器系の看護							鈴木 真理子	
7	5/27 4限	循環器系の病態・症状							本郷 実	
8	5/27 5限	循環器系の疾患と治療							〃	
9	6/10 4限	〃							〃	
1 0	6/10 5限	〃							〃	
1 1	6/24 3限	循環器系の看護							鈴木 真理子	
1 2	7/15 4限	呼吸器系の病態・症状							金木 利通	
1 3	7/15 5限	呼吸器系の疾患と治療							〃	
1 4	7/22 4限	〃							〃	
1 5	7/22 5限	〃							〃	
1 6	7/27 2限	呼吸器系の看護							水 崙 知子	
1 7	10/23 4限	感染症の病態・症状・治療							高松 道生	
1 8	10/23 5限	〃							〃	
1 9	11/6 4限	アレルギー疾患の病態・症状・治療							〃	
2 0	11/6 5限	〃							〃	
2 1	11/13 5限	中毒性疾患の病態・症状・治療							〃	
2 2	11/18 4限	感染症・アレルギー疾患・中毒性疾患の看護							〃	
2 3	11/25 3限	代謝・内分泌系の病態・症状・治療							浜 善久	
2 4	11/25 4限	〃							〃	
2 5	11/25 5限	代謝・内分泌系の病態・症状・治療（糖尿病）							板倉 慈法	
2 6	12/2 5限	代謝・内分泌系の看護							林 かおり	
2 7	12/18 3限	血液・造血管系の病態・症状							高松 道生	
2 8	1/8 3限	血液・造血管系の疾患と治療							〃	
2 9	1/22 3限	〃							〃	
3 0	1/25 2限	血液・造血管系の看護							林 かおり	
教科書		看護学テキスト NiCE 病態・治療論【1】～【14】. 南江堂.								
参考図書		1. 浅野嘉延, なるほどなっとく！内科学. 南山堂. 2. 医療情報科学研究所. 病気が見える vol. 3 糖尿病・代謝・内分泌（第5版）. メディックメディア.								
予習・復習内容		教科書の指定された範囲を読んで授業に臨んでください。								
成績評価方法・基準		評価配分：中間試験（前期）ならびに期末試験（後期）1 0 0 %								
履修上の注意		なし								
担当教員への連絡方法		初回授業時にアナウンスします。								
実務経験と授業科目との関連性		各臓器・対象別の病態・診断・治療の講義を担当する学内外の教員は全員、専門の診療科で診療業務に従事している。また、各臓器・対象別の看護を担当する看護教員は、それぞれ関連する病棟に勤務し、患者に対する看護実践の経験を有する。このことから、医学的根拠に基づいた臨床判断について学修する学生の理解を深めることが可能となる。								
保健師助産師看護師学校養成所指定規則に定める別表の種類と教育内容 別表3 （看護師課程） 疾病の成り立ちと回復の促進										

看護学部看護学科 シラバス

授業科目	病態・疾病治療論Ⅱ									
担当教員	水 崙 知子 樋貝 繁香 林 かおり 田中 高政 鈴木 真理子 金物 壽久 中島 八十一 和食 正久 高松 道生 遊木 正俊 横山 史朗 小池 健一 齋木 實 飯島 富士雄 浅輪 史朗 中島 崇樹									
配当年次	2 年次	配当学期	通年	単位数	2 単位	必修・選択	必修	授業形態	講義	
授業目標	病態・診断・治療法に関する知識基盤を構築することを目的とし、主に腎・泌尿器系、脳・神経系、精神系、小児系、運動器系、感覚器系を学修する。									
学習目標	1. 腎・泌尿器系疾患の病態・症状・治療・看護を理解する。 2. 脳・神経系疾患の病態・症状・治療・看護を理解する。 3. 精神系疾患の病態・症状・治療・看護を理解する。 4. 小児系疾患の病態・症状・治療・看護を理解する。 5. 運動器系疾患の病態・症状・治療・看護を理解する。 6. 感覚器系疾患の病態・症状・治療・看護を理解する。									
授業計画										
回	開講日	授業内容							担当教員	
1	4/7 4限	腎・泌尿器系の病態・症状							和食 正久	
2	4/14 4限	腎・泌尿器系の疾患と治療							〃	
3	4/21 4限	〃							〃	
4	5/1 4限	腎・泌尿器系の疾患と治療（糸球体腎炎、腎不全、透析療法）							高松 道生	
5	5/12 3限	腎・泌尿器系の看護							林 かおり	
6	5/19 3限	脳・神経系の病態・症状							中島 八十一	
7	5/26 3限	脳・神経系の疾患と治療							〃	
8	6/2 3限	〃							〃	
9	6/9 3限	〃							〃	
10	6/16 3限	脳・神経系の看護							水 崙 知子	
11	6/23 3限	精神系の病態・症状							遊木 正俊	
12	6/30 3限	精神系の疾患と治療							〃	
13	7/7 3限	〃							〃	
14	7/21 3限	〃							〃	
15	7/28 3限	精神系の看護							田中 高政	
16	10/1 4限	女性生殖器系の疾病（乳癌）							横山 史朗	
17	10/7 2限	小児系の病態・症状							小池 健一	
18	10/14 2限	小児系の疾患と治療							〃	
19	10/21 2限	〃							〃	
20	10/27 4限	小児系の看護							樋貝 繁香	
21	11/10 4限	運動器系の病態・症状							金物 壽久	
22	11/10 5限	運動器系の疾患と治療							〃	
23	11/17 4限	〃							〃	
24	11/24 4限	運動器系の看護							鈴木 真理子	
25	12/9 4限	皮膚の病態・症状・治療							齋木 実	
26	12/16 4限	〃							〃	
27	12/22 4限	眼の病態・症状・治療							飯島 富士雄	
28	1/5 4限	耳鼻咽喉の病態・症状・治療							浅輪 史朗	
29	1/6 3限	歯・口腔の病態・症状・治療							中島 崇樹	
30	1/19 4限	感覚器系の看護							水 崙 知子	
教科書	看護学テキスト NiCE 病態・治療論【1】～【14】. 南江堂. 江藤文夫, 飯島節. 神経内科学テキスト 改訂第4版. 南江堂.									
参考図書	1. 医療情報科学研究所. 病気が見えるvol. 8 腎・泌尿器（第3版）. メディックメディア. 2. 中井久夫, 山口直彦. 看護のための精神医学. 医学書院. 3. 清水宏. あたらしい皮膚科学 第3版. 中山書店. 4. 宮田和典. とことん!眼科のベーシック. メディカ出版. 5. 落合慈之耳鼻咽喉科疾患ビジュアルブック 第2版学研メディカル秀潤社 6. 池田勝久. 目でみる耳鼻咽喉科疾患. 文光堂. 7. 浅野嘉延. なるほどなっとく！内科学. 南山堂.									
予習・復習内容	教科書の指定された範囲を読んで授業に臨んでください。									
成績評価方法・基準	評価配分：中間試験（前期）ならびに期末試験（後期）100%									
履修上の注意	なし									
担当教員への連絡方法	E-mail:mizusaki.tomoko@shitoku.ac.jp									
実務経験と授業科目との関連性	各臓器・対象別の病態・診断・治療の講義を担当する学内外の教員は全員、専門の診療科で診療業務に従事している。また、各臓器・対象別の看護を担当する看護教員は、それぞれ関連する病棟に勤務し、患者に対する看護実践の経験を有する。このことから、医学的根拠に基づいた臨床判断について学修する学生の理解を深めることが可能となる。									
保健師助産師看護師学校養成所指定規則に定める別表の種類と教育内容 別表3 （看護師課程） 疾病の成り立ちと回復の促進										

看護学部看護学科 シラバス

授業科目	人間発達学									
担当教員	外里 富佐江 福田 恵美子									
配当年次	2 年次	配当学期	前期	単位数	2 単位	必修・選択	選択	授業形態	講義	
授業目標	人間を統合的存在として捉え、発達という観点から、地域で生活する人の視点で、小児期、成人期、老年期の発達から、人の全生涯を理解する。さらに、ライフサイクルの絡み合いとしての同世代・異世代間の相互的な人間形成や、その背景をなす社会や時代の特性を理解する。（オムニバス方式／全 1 5 回） （福田恵美子／7 回） 胎児から学童期までの発達を理解し、人間形成やその背景をなす社会や時代の特性を学ぶ。 （外里富佐江／8 回） 成人期から老年期までの発達を理解し、人間形成やその背景をなす社会や時代の特性を学ぶ。									
学習目標	1. 人間発達とその意義を説明できる。 2. 発達理論とその歴史を説明できる。 3. 人間のライフステージにおける発達過程を説明できる。 4. 人間のライフステージにおける取り組んでいる課題を説明できる。 5. ライフサイクルの人間形成と社会的背景の特性を説明できる。									
授業計画										
回	開講日	授業内容							担当教員	
1	4/9	人間発達の概念							福田	
2	4/16	発達理論：先人たちの理論の概要							〃	
3	4/23	ライフステージにおける生活活動の発達過程と取り組んでいる課題（胎児）							〃	
4	4/30	ライフステージにおける生活活動の発達過程と取り組んでいる課題（幼児期）							〃	
5	5/7	ライフステージにおける生活活動の発達過程と取り組んでいる課題（低学年）							〃	
6	5/14	ライフステージにおける生活活動の発達過程と取り組んでいる課題（高学年）							〃	
7	5/21	ライフステージにおける生活活動の発達過程と取り組んでいる課題（青年期）							〃	
8	5/28	ライフステージにおける生活活動の発達過程と取り組んでいる課題(成人期 前期)							外里	
9	6/4	ライフステージにおける生活活動の発達過程と取り組んでいる課題(成人期 中期)							〃	
1 0	6/11	ライフステージにおける生活活動の発達過程と取り組んでいる課題(成人期 後期)							〃	
1 1	6/18	ライフステージにおける生活活動の発達過程と取り組んでいる課題(高齢期 前期)							〃	
1 2	6/25	ライフステージにおける生活活動の発達過程と取り組んでいる課題(高齢期 中期)							〃	
1 3	7/2	ライフステージにおける生活活動の発達過程と取り組んでいる課題(高齢期 後期)							〃	
1 4	7/9	ライフステージにおける生活活動の発達過程と取り組んでいる課題 まとめ 1							〃	
1 5	7/16	ライフステージにおける生活活動の発達過程と取り組んでいる課題 まとめ 2							〃	
教科書		福田恵美子 編：コメディカルの専門基礎分野テキスト 人間発達学改訂 5 版 中外医学社								
参考図書		奈良勲 他監修：標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 人間発達学 第 2 版 医学書院								
予習・復習内容		教科書を予習しかつニュースや新聞等の情報にアクセスして社会の情勢に鋭敏であることを求める								
成績評価方法・基準		評価配分：定期試験 6 0 %、小テスト 4 0 %								
履修上の注意		積極的な参加を求める。								
担当教員への連絡方法		tozato.fusae@shitoku.ac.jp								

実務経験と授業科目との関連性	人間発達に関する臨床経験を有する。このことから生活活動と発達過程について、理論と実践を伝えることができる。学生はより良い理解と深い学びが可能になる。
保健師助産師看護師学校養成所指定規則に定める別表の種類と教育内容 別表 3 （看護師課程） 健康支援と社会保障制度	

看護学部看護学科 シラバス

授業科目	生命倫理							
担当教員	三谷 尚澄							
配当年次	2 年次	配当学期	後期	単位数	1 単位	必修・選択	必修	授業形態 講義
授業目標	「生命倫理」という学問分野が成立した背景や歴史について学び、事例を通して、いのちにかかわる人間の行為の倫理的側面を探究する。またその基本にあるべき人権意識を醸成し、創造的思考能力を高める。							
学習目標	1. 倫理学・生命倫理学上の主要な考え方や概念に習熟し、自分の言葉で説明できるようになる。 2. 主要な倫理的理論や原則を具体的な問題に適用しつつ、道理的に思考できるようになる。							

授業計画			
回	開講日	授業内容	担当教員
1	9/28	「倫理的に考える」とはどのようなことか	三谷 尚澄
2	10/5	「批判的思考」を実践する	〃
3	10/12	なぜ「理論」を学ぶ必要があるのか	〃
4	10/19	功利主義	〃
5	10/26	義務論	〃
6	11/2	徳倫理	〃
7	11/9	答えのない問題を考える	〃
8	11/16	まとめ	〃
教科書		授業中に指示する。	
参考図書		授業中に指示する。	
予習・復習内容		毎回の授業の終了時に指示する。	
成績評価方法・基準		期末試験：100%	
履修上の注意		アクティブ・ラーニングを取り入れた形態で授業を進めるので、毎回のアクティビティへの参加が必須である。	
担当教員への連絡方法		Email: nmitani@shinshu-u.ac.jp	

実務経験と授業科目との関連性	なし
----------------	----

保健師助産師看護師学校養成所指定規則に定める別表の種類と教育内容
 別表3 (看護師課程) 健康支援と社会保障制度

看護学部看護学科 シラバス

授業科目	微生物・感染症学								
担当教員	金物壽久 増渕 雄 水内 豊								
配当年次	1 年次	配当学期	後期	単位数	1 単位	必修・選択	必修	授業形態	講義
授業目標	日々の生活と医療、看護の実際に役立つ微生物、感染症や感染対策の方法について学修する。								
学習目標	1. 地球上には多くの動植物が生を営んでおり、人間もその中の一つの生き物であることを理解する。 2. 小動物や微生物から身を守るための生体防御機構について理解する。 3. 各種感染症を理解し、その診断、治療、予防について説明できる。 4. 医療関連感染とスタンダードプリコーションについて理解する。								
授業計画									
回	開講日	授業内容							担当教員
1	9/28	微生物学入門：身近な小動物による健康被害							金物壽久
2	9/28	微生物学総論・感染症の歴史、疫学							増渕 雄
3	10/5	感染と免疫（自然免疫と獲得免疫、液性免疫と細胞性免疫）							〃
4	10/5	細菌感染とウイルス感染							〃
5	10/12	院内感染と市中感染症							〃
6	10/12	さまざまな市中感染症							〃
7	10/19	結核							〃
8	10/19	H I V 感染症							〃
9	10/26	真菌感染症、プリオン病							〃
1 0	10/26	寄生虫感染症							〃
1 1	11/2	医療関連感染：対策とその歴史、I C T の活動とその役割							水内 豊
1 2	11/2	医療関連感染：感染経路別感染対策、針刺し事故対策							〃
1 3	11/9	予防接種と感染症、各種ワクチン							〃
1 4	11/9	国内と国際保健、次世代に続く感染症の課題							〃
1 5	11/16	まとめ：院内感染対策における看護師の役割							〃
教科書		田城孝雄、北村聖 編：改訂版 感染症と生体防御 放送大学教育振興会							
参考図書		水口康雄 編：ナースのための微生物学 南山堂							
予習・復習内容		教科書は 2 回は通読し感染症を理解してください。各論は参考図書で知識を整理すること。							
成績評価方法・基準		定期試験 1 0 0 %							
履修上の注意		感染症に関する事例が新聞メディアで取り上げられたら、情報をまとめ共有しましょう							
担当教員への連絡方法		南館事務員に申し出る。							
実務経験と授業科目との関連性		整形外科における感染対策、I C T の一員としての経験から指導する。							
保健師助産師看護師学校養成所指定規則に定める別表の種類と教育内容 別表 3 （看護師課程） 疾病の成り立ちと回復の促進									

看護学部看護学科 シラバス

授業科目	疫学									
担当教員	林 邦彦									
配当年次	2 年次	配当学期	前期	単位数	2 単位	必修・選択	選択	授業形態	講義	
授業目標	根拠に基づいた看護を实践する基礎となる疫学の知識、疫学データの解釈(因果関係の推定)疫学調査の計画・実施・解析方法について学ぶ。									
学習目標	1. 疫学の基本的な方法論や概念について理解できる。 2. 疫学の指標について理解できる。 3. 疫学研究調査の組み立てが理解できる。 4. 疫学研究の種類を理解できる。 5. 因果関係の評価ができる。									
授業計画										
回	開講日	授業内容							担当教員	
1	4/13	疫学の基本的概念と方法論							林 邦彦	
2	4/20	疫学発展の歴史と現代における展開							〃	
3	5/18	疫学で用いられる指標（１）さまざまな健康事象とその指標							〃	
4	5/25	疫学で用いられる指標（２） 疾病量の指標							〃	
5	6/1	疫学で用いられる指標（３） 比較の指標							〃	
6	6/8	疫学研究調査の組み立て 研究デザイン概論							〃	
7	6/15	疫学研究の種類（１） 記述疫学							〃	
8	7/6	疫学研究の種類（２） 分析疫学 コホート研究							〃	
9	〃	疫学研究の種類（３） 分析疫学 症例対照研究							〃	
10	7/13	因果関係 バイアス、交絡因子							〃	
11	〃	疫学データの表現方法							〃	
12	7/20	スクリーニング							〃	
13	〃	疫学と公衆衛生看護							〃	
14	7/27	まとめ(+倫理について)問題演習							〃	
15	〃	これまでの学習成果の確認とまとめ							〃	
教科書		丸井英二 編：最新 保健学講座 6 疫学/保健統計 メヂカルフレンド社								
参考図書		1. 厚生労働統計協会 編：国民衛生の動向 最新版 2. 日本疫学会 訳：疫学辞典 第5版 日本公衆衛生協会 3. 日本疫学会監修：はじめて学ぶやさしい疫学～疫学への招待～改訂第2版 南江堂								
予習・復習内容		予習：教科書の該当章を読む、復習：毎回配布のプリントやクイズの復習								
成績評価方法・基準		期末試験 100%								
履修上の注意		なし								
担当教員への連絡方法		南館事務室に連絡								
実務経験と授業科目との関連性		なし								
保健師助産師看護師学校養成所指定規則に定める別表の種類と教育内容										
別表 3 (看護師課程) 健康支援と社会保障制度										
別表 1 (保健師課程) 疫学										

看護学部看護学科 シラバス

授業科目	保健統計学								
担当教員	林 邦彦 井手野 由季								
配当年次	2 年次	配当学期	前期	単位数	2 単位	必修・選択	選択	授業形態	講義
授業目標	健康に関する各種統計資料(人口統計、各種保健・医療・福祉・介護に関する統計や指標)の目的並びに研究調査における統計学の基礎知識、標準的な統計手法を学び、保健・医療・福祉に関するデータベースや文献、図書を探索し、利用して、健康課題解決に役立てる力を養う。								
学習目標	1. 保健統計を読み解く資料の見方を学ぶ。 2. データ収集の方法について学ぶ。 3. 各種保健指標の性格と意味について学ぶ。 4. 統計資料の解析法について学ぶ。								

授業計画			
回	開講日	授業内容	担当教員
1	4/13	保健統計学概論、医学・保健での定量化、系統的誤差と偶然誤差	林
2	4/20	保健統計資料の見方 保健統計の歴史、人口動態統計、人口静態統計	〃
3	4/27	データの解析 データの要約と図示	井手野
4	〃	データの解析 代表値と散布度	〃
5	5/11	データの解析 統計学的推論、確率と分布	〃
6	〃	データの解析 推定	〃
7	5/18	保健統計資料の見方 出生と人口再生産、死亡および死産死、年齢調整、生命表	林
8	5/25	保健統計資料の見方 保健統計調査 基幹統計、その他の統計調査	〃
9	6/1	調査計画での統計学 データ収集における抽出法	〃
10	6/8	調査計画での統計学 データの特性と尺度、疾病量の尺度と比較の尺度	〃
11	6/15	調査計画での統計学 計画書・調査票の作成、仮説検定の原理(検出力とサンプルサイズ)	〃
12	6/22	データの解析 仮説検定	井手野
13	〃	データの解析 四分表の分析	〃
14	6/29	データの解析 相関と回帰	〃
15	〃	まとめ これまでの講義のレビュー&質疑応答	〃

教科書	丸井英二 編：最新 保健学講座 6 疫学/保健統計 メヂカルフレンド社
参考図書	1. 高木廣文ら：エビデンスのための看護研究の読み方・進め方 EBN BOOKS 中山書店 2. 佐藤俊哉：宇宙怪人しまりす 医療統計を学ぶ 岩波科学ライブラリー 3. 佐藤俊哉：宇宙怪人しまりす 医療統計を学ぶ 検定の巻 岩波科学ライブラリー
予習・復習内容	予習：教科書の該当章を読む、復習：毎回配布のプリントやクイズの復習
成績評価方法・基準	期末試験 100%
履修上の注意	なし
担当教員への連絡方法	南館事務室に連絡

実務経験と授業科目との関連性	なし
保健師助産師看護師学校養成所指定規則に定める別表の種類と教育内容	
別表 3	(看護師課程) 疾病の成り立ちと回復の促進
別表 1	(保健師課程) 保健統計学

看護学部看護学科 シラバス

授業科目	総合医療論									
担当教員	岩谷 力									
配当年次	1 年次	配当学期	前期	単位数	1 単位	必修・選択	必修	授業形態	講義	
授業目標	近代医学の歴史、近代西洋医学における疾患概念、疾病分類、診断・治療の概要、社会制度としての近代的医療における病者、患者、障害者、疾患や障害の軌跡、病い・患いの理解と治療理念と方法、民間医療、伝統医療などの補完的医療の相対的理解を学び、保健・医療・福祉の分野における看護職の役割、看護職への期待を理解する。									
学習目標	1. 病気のとらえ方、病理学的志向、機能的志向について学ぶ。 2. 医学の歴史を学ぶ。 3. 保健・医療・福祉システムの歴史的発展過程を学ぶ。									
授業計画										
回	開講日	授業内容							担当教員	
1	4/9	病気とは：健康と病気							岩谷 力	
2	4/16	病人、患者、障害者							〃	
3	4/23	医療とは：病気を治す、病人を診る、病を癒す							〃	
4	4/30	医学の歴史							〃	
5	5/14	医療の目的、仕組							〃	
6	5/21	健康を支える制度							〃	
7	6/11	医学の進歩と医療の変革							〃	
8	6/18	これからの健康問題							〃	
教科書		系統看護学講座 総合医療論 健康支援と社会保障制度 1 医学書院								
参考図書		なし								
予習・復習内容		教科書の該当項目を予習・復習								
成績評価方法・基準		小テスト 5 0 %、レポート 5 0 %								
履修上の注意		なし								
担当教員への連絡方法		南館事務室に伝言してください								
実務経験と授業科目との関連性		医師としての臨床経験に基づき、授業することができる。								
保健師助産師看護師学校養成所指定規則に定める別表の種類と教育内容 別表 3 (看護師課程) 健康支援と社会保障制度										

保健師助産師看護師学校養成所指定規則に定める別表の種類と教育内容
別表3 (看護師課程) 健康支援と社会保障制度

看護学部看護学科 シラバス

授業科目	健康社会学								
担当教員	越智 康詞								
配当年次	2 年次	配当学期	後期	単位数	1 単位	必修・選択	必修	授業形態	講義
授業目標	健康と病気、保健と医療の社会的側面について理解し、人間が環境に適応して生きてゆくという視点から個人と集団の意思決定、行動、責任について考える。主な内容は、健康と病気の捉え方における多次元性と社会的決定要因、生活や人間関係の影響、保健や医療での患者・医師・家族の行動、医療技術の進展とその限界などである。								
学習目標	1. 健康と病気が単に個人的な問題でなく、社会や社会的生活習慣と深く結びついた現象であることについて理解する。 2. 健康・病気の社会的格差など病の社会性を理解した上で、適切な健康支援やソーシャルサポートの在り方について学ぶ。 3. 各自が自らの健康に配慮するヘルスリテラシーや互いに支え合うソーシャルキャピタルの意義や支援方法（設計）について学ぶ。								
授業計画									
回	開講日	授業内容							担当教員
1	10/2	ガイダンス：健康（病気）の定義と社会（疾患と病気、病人役割）、健康支援の専門職							越智 康詞
2	10/9	人間とは何か・技術＝補助具（障害・バリアフリー）、医療技術と生命倫理							〃
3	10/16	健康に関心を持つ社会（歴史）・近代社会（優性思想と生政治）、学校化社会・医療化社会							〃
4	10/23	現代社会と病・ストレス（資本主義・依存症ビジネス：四つのエコロジー、社会格差と健康格差）							〃
5	10/30	技術と倫理							〃
6	11/6	ヘルスリテラシー、労働・福祉・ソーシャルキャピタル（社会設計）							〃
7	11/13	研究発表							〃
8	11/20	まとめ							〃
教科書		特に指定しない。							
参考図書		適宜紹介する。							
予習・復習内容		授業終了時に提示する。							
成績評価方法・基準		評価配分：定期試験 80%、レポート 20%							
履修上の注意		なし							
担当教員への連絡方法		E-mail：yasushi@shinshu-u.ac.jp							
実務経験と授業科目との関連性			なし						
保健師助産師看護師学校養成所指定規則に定める別表の種類と教育内容 別表 3 （看護師課程） 健康支援と社会保障制度 別表 1 （保健師課程） 保健医療福祉行政論									

看護学部看護学科 シラバス

授業科目	保健医療福祉行政論									
担当教員	川崎 千恵 中村 秀一 島崎 謙治									
配当年次	2 年次	配当学期	後期	単位数	2 単位	必修・選択	必修	授業形態	講義	
授業目標	保健医療福祉行政の理念、変遷、その仕組み・機能を知り、公衆衛生看護活動を行ううえで不可欠な制度などについて理解するとともに、国および地方自治体における行政（保健医療計画、福祉計画、介護保険計画などの策定・実施・評価など）の実際を学ぶ。									
学習目標	1. わが国の保健医療福祉行政の理念、変遷、行政の仕組み・機能、財政の仕組みについて説明できる。 2. 保健医療福祉行政の組織と保健師の活動体制について説明できる。 3. 近年の行政、改革の方向を考えながら、それぞれの制度がどのような役割を果たし、どのような課題があるか述べるができる。 4. 保健医療福祉行政と保健師の活動について理解を深め、述べるができる。									
授業計画										
回	開講日	授業内容							担当教員	
1	9/29	保健医療福祉行政の理念							川崎	
2	10/6	保健医療福祉行政の変遷、地域保健の法的基盤							〃	
3	10/13	地域保健の行政組織と保健師の活動(体制)							〃	
4	10/20	保健医療福祉行政の構造（仕組み、概要）							中村	
5	10/27	保健医療福祉財政							〃	
6	11/7	社会福祉・社会保障制度の歴史							島崎	
7	11/24	社会保障の目的、機能と体系について							中村	
8	11/7	医療保障制度							島崎	
9	11/7	医療提供体制と関連法・制度							〃	
1 0	12/1	老人福祉法と介護保険制度 -措置から契約へ-							中村	
1 1	12/8	公的年金と生活保護制度 -最低生活の保障と生活困窮者の支援-							〃	
1 2	12/22	その他の社会福祉制度							川崎	
1 3	1/5	地域包括ケアシステムと地域共生社会							中村	
1 4	1/12	これからの保健医療福祉行政と地域保健活動							川崎	
1 5	1/19	まとめ							〃	
教科書		1. 野村陽子編, 保健医療福祉行政論（メヂカルフレンド社, 2015） 2. 厚生労働統計協会, 国民衛生の動向（8 月発刊最新版）								
参考図書		1. 田中耕太郎、棕野美智子、はじめての社会保障 第14版（有斐閣, 2017） 2. 国民衛生の動向（厚生統計協会、最新版） 3. 国民の福祉と介護の動向（厚生統計協会、最新版） 4. これからの保健医療福祉行政論 第2版（日本看護協会出版会, 2020） 5. 保健医療福祉行政論 標準保健師講座（医学書院, 2017）								
予習・復習内容		事前に授業内容に該当する教科書・参考図書を読んで参加すること								
成績評価方法・基準		定期試験（筆記） 1 0 0 %								
履修上の注意		保健医療福祉についての時事問題に関心を持ち、授業に参加してください。								
担当教員への連絡方法		Mail: kawasaki.chie@shitoku.ac.jp								

実務経験と授業科目との関連性	地方行政・国行政における実務経験があり、経験を踏まえ事例を交えながら科目を展開することができる。
保健師助産師看護師学校養成所指定規則に定める別表の種類と教育内容	
別表 3 (看護師課程)	健康支援と社会保障制度
別表 1 (保健師課程)	保健医療福祉行政論

看護学部看護学科 シラバス

授業科目	看護学概論								
担当教員	井部俊子								
配当年次	1 年次	配当学期	前期	単位数	1 単位	必修・選択	必修	授業形態	講義
授業目標	看護・看護学の歴史的発展過程を踏まえ、看護・看護学の現状（看護職、看護教育、保健医療システム、看護倫理、看護研究など）とその方向性を理解する。各自が看護・看護学について考える土台を形成し、看護実践の基礎力を培う。								
学習目標	1. 看護の本質と倫理を理解する。 2. 看護の対象である人間・生活を理解する。 3. 人びとの健康生活とライフサイクルを理解する。 4. 職業としての看護と看護提供のしくみを理解する。								
授業計画									
回	開講日	授業内容							担当教員
1	4/9	看護学概論の学習について（オリエンテーション）							井部 俊子
2	4/9	看護の本質と機能							〃
3	4/16	看護の対象者の理解							〃
4	4/16	健康と病気							〃
5	4/23	ライフサイクルと健康							〃
6	4/23	看護実践のための理論							〃
7	4/30	看護における価値と倫理							〃
8	4/30	看護ケアの基本							〃
9	5/14	看護過程という方法論							〃
10	5/21	看護と法							〃
11	5/28	保健医療福祉システム							〃
12	6/11	看護の展開と継続性							〃
13	6/11	看護サービスマネジメント							〃
14	6/18	災害看護							〃
15	6/18	国際看護							〃
教科書	1. 志自岐康子 他編：ナーシング・グラフィカ基礎看護学①（看護学概論）2017版 メディカ出版 2. ヴァージニア・ヘンダーソン著 湯横ます 他訳：看護の基本の基本となるもの 日本看護協会出版会 3. フローレンス・ナイティンゲール著 小玉香津子 他訳：看護覚え書き 日本看護協会出版会 4. 手島恵 監修：看護者の基本的責務2019版 日本看護協会出版会 5. Julia B.George編 南裕子 他訳：看護理論集第3版 日本看護協会出版会 6. 山本光昭編：新体系看護学全書 関係法規 メジカルフレンド社								
参考図書	ダニエル F. チャンプリス著 浅野祐子 訳：ケアの向こう側 日本看護協会出版会								
予習・復習内容	教科書1をもとに「授業内容」に沿った予習・復習をすること								
成績評価方法・基準	期末試験100%								
履修上の注意	小グループで実施する意見交換に積極的に参加してください。								
担当教員への連絡方法	南館事務室に伝言してください。								
実務経験と授業科目との関連性	病院における看護実践を有する。 各概念について具体例をあげて解説することで学生の理解を深めることができる。								
保健師助産師看護師学校養成所指定規則に定める別表の種類と教育内容 別表3 （看護師課程） 基礎看護学									

看護学部看護学科 シラバス

授業科目	基礎看護技術論 I								
担当教員	田淵 祥恵 宮澤 美津子 田中 高政 野池 光子								
配当年次	1 年次	配当学期	前期	単位数	2 単位	必修・選択	必修	授業形態	演習
授業目標	看護の対象が各個人の最適健康状態を生み出せるよう、日常生活行動における看護の基礎的知識・技術を習得する。 （安全、感染予防、環境、清潔、睡眠、安楽、食事・排泄） 1. 看護技術の特徴と対象の安全・安楽・自立を目指した看護技術を提供する看護職者の役割を理解する 2. 看護実践に共通する基本的看護技術（安楽・感染予防）と日常生活援助技術（環境、清潔、睡眠、安楽、食事・排泄）の基本的知識を理解する 3. 看護実践に共通する基本的看護技術と日常生活援助の基本的技術を習得する 4. 対象の最適な健康状態を生み出すために、科学的根拠に基づいた看護技術を修得する意義を理解する								
学習目標	1. 看護技術の特徴について学ぶ 2. 対象の安全・安楽・自立を目指した看護技術を提供する看護職者の機能について説明する 3. 基本的看護技術の科学的根拠について説明する 4. 科学的根拠に基づいた基本的看護技術の援助方法を習得する 5. 日常生活援助技術の科学的根拠について説明する 6. 科学的根拠に基づいた日常生活援助技術の援助方法を習得する 7. 対象の最適な健康状態を生み出すために、科学的根拠に基づいた看護技術を修得する意義を認める								
授業計画									
回	開講日	授業内容							担当教員
1	4/21	看護技術とは何か：看護技術の特徴、看護技術における倫理							田淵
2	〃	コミュニケーションの技術（１）：コミュニケーションとは							田中
3	〃	コミュニケーションの技術（２）：看護におけるコミュニケーション							〃
4	4/28	看護実践における教育・相談：看護における教育機能、教育・相談の援助方法							〃
5	〃	安全管理の技術：医療・看護における安全の意義、看護事故の構造、看護事故防止と対策							田淵、田中、宮澤、野池
6	5/7	看護技術とボディメカニクス（講義・演習）							〃
7	〃	感染予防の技術（１）：感染と感染予防の基礎的知識、感染源対策と感染経路対策							〃
8	5/12	感染予防の技術（２）：手指衛生、個人防護用具の適用法（演習）							〃
9	〃	環境を整える技術（１）：環境の諸要素と調整、療養生活における環境の調整							田中
10	5/19	環境を整える技術（２）：環境整備、ベッドメイキング（演習）							田中、田淵、宮澤、野池
11	5/21	活動・運動の援助技術（１）：活動・運動の基礎的知識、援助の方法							〃
12	5/26	活動・運動の援助技術（２）：体位の保持、体位変換（演習）							〃
13	6/9	活動・運動の援助技術（３）：車椅子・ストレッチャーの構造、移送の援助（演習）							〃
14	6/16	睡眠・休息、安楽の援助技術（１）：休息と睡眠、安楽の基礎的知識、援助の方法							田淵
15	〃	睡眠・休息、安楽の援助技術（２）：呼吸法、リラクゼーション法（演習）							田淵、田中、宮澤、野池
16	6/23	習得技術の統合：寝床環境の調整（シーツ交換・体位変換・体位の保持・環境整備）（演習）							〃
17	〃	食事・栄養の援助技術（１）：食事・栄養摂取の意義と基礎的知識、援助の方法							宮澤
18	6/25, 6/30	食事・栄養の援助技術（２）：食事の援助（演習）							宮澤、田中、田淵、野池
19	6/30	排泄の援助技術（１）：排泄の意義、排尿の基本的知識、援助の方法							田淵
20	〃	排泄の援助技術（２）：排便の基本的知識、援助の方法							〃
21	7/2	清潔・衣生活の援助技術（１）：清潔の意義、清潔の基礎的知識							田淵、田中、宮澤、野池
22	〃	清潔・衣生活の援助技術（２）：清潔・衣生活における援助の方法							〃
23	7/7	排泄の援助技術（３）：ポータブルトイレを使用した排泄の援助、ベッド上での排泄の援助（演習）							〃
24	7/9	清潔・衣生活の援助技術（３）：足浴（演習）							〃
25	7/14, 7/16	清潔・衣生活の援助技術（４）：部分清拭、寝衣交換（演習）							〃
26	〃	〃							〃
27	7/21, 7/23	清潔・衣生活の援助技術（５）：洗髪（演習）							〃
28	〃	〃							〃
29	7/28	清潔・衣生活の援助技術（６）：陰部洗浄（演習）							田淵、田中、宮澤、野池
30	7/30	授業の振り返り・まとめ							田淵
教科書	香春知永、斉藤やよい編集、看護学テキストNice 基礎看護技術 看護過程のなかで技術を理解する 第3版 南江堂								
参考図書	1. 深井喜代子編集、新体系看護学全書基礎看護学②基礎看護技術Ⅰ第5版、メヂカルフレンド社 2. 深井喜代子編集、新体系看護学全書基礎看護学③基礎看護技術Ⅱ第4版、メヂカルフレンド社								
予習・復習内容	毎回教科書の指定されたページを読んでくる 毎回授業終了時に内容を提示する								
成績評価方法・基準	評価配分：筆記試験60％、課題40％の総合評価								
履修上の注意	・看護技術は、人間と人間の相互行為によって展開される技術です。自身の日常生活行動に関心を持ち、専門基礎分野の科目の学修内容と関連づけながら授業に参加しましょう。 ・演習はグループワーク中心です。各自、学習準備状況を整えて授業に参加しましょう。								
担当教員への連絡方法	E-mail: tabuchi.sachie@shitoku.ac.jp								
実務経験と授業科目との関連性	担当教員は病院での勤務経験を有する。このことから、日常生活行動を支援する看護技術について、理論と実践に基づいた授業を提供することができる。								
保健師助産師看護師学校養成所指定規則に定める別表の種類と教育内容 別表3（看護師課程） 基礎看護学									

看護学部看護学科 シラバス

授業科目	基礎看護技術論Ⅱ								
担当教員	田渕 祥恵 宮澤 美津子								
配当年次	1 年次	配当学期	後期	単位数	2 単位	必修・選択	必修	授業形態	演習
授業目標	看護の対象が各個人の最適健康状態を生み出せるよう、診療における看護の基礎的知識・技術を習得する。（コミュニケーション、教育・相談、治療検査に関わる技術・与薬、記録）								
学習目標	1. 診療に伴う看護技術の基礎的知識について学ぶ。 2. 診療に伴う看護技術の科学的根拠について説明できる。 3. 科学的根拠に基づいた看護技術の援助方法を習得する。 4. 対象の最適な健康状態を生み出すために、科学的根拠に基づいた看護技術を修得する意義を認める。								
授業計画									
回	開講日	授業内容							担当教員
1	10/2	診療に伴う技術① 診療過程における看護技術							田渕
2	"	創傷管理技術① ドレッシング法の基礎知識、ドレッシング法の種類と適用							宮澤
3	10/2	検査に伴う技術① 検体採取と方法、生体検査と援助方法							
4	10/9	診療に伴う技術② 無菌操作：滅菌物の取り扱い、滅菌手袋の着脱（演習）							
5	"	"							
6	"	創傷管理技術② ドレッシング法（演習）							宮澤
7	10/16	検査に伴う技術② 検査に伴う看護の役割							田渕
8	"	与薬に伴う技術① 与薬に関する基礎知識、与薬法の種類と方法							"
9	"	与薬に伴う技術② 注射法の基礎知識と方法							"
10	10/23	検査に伴う技術③ 採血法（演習）							
11	"	"							
12	10/30	与薬に伴う技術③ 筋肉内注射（演習）							
13	11/6	"							
14	11/13	与薬に伴う技術④ 点滴静脈内注射（演習）							
15	11/20	"							
16	"	栄養療法に伴う技術① 栄養療法の基礎知識、種類と方法							宮澤
17	11/27	呼吸・循環を整える技術① 呼吸を整える援助の基本、援助の方法							田渕
18	"	検査に伴う技術④ 導尿（演習）							宮澤
19	12/4	"							"
20	"	呼吸・循環を整える技術② 呼吸を整える援助の基本、援助の方法							田渕
21	12/11	検査に伴う技術⑤ グリセリン浣腸（演習）							
22	"	"							
23	12/18	栄養療法に伴う技術② 胃チューブの挿入（演習）							宮澤
24	"	"							"
25	1/8	呼吸・循環を整える技術③ 一時的吸引：口腔吸引・鼻腔吸引（演習）							"
26	"	"							"
27	1/15	呼吸・循環を整える技術④ 酸素吸入療法（演習）							"
28	"	症状緩和技術① 温熱刺激・寒冷刺激の基礎知識、効用と適用							田渕
29	1/22	症状緩和技術② 温電法・冷電法（演習）							"
30	"	授業の振り返り・まとめ							"
教科書		香春知永、斎藤やよい編集：看護学テキストNICE基礎看護技術 看護過程のなかで技術を理解する 改訂第3版 南江堂							
参考図書		1. 深井喜代子 編：新体系看護学全書基礎看護学②基礎看護技術Ⅰ第5版 株式会社カレント 2. 深井喜代子 編：新体系看護学全書基礎看護学③基礎看護技術Ⅱ第4版 株式会社カレント							
予習・復習内容		毎回教科書の指定された頁を読んでくる。 毎回授業終了時に内容を提示する。							
成績評価方法・基準		・評価配分：定期試験60%、課題40%の総合評価							
履修上の注意		・看護技術は、人間と人間の相互行為によって展開される技術です。自身の日常の生活行動に関心を持ち、専門基礎分野の科目の学修内容と関連づけながら授業に参加しましょう。 ・演習はグループワーク中心です。各自、学習準備状況を整えて授業に参加しましょう。							
担当教員への連絡方法		E-mail: tabuchi.sachie@shitoku.ac.jp							
実務経験と授業科目との関連性			担当教員は病院勤務経験を有する。このことから、治療過程における看護技術について、理論と実践に基づいた授業を提供することができる。						
保健師助産師看護師学校養成所指定規則に定める別表の種類と教育内容 別表3（看護師課程） 基礎看護学									

看護学部看護学科 シラバス

授業科目	ヘルスアセスメント方法論								
担当教員	田中 高政 田渕 祥恵								
配当年次	2年次	配当学期	通年	単位数	2単位	必修・選択	必修	授業形態	演習
授業目標	看護実践の過程で欠かすことのできないヘルスアセスメントの概念と意義を理解し、人間の身体的・心理的・社会的側面をアセスメントするために必要な知識・技術・態度を習得する。また、コミュニケーションスキルを高め、プロフェッショナルリズムに則ったチーム医療を学びながら、クリティカルシンキングにより事例の看護過程を展開する。								
学習目標	1. ヘルスアセスメントに必要な基礎的知識と基本概念を説明することができる。 2. フィジカルアセスメントに必要な診察機器を適切に用いることができる。 3. 系統的なフィジカルアセスメント技法を習得することができる。 4. 対象の健康状態を心理的・身体的・社会的側面からアセスメントすることができる。 5. 看護実践における看護過程の意義を説明することができる。 6. 看護過程の構成要素を説明することができる。 7. 健康障害を持つ患者の事例を用いた看護過程の展開について理解することができる。								
授業計画									
回	開講日	授業内容							担当教員
1	4/9	オリエンテーション：ヘルスアセスメントの概念を理解する							田中
2	〃	健康歴とセルフケア能力のアセスメント：情報収集のためのコミュニケーションについて学ぶ							〃
3	4/16	心理的・社会的側面のアセスメントについて理解する							〃
4	〃	バイタルサインについて理解する							〃
5	4/23	バイタルサインの測定について演習を通して学ぶ							〃
6	4/30	バイタルサインの測定について演習を通して学ぶ							〃
7	5/7	系統別フィジカルアセスメント：頭頸部と感覚器のフィジカルアセスメントについて学ぶ							〃
8	5/14	頭頸部と感覚器のフィジカルアセスメントについて演習を通して学ぶ							〃
9	5/14	呼吸器系と循環器系のフィジカルアセスメントについて学ぶ							〃
10	5/21	呼吸器系のフィジカルアセスメントについて演習を通して学ぶ							〃
11	6/11	循環器系のフィジカルアセスメントについて演習を通して学ぶ							〃
12	6/18	腹部・筋骨格・神経系のフィジカルアセスメントについて学ぶ							〃
13	6/25	腹部・筋骨格・神経系のフィジカルアセスメントについて演習を通して学ぶ							〃
14	7/2	総合演習（1）グループで事例を総合的に検討することで、学習を深める							〃
15	〃	総合演習（2）グループで事例を総合的に検討することで、学習を深める							〃
16	10/5	看護実践における看護過程とその意義について学ぶ							田渕
17	10/12	看護過程の構成要素について学ぶ（1）アセスメント							〃
18	〃	看護過程の構成要素について学ぶ（2）診断・計画							〃
19	10/19	看護過程の構成要素について学ぶ（3）実施・評価							〃
20	〃	ゴードンの機能的健康パターンについて学ぶ							〃
21	10/26	看護記録について学ぶ							〃
22	〃	事例による看護過程の展開（1）事例紹介							〃
23	11/2	事例による看護過程の展開（2）アセスメント①/2							〃
24	11/9	事例による看護過程の展開（3）アセスメント②/2							〃
25	11/16	事例による看護過程の展開（4）診断							〃
26	11/30	事例による看護過程の展開（5）計画立案①/2							〃
27	12/7	事例による看護過程の展開（6）計画立案②/2							〃
28	12/14	総合演習（3）グループで事例を総合的に検討する（看護計画の実施・評価）							田中
29	12/21	総合演習（4）グループで事例を総合的に検討する（看護計画の実施・評価）							〃
30	1/4	全体を通して学びをふり返る							〃
教科書	1. 三上れつ、小松万喜子編集：ヘルスアセスメント 臨床実践能力を高める 改訂第2版 南江堂								
参考図書	1. 山内豊明：フィジカルアセスメントガイドブック 医学書院 2. 医療情報科学研究所：フィジカルアセスメントがみえる メディックメディア 3. リン S. ビックリー 他著 福井次矢 他訳：ペイツ診察法 医学書院 4. 看護アセスメント会訳、ゴードン看護診断マニュアル 原著第11版 医学書院 5. 江川隆子監訳：ゴードン博士の看護診断アセスメント指針 よくわかる機能的健康パターン 照林社 6. 古橋洋子監修 患者さんの情報収集ガイドブック 第2版 メヂカルフレンド社								
予習・復習内容	毎回教科書の指定されたページを読んでくる。 フィジカルアセスメントに関連する形態機能学のレポートを課す。 看護過程の展開では、毎回の授業終了時に内容を提示する。								
成績評価方法・基準	評価配分：期末試験40％、実技試験30％、課題30％の総合評価								
履修上の注意	フィジカルアセスメントでは、聴診器を持参する（任意）。 学習準備状況を整えて授業に参加する。								
担当教員への連絡方法	初回の授業でアナウンスする。								
実務経験と授業科目との関連性	田中：ICUや救急救命センター、一般病棟や小児病棟などでの幅広い臨床経験から、実践的な知識と技術を学生に伝えることができる。 田渕：外科・内科病棟での勤務を有する。このことから、理論と実践に基づいた看護を学生に伝えることができる。								
保健師助産師看護師学校養成所指定規則に定める別表の種類と教育内容 別表3 （看護師課程） 基礎看護学									

看護学部看護学科 シラバス

授業科目	遺伝看護学								
担当教員	鈴木 真理子 有森 直子								
配当年次	3 年次	配当学期	前期	単位数	1 単位	必修・選択	必修	授業形態	講義
授業目標	遺伝学の基礎知識を習得し、遺伝的負荷を有する人々が直面する様々な課題を理解し、医学的・社会的・倫理的に許容されうる課題解決の仕方並びに看護の役割について学ぶ。								
学習目標	1. 遺伝に関するさまざまな話題に関心を持ち、正しく理解する。 2. 看護に必要な遺伝医学の知識を理解する。 3. さまざまな状況における遺伝的課題を具体的に述べる。 4. 遺伝的課題を有する患者や家族への看護を述べる。 5. 遺伝医療における多職種連携を説明する。								
授業計画									
回	開講日	授業内容							担当教員
1		遺伝看護学の学び方ガイダンス							鈴木
2		ゲノム医療と看護							有森
3		遺伝/ゲノム看護に必要な基礎知(1)ゲノム・遺伝子の構造と機能							〃
4		遺伝/ゲノム看護に必要な基礎知(2)家族歴・家系図とリスクアセスメント							〃
5		遺伝/ゲノム看護の実(1)周産期・小児期							〃
6		遺伝/ゲノム看護の実(2)成人期（がん）							〃
7		遺伝/ゲノム看護の実際(3)成人期（神経筋疾患）							〃
8		まとめ							鈴木
教科書		有森直子 他編著. 遺伝／ゲノム看護. 2017版. 医歯薬出版.							
参考図書		1. 中込さと子監修. 遺伝看護学. 2019. 羊土社. 2. 渡邊淳. 遺伝医学. 2019. 羊土社.							
予習・復習内容		各授業には、授業内容に関する教科書の該当箇所を予習し質問を準備する。							
成績評価方法・基準		期末試験 100%							
履修上の注意		なし							
担当教員への連絡方法		arimori@clg.niigata-u.ac.jp							
実務経験と授業科目との関連性		遺伝診療部での勤務を有する。このことから、遺伝看護について理論と実践を伝えることで、学生はより深い理解が可能となる。							
保健師助産師看護師学校養成所指定規則に定める別表の種類と教育内容 別表 3 （看護師課程） 基礎看護学									

看護学部看護学科 シラバス

授業科目	看護教育論									
担当教員	井部 俊子 小林 由枝									
配当年次	4 年次	配当学期	通年	単位数	2 単位	必修・選択	必修	授業形態	講義	
授業目標	専門職教育としての看護教育制度を理解するために、看護教育の歴史の変遷を踏まえて、現状と問題点を考える。准看護師制度、看護学教育制度の一元化及び特定能力を有する看護師の問題等看護学教育を取り巻く様々な問題を検討し、今後どのような看護学教育が必要とされるかを考える。さらに、看護職のキャリア開発と継続教育の関連性を考える。									
学習目標	1. 看護教育の歴史と看護教育制度を理解する。 2. 看護教育の現状と課題を理解し、今後どのような看護学教育が必要とされるのかを考える。 3. 臨床における看護教育の実際を知り、看護者個人と組織が担う看護教育の役割を考える。 4. 看護専門職として、反省的実践家としての基礎的能力を身につける。 5. 自身のキャリアプランニングについて検討し、めざす将来像について考えることができる。									
授業計画										
回	開講日	授業内容							担当教員	
1		1. 看護教育の目的・対象							井部・小林	
2		2. 看護教育の歴史 - 看護に関わる法・制度の変遷と看護教育制度							〃	
3		3. 社会の変化と看護教育カリキュラム							〃	
4		4. 看護教育の現状と課題①							〃	
5		〃 ②							〃	
6		5. 看護を学ぶということ、看護を教えるということ①							〃	
7		〃 ②							〃	
8		〃 ③							〃	
9		6. 教育目標と評価							〃	
10		7. 卒後教育・継続教育							〃	
11		8. キャリア開発							〃	
12		9. 看護者個人と組織が担う看護教育の役割①							〃	
13		〃 ②							〃	
14		10. キャリアプランニング・めざす将来像に向けて							〃	
15		まとめ							〃	
教科書		なし								
参考図書		1. グレック美鈴 他著：NURSING看護学テキストNiCE看護教育学 看護を学ぶ自分と向き合う 南江堂 2. 杉森みど里 他著：看護教育学 第6版 医学書院								
予習・復習内容		指定した資料(文献)を読んでもくる								
成績評価方法・基準		評価配分：課題レポート80%、グループワーク参加態度20%								
履修上の注意		なし								
担当教員への連絡方法		南館事務室へ伝言してください								
実務経験と授業科目との関連性		看護大学における教育経験をもとに学生に分かりやすく解説することができる								
保健師助産師看護師学校養成所指定規則に定める別表の種類と教育内容 別表3 (看護師課程) 基礎看護学										

看護学部看護学科 シラバス

授業科目	成人看護学概論									
担当教員	鈴木 真理子									
配当年次	2 年次	配当学期	前期	単位数	2 単位	必修・選択	必修	授業形態	講義	
授業目標	成人看護学の基礎となる考え方や態度を養い、病気やストレスの侵襲とそれに対する患者、家族の反応をアセスメントし、侵襲からの保護、侵襲に対する反応を最適化し、回復を促進するための援助を学修する。									
学習目標	1. 成人の発達段階における特徴および健康問題の特徴を説明できるようになる。 2. 成人の健康レベル（急性期、慢性期、終末期）の特徴と必要な看護の概要を説明できるようになる。 3. 成人の健康上の問題解決に理論やモデルを活用する仕方がわかる。 4. 自身の生活や健康行動を振り返ることで、健康問題に対する生活調整が必要な成人の体験や反応を理解し、看護について考察できる。									
授業計画										
回	開講日	授業内容							担当教員	
1	4/7	授業ガイダンス、発達段階における成人期の特徴							鈴木 真理子	
2	4/14	成人期の健康問題の特徴と看護の概要							〃	
3	4/21	成人への看護アプローチについて							〃	
4	4/28	成人の状況と反応を理解しケアに活用できる理論やモデル1：ストレスコーピング、危機理論							〃	
5	5/12	成人の状況と反応を理解しケアに活用できる理論やモデル2：セルフケア、自己効力、エンパワメント							〃	
6	5/19	慢性病患者の理解・慢性病との共存を支える看護							〃	
7	5/26	健康生活の急激な破綻状態とは							〃	
8	6/2	急性期にある人、救急医療を必要とする人への看護							〃	
9	6/9	リハビリテーションを必要とする人への看護（生活の再構築への支援について）							〃	
10	6/16	人生の最期のときを支える看護							〃	
11	6/23	治療過程にある患者への看護、症状マネジメント							〃	
12	6/30	療養の場を移行する人への看護（在宅での継続医療、地域包括ケアシステム）							〃	
13	7/7	退院支援（患者・家族への関わり方、多職種との連携）							〃	
14	7/14	先端医療と看護							〃	
15	7/21	まとめ							〃	
教科書		小松浩子 他著. 系統看護学講座専門分野Ⅱ 成人看護学総論. 医学書院.								
参考図書		随時紹介します。								
予習・復習内容		シラバス記載の講義内容について、教科書の関連ページを読んで授業に臨むこと。随時実施する小テスト（詳細については初回授業でお知らせします）を復習に用い、講義内容の理解を深めること。								
成績評価方法・基準		評価配分：定期試験70%、小テスト20%、レポート10%								
履修上の注意		本科目は「成人看護学」という幅広い領域の基盤となる科目であり、初回の授業でその位置付けならびに成人看護学の全体像を説明するので、まずはそれらを理解すること。								
担当教員への連絡方法		初回の授業時にアナウンスします。								

実務経験と授業科目との関連性	内科系病棟、ICU病棟ならびに最先端医療現場の造血幹細胞移植病棟での勤務も有する。成人への看護について、理論と実践の両面から学生に看護を伝えることで、学生の看護への理解や関心はより深まる。
保健師助産師看護師学校養成所指定規則に定める別表の種類と教育内容 別表3 (看護師課程) 成人看護学	

看護学部看護学科 シラバス

授業科目	成人看護学方法論Ⅰ									
担当教員	鈴木 真理子									
配当年次	2年次	配当学期	後期	単位数	2単位	必修・選択	必修	授業形態	講義	
授業目標	急性期における侵襲とそれに対する患者、家族の反応をアセスメントし、侵襲からの保護、侵襲に対する反応を最適化し、回復を促進するための援助を学修する。									
学習目標	1. 侵襲的治療による身体機能の変化についてのメカニズム、生命や生活に及ぼす影響や心理社会的反応を考え、理解し、説明できるようになる。 2. 手術をうける対象とその家族の生命の維持、回復の促進、健康的な日常生活への移行のための必要な具体的な看護について考え、示すことができるようになる。 3. 身体機能に急激な変化が起こった急性期の成人の生命と生活を支えるための必要な看護について考えることができる。									
授業計画										
回	開講日	授業内容							担当教員	
1	9/29	授業ガイダンス							鈴木 真理子	
2	9/29	急性期看護に必要な能力（看護過程・クリティカルシンキング・臨床判断）							〃	
3	10/6	ショック・侵襲と全身管理（呼吸－循環の関係）							〃	
4	10/6	侵襲と神経系・ホルモン系・免疫系							〃	
5	10/13	侵襲と凝固、線溶系（DIC）・侵襲と代謝、栄養							〃	
6	10/13	周手術期看護の概要							〃	
7	10/20	周手術期看護①（麻酔による侵襲と生体反応）							〃	
8	10/20	周手術期看護②（手術室看護）							〃	
9	10/27	周手術期看護③（術後合併症）							〃	
10	10/27	周手術期看護④（術前アセスメント）							〃	
11	11/10	周手術期看護⑤（呼吸器系）							〃	
12	11/10	周手術期看護⑥（循環器系）							〃	
13	11/17	グループワーク①（麻酔侵襲、手術侵襲と術後合併症との関連）							〃	
14	11/17	グループワーク②（看護問題の明確化）							〃	
15	11/24	周手術期看護⑦（消化器系）							〃	
16	11/24	周手術期看護⑧（運動器系）							〃	
17	12/1	周手術期看護⑨（脳神経系）							〃	
18	12/1	周手術期看護⑩（乳がん）							〃	
19	12/8	演習①：ドレーン類の管理							〃	
20	12/8	演習①の振り返り							〃	
21	12/15	演習②：術後の観察について							〃	
22	12/15	演習②の振り返り							〃	
23	12/22	周手術期看護⑪（回復促進のための看護）							〃	
24	12/22	グループワーク③（看護計画立案）							〃	
25	1/5	演習③：離床への看護							〃	
26	1/5	演習③の振り返り							〃	
27	1/12	周手術期看護⑫（退院に向けての看護）							〃	
28	1/12	侵襲的治療（手術以外）や検査を受ける患者への看護							〃	
29	1/19	急性期医療、看護の現状と課題（倫理的課題、多職種連携）							〃	
30	1/19	まとめ							〃	
教科書	1. 雄西智恵美 他著.成人看護学 周手術期看護論.ヌーヴェルヒロカワ. 2. 鎌倉やよい、深田順子著.周術期の臨床判断を磨く 手術侵襲と生体反応から導く看護.医学書院.									
参考図書	随時紹介します。									
予習・復習内容	予習内容の詳細については随時伝えますが、講義内容に関連する既習科目（形態機能学、病理病態生理学、病態疾病治療論、薬理学服薬管理論等）の習得内容については予習すること。また小テスト（詳細については初回授業でお知らせします）は正解/不正解だけではなく、問われた内容の理解度を深めるためのツールの1つとして活用すること。									
成績評価方法・基準	評価配分：定期試験60％、小テスト10％、課題レポート10％、演習への取り組み20％									
履修上の注意	講義内容に関連する既習科目の教科書や資料ならびに本科目での配布資料は持参すること。演習時は原則、実習ユニフォームで参加すること。									
担当教員への連絡方法	初回の授業でアナウンスします。									
実務経験と授業科目との関連性	ICU病棟ならびに造血幹細胞移植病棟等での勤務経験有り。教員として急性期看護の講義、演習を担当し、臨地実習での指導経験も豊富であり、座学と実習を結び付けて考えていくことができる。									
保健師助産師看護師学校養成所指定規則に定める別表の種類と教育内容 別表3 （看護師課程） 成人看護学										

看護学部看護学科 シラバス

授業科目	成人看護学方法論Ⅱ								
担当教員	林 かおり								
配当年次	3年次	配当学期	前期	単位数	2単位	必修・選択	必修	授業形態	講義
授業目標	慢性的な健康問題をもつ人・家族が、自律的にセルフケア能力を高め、その人にとって最適な健康状態を継続できるような看護に関連する理論と方法を習得する。								
学習目標	1. 慢性的な健康問題のある人の特徴を理解することができる。 2. 慢性的な健康問題の特徴から看護上の問題を見出すことができる。 3. 健康維持、増進及び回復に必要な方法について理解をすることができる。 4. 健康状態を維持、増進するための自律・自立的セルフケア支援（患者教育）方法を理解をすることができる。 5. 疾患とその特徴を理解し患者へのセルフケア行動の支援、家族への支援について述べるすることができる。 6. 事例を通して慢性的な健康問題をもつ人及び家族への看護援助について看護展開をすることができる。 7. 看護展開を既存の理論を用いて客観性を持つ重要性について学ぶことができる。								
授業計画									
回	開講日	授業内容							担当教員
1		慢性期看護とは：慢性疾患のとらえ方、社会的動向と変化							林 かおり
2		成人の発達課題と慢性疾患の治療：考え方、治療法の特徴、成人特有の教育的関わり							〃
3		慢性疾患を有する人と家族への治療、療養行動に関わる理論と概念、意思決定を支える援助							〃
4		看護師の役割（１）：疾患に直面する人へのセルフマネジメントと継続的支援							〃
5		看護師の役割（２）：社会資源の活用、患者会、セルフヘルプグループ、サポートグループ等							〃
6		慢性疾患の人に関わる専門職とチーム医療：療養環境、地域、在宅、法的制度、医療費等							〃
7		慢性疾患を有する人と家族の特徴（１）：身体的及び精神的な特徴、身体への影響							〃
8		慢性疾患を有する人と家族の特徴（２）：治療が及ぼす身体的、心理的、社会的役割への影響							〃
9		生活習慣病と慢性疾患との関係：機序、症状、予防							〃
10		診断または継続する各種検査・治療：検査への援助、結果、画像の見方とアセスメント							〃
11		呼吸器系の障害を有する人とその家族への援助：慢性呼吸不全、肺がん、酸素療法							〃
12		循環器系の障害を有する人とその家族への援助：高血圧、慢性心不全							〃
13		心電図の取り方（演習）							〃
14		基本的な心電図の読み方（演習）							〃
15		脳・神経系の障害を有する人とその家族への援助：脳梗塞、生活上の工夫と再構築、予防等							〃
16		代謝・内分泌系の障害を有する人とその家族への援助（１）：糖尿病、脂質代謝異常							〃
17		代謝・内分泌系の障害を有する人とその家族への援助（２）：インスリン療法と援助							〃
18		食品モデルと食品交換表からのカロリー計算、血糖値測定、塩分濃度測定（演習）							〃
19		泌尿器系の障害を有する人とその家族への援助：慢性腎不全							〃
20		人工透析が必要な人への看護（１）：透析の基礎知識、透析室での看護							〃
21		人工透析が必要な人への看護（２）：日常生活での注意点と支援、患者会							〃
22		血液・免疫系の障害を有する人とその家族への援助（１）：関節リウマチ							〃
23		ステロイド療法を受ける人への看護：ステロイド療法の特徴、注意点、観察項目							〃
24		血液・免疫系の障害を有する人とその家族への援助：成人の白血病、内分泌疾患、感染症							〃
25		化学療法・放射線療法を受ける人とその家族への看護援助：入院、外来、在宅での治療							〃
26		消化器系の障害を有する人とその家族への看護：クローン病、潰瘍性大腸炎等							〃
27		生活面全体で支援が必要な人とその家族への看護：重症筋無力症、筋萎縮性側索硬化症等							〃
28		装具を付け生活をおくる人とその家族への援助：ストーマ類、シャント、カニューレ類							〃
29		身近な慢性的な疾患と生活していく工夫：貧血、各種慢性疼痛、過敏性腸症候群、逆流性食道炎							〃
30		慢性期看護の今後の展望：退院から地域、在宅への連携、疾病予防への役割							〃
教科書	鈴木久美、旗持千恵子、佐藤直美編集、成人看護学 慢性期看護 病氣とともに生活する人を支える、南江堂、								
参考図書	随時紹介をします。								
予習・復習内容	シラバス記載の講義内容について事前に予習ポイントを伝えます。講義時までには指定される書式でまとめて下さい。								
成績評価方法・基準	評価配分：定期試験８０％、小テスト１０％、課題１０％（事前に提示される課題内容）								
履修上の注意	病態・疾病治療論Ⅰ・Ⅱ、形態機能学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、薬理学・服薬管理論、成人看護学概論、成人看護学方法論Ⅰ・Ⅲ及びリハビリテーション看護論、急性・クリティカルケア論で使用した教科書、その他の教科書、配布されたプリント類、ノート及び事前課題を持参すること。演習は着脱しやすい服装、動きやすい服装で参加すること。								
担当教員への連絡方法	初回実習日オリエンテーション時にアナウンスします。								
実務経験と授業科目との関連性	形成外科病棟勤務、地域高齢者専門急性期・回復期病院で勤務と実習指導者として実務を有する。このことから座学と臨床実習を結び付けて学生とともに考えていくことができる。								
保健師助産師看護師学校養成所指定規則に定める別表の種類と教育内容 別表３（看護師課程） 成人看護学									

看護学部看護学科 シラバス

授業科目	成人看護方法論Ⅲ									
担当教員	林 かおり 横関 祐子									
配当年次	3 年次	配当学期	前期	単位数	2 単位	必修・選択	必修	授業形態	講義	
授業目標	終末期にある人々を理解し、一人ひとりに応じた看護の実際を通し、全人的な苦痛緩和、限りある生活を人として尊厳をもって生きるため、終末期の当事者とその家族への支援について、看護職者の観点からエンド・オブ・ケア方法を学ぶ。									
学習目標	1. エンドオブライフケアの基盤となる概念や理論（終末期ケア、緩和ケア、ホスピスケア）を理解し説明することができる。 2. エンドオブライフケアを必要とする対象の理解と看護実践に必要な知識、技術を理解し説明することができる。 3. エンドオブライフにおける看護過程の特徴を述べるすることができる。 4. 一人称の死について考え、エンドオブライフケアについて考えることができる。									
授業計画										
回	開講日	授業内容							担当教員	
1		生と死について考える：諸説からとらえる死生観、医療者の立場からの生と死の意味							林	
2		各発達段階での終末期の考え方							林	
3		エンドオブライフケアの概要とエンドオブライフケアを支える文化							横関	
4		エンドオブライフケアを支えるアドバンスケアプランニング：人生会議							〃	
5		エンドオブライフにある人とその家族に対する意思決定とコミュニケーション							〃	
6		身体的症状から必要とする看護ケア（１）：終末期にある人の特徴的な症状、治療、栄養管理							林	
7		身体的症状から必要とする看護ケア（２）：症状別から考える安寧、日常生活への援助							〃	
8		スピリチュアルな苦しみへの理解							横関	
9		グリーフケア：家族の悲嘆のケアと医療スタッフ自身の悲嘆のケア							〃	
10		がんサバイバーへの就労支援							〃	
11		AYA世代のがん：現状と支援について							林	
12		実際の緩和ケア							〃	
13		死後処置を行う上での手順、根拠、方法（演習）							〃	
14		地域全体で支える看取りの取り組み活動について							〃	
15		まとめ：死から考える患者の人権、現代医療、看護の課題							〃	
教科書		1. 平山正美編集, 新体系看護学全書〈別巻〉生と死の看護論, メヂカルフレンド社.								
参考図書		1. 小澤竹俊, 死を前にした人にあなただけは何ができますか?, 医学書院. 2. 梅田恵, 的場典子編集, 緩和ケア 尊厳のある生と死、大切な生活をつなぐ技と心, 南江堂.								
予習・復習内容		誰にでも訪れる「死」をタブー視せず、あらゆる発達段階、様々な場で死を迎える人の「死」をみつめ、その人らしい「死」を迎えられるための援助は何かを考える課題を提示します。予習で自己が考えまとめたものを基に講義を受け、復習では講義後考え方の変化・新たな考え等を振り返ります。								
成績評価方法・基準		評価配分：期末試験 70％、課題 30％（予習として提示する事項 20％、復習レポート 10％）								
履修上の注意		事前に提示される課題を行い持参し講義を受けること。病態・疾病治療論Ⅰ・Ⅱ、薬理学・服薬管理論、成人看護学概論、成人看護学方法論Ⅰ・Ⅱその他の既存の教科書、配布されたプリント類、ノート及び事前課題を持参すること。急性・クリティカルケア論、リハビリテーション看護論の履修をすることが望ましい。								
担当教員への連絡方法		初回の授業時にアナウンスをします。								
実務経験と授業科目との関連性		形成外科病棟勤務、地域高齢者専門急性期・回復期病院で勤務と実習指導者として実務を有する。このことから座学と臨床実習を結び付けて学生とともに考えていくことができる。								
保健師助産師看護師学校養成所指定規則に定める別表の種類と教育内容 別表 3 （看護師課程） 成人看護学										

看護学部看護学科 シラバス

授業科目	急性・クリティカルケア論									
担当教員	ミルズ しげ子									
配当年次	3年次	配当学期	前期	単位数	2単位	必修・選択	選択	授業形態	演習	
授業目標	生命の危機的状態にある患者に対するアセスメントの方法を理解し、安全・安楽の確保、重症化の回避、回復促進への援助の実際を学修する。									
学習目標	1. 機械的補助を受ける患者を対象に、看護過程を使用した看護計画を記述できる。 2. 機械的補助を受ける患者の呼吸・循環・代謝・中枢神経の評価を記述できる。 3. 医療器械の原理を学習し、クリティカルな患者へ使用する方法を習得できる。									

授業計画			
回	開講日	授業内容	担当教員
1		救急医療と集中医療、クリティカルケアの変遷	ミルズ しげ子
2		急性・クリティカルケアの特徴：急性の状態にある患者の身体的反応	〃
3		急性・クリティカルケアの特徴：急性の状態にある患者の心理的反応	〃
4		急性・クリティカルケアの特徴：家族の特徴と家族ケア	〃
5		急性・クリティカルケアの特徴：看護の特徴と多職種連携	〃
6		救急患者に対する援助：緊急度と重症度、トリアージ	〃
7		救急患者に対する援助：全身状態アセスメント（呼吸・循環・代謝・中枢神経など）	〃
8		救急患者に対する援助：急変した患者への対応：救命救急処置（心肺蘇生など）	〃
9		救命救急処置：心肺蘇生の実際と生命維持、人工呼吸器管理	〃
10		集中治療下での看護の実際：呼吸・循環の維持	〃
11		集中治療下での看護の実際：栄養管理、合併症の予防、	〃
12		周手術期患者の看護の実際：手術・麻酔による身体侵襲	〃
13		事例から考えるクリティカルケア：意識障害による人工呼吸器管理の看護	〃
14		事例から考えるクリティカルケア：急性大動脈解離の周手術期看護	〃
15		事例から考えるクリティカルケア：広範囲熱傷とショックの看護	〃

教科書	1. 佐藤まゆみ 他編：急性期看護Ⅱ急性期看護・クリティカルケア 南江堂 2. 林直子 他編：急性期看護Ⅰ概論・周手術期看護 南江堂 3. 宇都宮明美 編：誰でもわかる人工呼吸器：はじめの一步 照林社
参考図書	1. 寺町優子編：クリティカルケア看護-理論と臨床への応用 日本看護協会出版会 2. 道又元裕 編：ICUケアメソッド 学研
予習・復習内容	事前課題を提示します。予習と復習をしながら、授業への臨んで下さい。
成績評価方法・基準	評価配分：定期試験70%、課題30%（課題は、各演習課題のまとめ20%、術後のアセスメント10%）
履修上の注意	各課題をファイリングし、持参する
担当教員への連絡方法	初回の授業でアナウンスします。

実務経験と授業科目との関連性	救命救急センター、手術室での勤務を有する。生命の危機状況にある患者への看護について、実践と理論を結び付けられ、学生の理解に繋げることが可能
保健師助産師看護師学校養成所指定規則に定める別表の種類と教育内容 別表3 （看護師課程） 成人看護学	

看護学部看護学科 シラバス

授業科目	リハビリテーション看護論									
担当教員	道木 恭子									
配当年次	3 年次	配当学期	前期	単位数	2 単位	必修・選択	選択	授業形態	講義	
授業目標	慢性疾患、長期的な疾患、障害を持つ人々が、急性期の疾患管理、身体機能の回復にひきつづいて、慢性期において、心身の不調、生活上の不自由さを持ちながら健康を管理し、自律的に日常生活をマネジメントするスキルの獲得を支援するリハビリテーション看護の手法について学ぶ。									
学習目標	1. 障がいのある人の特徴を踏まえ、生活の再獲得に必要な看護について述べることができる。 2. 家族の心理・社会的特徴を踏まえた看護について述べるができる。 3. リハビリテーション看護において必要な看護技術を実施することができる。 4. 生活の再獲得に関連する制度や社会資源について述べるができる。 5. チーム医療および他職種との連携において、看護の果たす役割を述べるができる。									
授業計画										
回	開講日	授業内容								担当教員
1		オリエンテーション リハビリテーション看護概論								道木 恭子
2		運動器系の障害・中枢神経系の障害とリハビリテーション看護								〃
3		中枢神経系の障害とリハビリテーション看護								〃
4		状況設定から考える援助：移動、移乗、搬送、歩行器、杖、自助具の使用（演習）								〃
5		心臓リハビリテーション看護、呼吸器系障害とリハビリテーション								〃
6		周手術期の各過程におけるリハビリテーション								〃
7		ベットサイドで行えるリハビリテーション								〃
8		障害者のセクシュアリティ：脊髄損傷女性の妊娠、出産								〃
9		障害のある方のセクシュアリティ グループワーク（演習、発表）								〃
10		障害と家族看護：二分脊髄児の母親の体験談から家族看護を考える								〃
11		障害のある方の家族支援について グループワーク（演習、発表）								〃
12		緩和ケアでのリハビリテーション：事例の説明痛みの緩和、その人らしく生活するための援助（演習）								〃
13		嚥下リハビリテーションの実際：対象者の特徴、技法、注意点、援助方法（演習）								〃
14		様々な場でのリハビリテーションの実際：ICU、CCU、在宅等と専門職チーム医療、医療制度								〃
15		講義のまとめ 視覚障害の日常生活援助（演習）								〃
教科書		1. 酒井郁子、金城利雄編集、リハビリテーション看護 障害をもつ人の可能性とともに歩む、南江堂。 2. 武田宣子、下村晃子、道木恭子他著、系統看護学講座 別巻 リハビリテーション看護、医学書院。								
参考図書		参考書は指定せずその都度紹介します。								
予習・復習内容		事前学習：テキストを必ず事前に読んでくること。 事後学習：資料、テキストを見直し、授業のポイントの整理や補足事項の追加をする。 校内演習：事前に演習内容を確認しておく。演習記録を記載し振り返りを行う。								
成績評価方法・基準		評価配分：定期試験 80%、課題 20%（グループワーク課題 10%、発表内容 10%）								
履修上の注意		人体の正常機能、役割についての既存の教科書、配布されたプリント類、ノートを持参すること。演習時は動きやすい服装で臨むこと。								
担当教員への連絡方法		初回の授業でアナウンスします。								
実務経験と授業科目との関連性		リハビリテーション専門病院での勤務経験を有し、回復期リハ認定研修の講師を務める。 また、本講義で使用する教科書も執筆していることからリハビリテーション看護の理論と実践を伝えることで、学生はより深い理解が可能となる。								
保健師助産師看護師学校養成所指定規則に定める別表の種類と教育内容 別表 3 （看護師課程） 成人看護学										

看護学部看護学科 シラバス

授業科目	老年看護学概論									
担当教員	水崎 知子									
配当年次	2年次	配当学期	前期	単位数	2単位	必修・選択	必修	授業形態	講義	
授業目標	加齢変化が高齢者に及ぼす影響について学ぶことにより、老年期にある人の特徴を身体面、心理面、社会面および発達段階の面から理解する。また、高齢者を取り巻く保健・医療・福祉における課題を考えることにより、老年看護の役割と責任について理解する。さらに、生活機能障害や健康障害をもちながら生活を営む高齢者とその家族への看護の基本を知り、高齢者の尊厳をふまえた援助について学ぶ。									
学習目標	1. 高齢者の健康を支える意義について理解し、説明する。 2. 加齢が高齢者の身体面・心理面・社会面に及ぼす影響について理解し、説明する。 3. 発達段階における老年期の特徴について理解し、説明する。 4. 高齢者の健康を包括的に捉える視点を理解し、説明する。 5. 老年看護の理念と目標、役割について理解し、説明する。 6. 高齢者を取り巻く保健・医療・福祉における課題について理解し、説明する。 7. 高齢者を介護する家族への支援とその必要性について理解し、説明できる。									
授業計画										
回	開講日	授業内容							担当教員	
1	4/9	老年期にある人の特徴（1）加齢・老化の定義 加齢による高齢者の身体面の変化							水崎 知子	
2	4/16	老年期にある人の特徴（2）加齢による高齢者の心理面・認知機能の変化							〃	
3	4/23	老年期にある人の特徴（3）加齢による高齢者の社会面の変化 発達段階における老年期の特徴							〃	
4	4/30	加齢による身体面の変化の体験：高齢者疑似体験／若いとともにある人が生きてきた時代背景							〃	
5	5/7	若いとともにある人が生きてきた時代背景／加齢による身体面の変化の体験：高齢者疑似体験							〃	
6	5/14	老年期の健康課題（1）わが国の高齢化現象の疫学的特徴 保健医療福祉政策の変遷と課題							〃	
7	5/21	老年期の健康課題（2）高齢者の健康の捉え方—国際生活機能分類（ICF）サクセスフル・エイジング							〃	
8	5/28	老年期の健康課題（3）高齢者の健康障害の予防—フレイル、サルコペニア、ロコモティブ・シンドローム							〃	
9	6/4	老年期の健康課題（4）高齢者を介護する家族の特徴と家族への支援 終末期にある高齢者への看護							〃	
10	6/11	老年看護の理念と役割（1）老年看護の理念、看護の場と役割・機能 高齢者の権利擁護 高齢者虐待							〃	
11	6/18	老年看護の理念と役割（2）老年症候群 高齢者の包括的アセスメント—高齢者総合機能評価（CGA）							〃	
12	6/25	老年看護の理念と役割（3）地域包括ケアにおける老年看護の役割と専門職連携実践（IPW）							〃	
13	7/2	老年看護の理念と役割（4）地域包括ケアシステムとケアマネジメント							〃	
14	7/9	老年期にある人の理解（1）多様な場で生活を営む高齢者をICFモデルの視点から捉える：概念							〃	
15	7/16	老年期にある人の理解（2）多様な場で生活を営む高齢者をICFモデルの視点から捉える：演習							〃	
教科書		教科書は指定しない。資料を作成して授業ごとに配布する。								
参考図書		1. 北川公子他著.系統看護学講座専門分野Ⅱ老年看護学 第9版.医学書院. 2. 鳥羽研二他著.系統看護学講座専門分野Ⅱ老年看護 病態・疾患論 第5版.医学書院. 3. 亀井智子編集.新体系看護学全書 老年看護学①（老年看護学概論・老年保健）第4版.メヂカルフレンド社. 4. 亀井智子編集.新体系看護学全書 老年看護学②（健康障害をもつ高齢者の看護）第4版.メヂカルフレンド社. 5. 長寿科学総合研究CGAガイドライン研究班.高齢者総合的機能評価ガイドライン.厚生科学研究所. 6. 障害者福祉研究会編集.ICF 国際生活機能分類—国際障害分類改定版一.中央法規出版. その他、参考図書、参考資料等については随時授業の中で提示する。								
予習・復習内容		授業で配布した資料を熟読してください。不明な点、疑問点、関心を抱いたことについては、提示した参考図書に当たって理解したうえで、次の授業に臨んでください。								
成績評価方法・基準		評価配分：期末試験80％、課題レポート20％による総合評価								
履修上の注意		なし								
担当教員への連絡方法		E-mail:mizusaki.tomoko@shitoku.ac.jp								
実務経験と授業科目との関連性		総合病院の整形外科・産婦人科・循環器内科・心臓血管外科病棟に勤務し、高齢患者に対する看護を実践した経験を有する。このことから、療養生活を営む高齢者とその家族への看護について、理論と実践を教授することで学生の理解を促すことが可能となる。								
保健師助産師看護師学校養成所指定規則に定める別表の種類と教育内容 別表3 （看護師課程） 老年看護学										

看護学部看護学科 シラバス

授業科目	老年看護学方法論								
担当教員	桑原 良子 水嵯 知子								
配当年次	2年次	配当学期	後期	単位数	2単位	必修・選択	必修	授業形態	講義
授業目標	保健・医療・福祉の多様な場で生活を営む高齢者の持てる力を最大限に引き出し、QOLを高める看護について理解する。加齢による身体的・心理的・社会的な変化をふまえ、高齢者に生じやすい様々な障害の特徴を理解するとともに、それらを予防することの意義について学ぶ。さらに、生活機能障害や健康障害をもちながら生活を営む高齢者とその家族への適切な看護のあり方と、看護実践に必要な基礎的知識・技術を習得する。								
学習目標	1. 高齢者に生じやすい健康障害や生活機能障害とその予防に向けた援助について理解し、説明する。 2. 健康障害や生活機能障害をもつ高齢者を包括的に捉える視点を理解し、説明する。 3. 健康障害や生活機能障害をもつ高齢者の特徴をふまえた看護援助について検討する。 4. 高齢者とその家族の尊厳をふまえた看護のあり方について、自分の考えを述べる。								
授業計画									
回	開講日	授業内容							担当教員
1	10/1	高齢者の生活を支える看護（１）見る・聞く・話す・コミュニケーション、活動・休息・睡眠							水嵯
2	10/1	高齢者の生活を支える看護（２）基本動作・日常生活動作、転倒・転落、清潔・整容							〃
3	10/8	高齢者の生活を支える看護（３）排泄、食事、摂食・嚥下（〔演習〕義歯の取り扱いを含む）							〃
4	10/8	老年期に生じやすい症候とその看護（１）脱水、低栄養、熱中症、褥瘡、皮膚疾患							〃
5	10/15	老年期に生じやすい症候とその看護（２）寝たきり、廃用症候群、うつ状態、せん妄							桑原
6	10/15	老年期に生じやすい症候とその看護（３）高齢者のせん妄に対する予防ケア（演習）							〃
7	10/22	老年期に生じやすい症候とその看護（４）高齢者のせん妄に対する予防ケア（演習）							〃
8	10/22	老年期に多い疾患とその看護（１）認知症①							〃
9	10/29	老年期に多い疾患とその看護（２）認知症②							〃
10	10/29	老年期に多い疾患とその看護（３）認知症高齢者への看護①（演習）							〃
11	11/5	老年期に多い疾患とその看護（４）認知症高齢者への看護②（演習）							〃
12	11/5	老年期に多い疾患とその看護（５）大腿骨頸部骨折、大腿骨転子部骨折							水嵯
13	11/12	老年期に多い疾患とその看護（６）虚血性心疾患、高血圧							〃
14	11/12	老年期に多い疾患とその看護（７）脳血管障害							〃
15	11/19	老年期に多い疾患とその看護（８）高次脳機能障害・運動機能障害をもつ高齢者への看護①（演習）							〃
16	11/19	老年期に多い疾患とその看護（９）高次脳機能障害・運動機能障害をもつ高齢者への看護②（演習）							〃
17	11/26	老年期に多い疾患とその看護（１０）肺炎							〃
18	11/26	老年期に多い疾患とその看護（１１）感染症							〃
19	12/3	臨床における高齢者への看護（１）手術療法、薬物療法を受ける高齢者への看護							〃
20	12/3	臨床における高齢者への看護（２）高齢者とその家族への退院支援							桑原
21	12/10	臨床における高齢者への看護（３）健康障害をもつ高齢者の看護過程①：事例提示、情報整理（演習）							桑原
22	12/10	臨床における高齢者への看護（４）健康障害をもつ高齢者の看護過程②：情報整理、アセスメント（演習）							〃
23	12/17	臨床における高齢者への看護（５）健康障害をもつ高齢者の看護過程③：全体像の把握（演習）							〃
24	12/17	臨床における高齢者への看護（６）健康障害をもつ高齢者の看護過程④：課題・目標の明確化（演習）							〃
25	1/7	臨床における高齢者への看護（７）健康障害をもつ高齢者の看護過程⑤：ケア計画立案（演習）							〃
26	1/7	臨床における高齢者への看護（８）健康障害をもつ高齢者の看護過程⑥：まとめ（演習）							〃
27	1/14	療養生活を送る高齢者への看護（１）高齢者のケアマネジメントとケアプラン①：概論							水嵯
28	1/14	療養生活を送る高齢者への看護（２）高齢者のケアマネジメントとケアプラン②：グループワーク（演習）							〃
29	1/21	療養生活を送る高齢者への看護（３）高齢者のケアマネジメントとケアプラン③：グループワーク（演習）							〃
30	1/21	療養生活を送る高齢者への看護（４）高齢者のケアマネジメントとケアプラン④：まとめ							〃
教科書		教科書は指定しない。資料を作成して授業ごとに配布する。							
参考図書		1. 北川公子他著. 系統看護学講座専門分野Ⅱ老年看護学 第9版. 医学書院. 2. 鳥羽研二他著. 系統看護学講座専門分野Ⅱ老年看護 病態・疾患論 第5版. 医学書院. 3. 亀井智子編集. 新体系看護学全書 老年看護学①（老年看護学概論・老年保健）第4版. メヂカルフレンド社. 4. 亀井智子編集. 新体系看護学全書 老年看護学②（健康障害をもつ高齢者の看護）第4版. メヂカルフレンド社. 5. 山田律子他編集. 生活機能からみた老年看護過程と病態・生活機能関連図 第3版. 医学書院. その他、参考図書、参考資料等については随時授業の中で提示する。							
予習・復習内容		授業で配布した資料を熟読してください。不明な点、疑問点、関心を抱いたことについては、提示した参考図書に当たって理解したうえで、次回の授業に臨んでください。							
成績評価方法・基準		評価配分：期末試験７０％、課題レポート２０％、講義・演習の取り組み１０％による総合評価							
履修上の注意		なし							
担当教員への連絡方法		初回授業時にアナウンスします。							
実務経験と授業科目との関連性		病棟に勤務し、高齢患者に対する看護を実践した経験を有する。このことから、療養生活を営む高齢者とその家族への看護について、理論と実践を教授することで学生の理解を促すことが可能となる。							
保健師助産師看護師学校養成所指定規則に定める別表の種類と教育内容 別表３（看護師課程） 老年看護学									

看護学部看護学科 シラバス

授業科目	小児看護学概論									
担当教員	樋貝 繁香									
配当年次	2 年次	配当学期	後期	単位数	2 単位	必修・選択	必修	授業形態	講義	
授業目標	子どもと家族の特徴を理解し、健康を支援するために必要な基本的知識を養う。また、子どもと家族を取りまく社会や法律、制度の動向について学修する。									
学習目標	1. 子どもの健康状態とヘルスプロモーションについて理解する。 2. 小児と家族の諸統計、児童福祉、母子保健、医療費支援、特別支援教育から子どもを取り巻く環境について理解する。 3. 子どもの権利について説明できる。 4. 小児の成長・発達や生活の特徴を理解し、子どもと家族への生活支援について説明できる。 5. 小児期に生じやすい健康問題とその支援について法律や保健政策を含めて理解する。 6. 子どもの成長・発達や健康を支えるための看護職の役割について説明できる。									
授業計画										
回	開講日	授業内容							担当教員	
1	10/1	小児保健医療と小児看護の変遷							樋貝 繁香	
2	10/8	子どもを取り巻く環境							〃	
3	10/15	小児におけるヘルスプロモーション							〃	
4	10/22	小児看護における倫理と子どもの権利							〃	
5	10/29	小児の成長発達と生活（１）：身体の発達、成長の評価							〃	
6	11/5	小児の成長発達と生活（２）心理・社会性の発達（１）：情緒・社会性の発達							〃	
7	11/12	小児の成長発達と生活（３）心理・社会性の発達（２）：認知発達、発達評価							〃	
8	11/19	乳幼児期における子どもの成長発達とケア（１）：活動と休息							〃	
9	11/26	乳幼児期における子どもの成長発達とケア（２）：食事							〃	
10	12/3	乳幼児期における子どもの成長発達とケア（３）：排泄							〃	
11	12/10	学童期・思春期における成長発達とケア							〃	
12	12/17	小児期に生じやすい健康問題（１）：子どもの事故							〃	
13	1/7	小児期に生じやすい健康問題（２）：小児感染症							〃	
14	1/14	虐待を受けた子どもと家族への看護							〃	
15	1/21	子どものヘルスアセスメント							〃	
教科書		1. 二宮啓子, 今野美紀編集, 小児看護学概論 子どもと家族に寄り添う援助, 南江堂. 2. 今野美紀, 二宮啓子編集, 小児看護技術 子どもと家族の力をひきだす技, 南江堂. 3. 松尾宣武, 濱中喜代編集, 小児看護学概論・小児保健, メジカルフレンド社.								
参考図書		筒井真優美監修, 小児看護学 子どもと家族の示す行動への判断とケア, 日総研.								
予習・復習内容		事前課題として授業に対応したワークブックを呈示します。各授業には予習と復習をして臨みましょう。								
成績評価方法・基準		評価配分：期末試験 80%、課題 20% の総合評価（ワークブック 10%、レポート 10%：子どもの成長・発達や健康を支える看護師の役割）								
履修上の注意		毎回の授業にワークブックを持参すること。								
担当教員への連絡方法		E-mail:higai.shigeka@shitoku.ac.jp								

実務経験と授業科目との関連性	小児病棟での勤務を有する。このことから、子どもと家族への看護について、理論と実践を伝えることで、学生はより深い理解が可能となる。
保健師助産師看護師学校養成所指定規則に定める別表の種類と教育内容 別表3（看護師課程）小児看護学	

看護学部看護学科 シラバス

授業科目	小児看護学方法論									
担当教員	樋貝 繁香 風間 邦子									
配当年次	3年次	配当学期	前期	単位数	2単位	必修・選択	必修	授業形態	講義	
授業目標	様々な健康問題や障害のある子どもと家族の生活やこれまでの体験を理解し、健康障害の回復、健康の保持・増進するために必要な看護の実践方法を習得する。									
学習目標	1. 小児看護に必要な概念（セルフケア、プレパレーション、ストレス・コーピングなど）について理解する。 2. 子どもの発達段階および様々な健康状態に応じた看護援助について理解する。 3. 健康課題が子どもの成長・発達や生活、家族に与える影響について説明できる。 4. 子どもの生活や診療に関する基礎的な援助技術を習得する。 5. 小児各期におけるヘルスアセスメントの技術を習得する。 6. 様々な状況にある子どもの看護について、他職種・他機関との連携を踏まえて学習し、小児看護のあり方について説明できる。									
授業計画										
回	開講日	授業内容								担当教員
1		子どもの健康や病気の認識と発達								樋貝
2		子どものバイタルサイン								〃
3		急性期にある子どもと家族への看護（１）：発熱								風間
4		急性期にある子どもと家族への看護（２）：呼吸困難								〃
5		子どもの生活の場におけるケア：食事、清拭（演習）								樋貝・風間
6		基本的な技術：バイタルサイン測定、計測（演習）								樋貝・風間
7		急性期にある子どもと家族への看護（３）：嘔吐、下痢、脱水								樋貝
8		子どもの与薬								〃
9		フィジカルアセスメント：脱水（演習）								樋貝・風間
10		注射法・内服（演習）								樋貝・風間
11		急性期にある子どもと家族への看護（４）：トリアージ、救急蘇生								風間
12		周手術期にある子どもと家族への看護								樋貝
13		フィジカルアセスメント：日帰り手術（演習）								樋貝・風間
14		固定・抑制、輸液管理（演習）								樋貝・風間
15		先天的な障がいのある子どもと家族への看護								風間
16		先天性の疾患のある子どもと家族への看護								樋貝
17		慢性期にある子どもと家族への看護								〃
18		小児看護における看護過程（１）：看護過程の枠組み（演習）								〃
19		小児看護における看護過程（２）：グループワーク（演習）								〃
20		小児看護における看護過程（３）：グループワーク（演習）								〃
21		小児看護における看護過程（４）：グループワーク（演習）								〃
22		プレパレーション（１）：プレパレーションとは								〃
23		プレパレーション（２）：グループワーク（演習）								樋貝・風間
24		施設から在宅移行における他職種・他機関との調整と連携（１）：入院中の看護								樋貝
25		施設から在宅移行における他職種・他機関との調整と連携（２）：外来看護								〃
26		施設から在宅移行における他職種・他機関との調整と連携（３）：在宅看護								〃
27		フィジカルアセスメント：重症心身障がい児（演習）								樋貝・風間
28		経管栄養（演習）								樋貝・風間
29		プレパレーション発表（演習）								樋貝
30		小児看護における看護過程（５）：発表（演習）								〃
教科書	1. 二宮啓子, 今野美紀編集, 小児看護学概論 子どもと家族に寄り添う援助, 南江堂. 2. 今野美紀, 二宮啓子編集, 小児看護技術 子どもと家族の力をひきだす技, 南江堂. 3. 松尾宣武, 濱中喜代編集, 小児看護学概論・小児保健, メジカルフレンド社.									
参考図書	筒井真優美監修, 小児看護学 子どもと家族の示す行動への判断とケア, 日総研.									
予習・復習内容	事前課題として授業に対応したワークブックと演習課題を呈示します。各授業には予習と復習をして臨みましょう。									
成績評価方法・基準	評価配分：期末試験 70％、課題 30％（ワークブック 10％、演習課題 20％）									
履修上の注意	毎回の授業にワークブックを持参すること。									
担当教員への連絡方法	E-Mail:higai.shigeka@shitoku.ac.jp									
実務経験と授業科目との関連性	小児病棟での勤務を有する。このことから、子どもと家族への看護について、理論と実践を伝えることで、学生はより深い理解が可能となる。									
保健師助産師看護師学校養成所指定規則に定める別表の種類と教育内容 別表 3（看護師課程）小児看護学										

看護学部看護学科 シラバス

授業科目	母性看護学概論									
担当教員	坂口 けさみ									
配当年次	2年次	配当学期	後期	単位数	2単位	必修・選択	必修	授業形態	講義	
授業目標	家族が子どもの誕生をめぐって変化し、新たな関係に移行していく周産期に焦点を当て、看護を展開していく上で必要な知識および医学知識について学ぶ。また、セクシュアリティ、リプロダクティブヘルス・ライツの概念を理解するとともに、母性看護学の対象となる人々への支援の考え方や重要性について学ぶ。									
学習目標	1. 妊娠の成立過程と妊娠経過および健康を阻害する要因について学ぶ。 2. 親と子のきずなおおよび家族の形成と阻害要因について学ぶ。 3. ハイリスク母子・家族の心理社会的特徴とケアの考え方について学ぶ。 4. 人の性の発達と特有な健康問題および人間関係について学ぶ。 5. 妊娠・出産・子育てに関する社会の仕組みおよび母子保健情報について学ぶ。 6. 母性看護の展開に必要な医学的知識を学ぶ。 7. 母性看護学の対象および看護の考え方について学ぶ。									

授業計画			
回	開講日	授業内容	担当教員
1	10/2	体の仕組みと妊娠の成立	坂口 けさみ
2	10/9	妊娠・分娩・産褥経過の概要	〃
3	10/16	親と子のきずな（母子関係の成立）	〃
4	10/19 5限	親と子のきずな（父子関係の成立）	〃
5	10/30	家族の成立と親子関係	〃
6	11/2	育てられ方・育ち方	〃
7	11/13	母子保健情報・リプロダクティブ・ヘルス・ライツ	〃
8	11/20	母子保健を支える関係法規	〃
9	11/27	母子及び家族を支える社会の仕組み	〃
10	12/4	母性看護の展開に必要な医学知識（妊娠の異常）	〃
11	12/11	母性看護の展開に必要な医学知識（妊娠の異常）	〃
12	12/18	母性看護の展開に必要な医学知識（分娩の異常）	〃
13	1/8	母性看護の展開に必要な医学知識（分娩の異常）	〃
14	1/15	母性看護の展開に必要な医学知識（不妊症・婦人科疾患）	〃
15	1/22	母性看護学の目指すもの	〃

教科書	森恵美他著. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ母性看護学①(母性看護学概論). 医学書院. 森恵美他著. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ母性看護学②(母性看護学各論). 医学書院.
参考図書	医療情報科学研究所. 病気がみえる Vol. 10 産科. メディックメディア.
予習・復習内容	必要な予習と復習を行うこと。
成績評価方法・基準	評価配分：レポート30%、小テスト30%、期末試験40% 計100点満点の総合点を算出する。
履修上の注意	1～9回の授業は4限に行うが、10～14回の講義はゲストスピーカー（産婦人科医師）による講義を予定しており、開始時間が5限となる予定。なおこの講義では適宜課題レポートや小テストを行う。
担当教員への連絡方法	e-mail:sakaguchi.kesami@shitoku.ac.jp

実務経験と授業科目との関連性	助産師として産科病棟での勤務経験を有することから、母子及び家族に対する看護について理論と実践を伝えていくことで、より理解や興味が深まる。
保健師助産師看護師学校養成所指定規則に定める別表の種類と教育内容 別表 3 （看護師課程）母性看護学	

看護学部看護学科 シラバス

授業科目	母性看護学方法論								
担当教員	奥原 香織 小林 明日香								
配当年次	3 年次	配当学期	前期	単位数	2 単位	必修・選択	必修	授業形態	講義
授業目標	周産期にある母体の生理的変化と胎児・新生児の成長・発達や胎外生活適応への過程に関する理解を踏まえ、母体及び胎児・新生児のより良い健康を保持・強化するためのアセスメント及び必要な看護の知識と技能並びに周産期の家族成員がそれぞれの役割を遂行し、家族のもつ力を最大限に活かす看護を展開するために必要な知識・技術・態度について学ぶ。								
学習目標	1．妊娠期における妊婦の生理的変化と心理的変化（家族を含む）およびその関連要因を学ぶと共に、胎児の成長発達とその関連要因について学ぶ。 2．妊娠期における母児の健康診査と、母・児・家族の健康維持増進に必要な看護を学ぶ。 3．分娩による母児への影響について学ぶと共に、安全で快適な出産のために母・児・家族に対して必要な看護を学ぶ。 4．産褥期における母親の身体的・心理的変化および正常からの逸脱とその関連要因を学ぶと共に、退行性変化、進行性変化に基づく健康診査と必要な看護について学ぶ。 5．母性・父性意識や母子および家族関係への支援について学ぶ。 6．新生児における子宮外生活への適応過程とその後の成長・発達について学ぶ。 7．新生児の健康診査と発育の評価に基づき、新生児・母親・家族に必要な看護について学ぶ。 8．妊娠・出産・子育て期における関係法規と利用できる社会資源について学ぶ。								
授業計画									
回	開講日	授業内容							担当教員
1		妊娠期の身体・心理・社会的特性、妊婦と胎児のアセスメント							奥原・小林
2		妊娠期の身体・心理・社会的特性、妊婦と胎児のアセスメント							〃
3		妊娠期における正常からの逸脱と妊娠期に必要な看護ケア							〃
4		妊娠期における正常からの逸脱と妊娠期に必要な看護ケア							〃
5		分娩期の要素と分娩経過、分娩期における生理的・心理的変化とニーズ							〃
6		分娩期の要素と分娩経過、分娩期における生理的・心理的変化とニーズ							〃
7		分娩期に必要な看護ケア							〃
8		分娩期に必要な看護ケア							〃
9		妊娠・分娩期の看護技術							〃
10		妊娠・分娩期の看護技術							〃
11		産褥期の身体的・心理的変化、母親・父親役割と家族の発達							〃
12		産褥期の身体的・心理的変化、母親・父親役割と家族の発達							〃
13		母乳育児支援、産褥期における正常からの逸脱、帝王切開の看護							〃
14		母乳育児支援、産褥期における正常からの逸脱、帝王切開の看護							〃
15		産褥期に必要な看護ケア							〃
16		産褥期に必要な看護ケア							〃
17		新生児の身体的・生理的特徴と子宮外生活への適応							〃
18		新生児の身体的・生理的特徴と子宮外生活への適応							〃
19		新生児期における正常からの逸脱と新生児期に必要な看護ケア							〃
20		新生児期における正常からの逸脱と新生児期に必要な看護ケア							〃
21		分娩・育児の実際と胎盤診査、母性看護学領域における看護過程							〃
22		分娩・育児の実際と胎盤診査、母性看護学領域における看護過程							〃
23		産褥期におけるフィジカルアセスメント、新生児に対する沐浴							〃
24		産褥期におけるフィジカルアセスメント、新生児に対する沐浴							〃
25		新生児のフィジカルアセスメント・育児看護技術							〃
26		新生児のフィジカルアセスメント・育児看護技術							〃
27		産褥期・新生児期の事例展開							〃
28		産褥期・新生児期の事例展開							〃
29		思春期の特徴と看護							〃
30		更年期の特徴と看護							〃
教科書	森恵美他著. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ母性看護学②(母性看護学方法論). 医学書院.								
参考図書	医療情報科学研究所. 病気がみえる Vol. 10 産科. メディックメディア.								
予習・復習内容	必要に応じて予習と復習を行うこと。								
成績評価方法・基準	評価配分；レポート30％、小テスト30％、期末試験40％ 計100点満点の総合点を算出する。								
履修上の注意	適宜課題レポートや小テストを行う。								
担当教員への連絡方法	E-mail:okuhara.kaori@shitoku.ac.jp								
実務経験と授業科目との関連性	助産師として産科病棟での勤務経験を有することから、母子及び家族に対する看護について理論と実践を伝えていくことで、より理解や興味が深まる。								
保健師助産師看護師学校養成所指定規則に定める別表の種類と教育内容 別表3 (看護師課程) 母性看護学									

看護学部看護学科 シラバス

授業科目	精神看護学概論									
担当教員	田中 高政									
配当年次	2 年次	配当学期	後期	単位数	2 単位	必修・選択	必修	授業形態	講義	
授業目標	心のはたらきとメカニズムを概観し、精神的健康の保持・増進及び疾病の予防に関する要因について理解する。精神保健医療福祉に関する法律・制度・歴史を学習し、精神疾患を抱えながら生活している人の人権や福祉、生活、権利擁護について理解する。また、心の健康を保つために必要な基礎理論と技術を学び、精神看護の機能や専門性について理解する。									
学習目標	1. こころの健康を支える精神看護について理解を深める。 2. 人間の生涯のこころの発達を理解し、こころの健康を守るための理論と技術を理解する。 3. 精神医療・精神保健福祉の現状と課題について理解する。 4. 精神障がい者の支援と権利擁護について理解する。 5. 諸外国と日本の精神医療・看護の歴史的変遷について理解する。 6. 精神障がい者の回復を支える医療チームの機能と役割について理解する。									
授業計画										
回	開講日	授業内容								担当教員
1	10/7 1限	精神看護学で学ぶこと、精神保健で扱われる現象について学ぶ								田中 高政
2	10/8	地域精神保健について学ぶ								〃
3	10/15	脳の構造と認知機能について学ぶ								〃
4	10/22	精神（心）の構造とはたらきについて学ぶ								〃
5	10/29	精神（心）の発達に関する主な考え方について学ぶ								〃
6	11/5	精神（心）と母子関係の確立について学ぶ								〃
7	11/12	家族と精神（心）の健康について学ぶ								〃
8	11/19	暮らしの場と精神（心）の健康について学ぶ								〃
9	11/26	精神（心）の危機状況と精神保健について学ぶ								〃
1 0	12/3	現代社会における精神保健の主な問題について学ぶ①：ドメスティックバイオレンス、ひきこもり、職場におけるハラスメント、自殺								〃
1 1	12/10	現代社会における精神保健の主な問題について学ぶ②：不登校、いじめ、自傷行為、虐待、薬物問題（アルコール依存）								〃
1 2	12/17	現代社会における精神保健の主な問題について学ぶ③：薬物問題（危険ドラッグ）、犯罪・非行、ギャンブル依存、IT依存								〃
1 3	1/7	諸外国における精神医療の歴史と現在について学ぶ								〃
1 4	1/14	日本における精神医療の歴史と現在について学ぶ								〃
1 5	1/21	精神障害をもつ人を守る法・制度について学ぶ								〃
教科書		1. 岩崎弥生他編集, 新体系看護学全書 精神看護学① 精神看護学概論・精神保健 第5版, メヂカルフレンド社. 2. 岩崎弥生他編集, 新体系看護学全書 精神看護学② 精神障害をもつ人の看護 第5版, メヂカルフレンド社.								
参考図書		1. 武井麻子他著, 系統看護学講座 専門Ⅱ精神看護学①（精神看護の基礎）第5版, 医学書院. 2. 武井麻子他編集, 系統看護学講座 専門Ⅱ精神看護学②（精神看護の展開）第5版, 医学書院.								
予習・復習内容		授業に対応した事前課題を課します。								
成績評価方法・基準		評価配分：期末試験 9 0 %、提出課題 1 0 %の総合評価								
履修上の注意		精神看護の学びは、豊かな人間性を育むためにも重要です。授業中にディスカッションをしますので、積極的に参加してください。質問や疑問はそのままにしないでください。								
担当教員への連絡方法		初回の授業でアナウンスします。								
実務経験と授業科目との関連性		精神科救急外来及び精神科病棟での経験があり、臨床経験を踏まえながら講義をすることで学生はより実践的を理解が深めることができる。								
保健師助産師看護師学校養成所指定規則に定める別表の種類と教育内容 別表 3 （看護師課程） 精神看護学										

看護学部看護学科 シラバス

授業科目	精神看護学方法論									
担当教員	田中 高政 羽田 かおり									
配当年次	3 年次	配当学期	前期	単位数	2 単位	必修・選択	必修	授業形態	講義	
授業目標	精神疾患の病態や症状、経過、検査、治療法を学び、患者及び家族への看護援助方法と技術について習得する。また、当事者が精神疾患を持ちながら自立して日常生活を送るための支援や、看護の役割について理解する。									
学習目標	1. 主な精神疾患の概念・病態・兆候・症状・経過・原因・検査・治療・看護を理解する。 2. 精神に健康問題を抱えている方の生活を理解する。 3. 精神症状によって影響を受けている患者の状態をアセスメントし、その人らしく生きる力を支えるための看護援助について理解する。 4. こころのケアにあたる看護師の役割を理解する。 5. 自己理解と他者理解、コミュニケーション技術について理解する。									
授業計画										
回	開講日	授業内容							担当教員	
1		オリエンテーション、精神（心）を病むとはどういうことかについて学ぶ							田中・羽田	
2		精神障害をもつ人の抱える症状について学ぶ							〃	
3		精神科的診察と検査について学ぶ							〃	
4		主な精神疾患/障害と治療法について学ぶ①神経発達疾患/障害							〃	
5		主な精神疾患/障害と治療法について学ぶ②統合失調症スペクトラム							〃	
6		主な精神疾患/障害と治療法について学ぶ③双極性障害および関連障害群、抑うつ障害群							〃	
7		主な精神疾患/障害と治療法について学ぶ④不安症群/不安障害群、強迫症および関連症群							〃	
8		主な精神疾患/障害と治療法について学ぶ⑤心的外傷およびストレス関連障害群、解離症群/解離性障害群							〃	
9		主な精神疾患/障害と治療法について学ぶ⑥身体症状症および関連症群、食行動障害および摂食障害群							〃	
10		主な精神疾患/障害と治療法について学ぶ⑦睡眠覚醒障害群							〃	
11		主な精神疾患/障害と治療法について学ぶ⑧物質関連障害群および嗜癖性障害群							〃	
12		主な精神疾患/障害と治療法について学ぶ⑨神経認知障害群							〃	
13		主な精神疾患/障害と治療法について学ぶ⑩パーソナリティ障害群、てんかん							〃	
14		精神科での主な治療法について学ぶ①（薬物療法）							〃	
15		精神科での主な治療法について学ぶ②（電気けいれん療法、リハビリテーション療法、精神療法）							〃	
16		当事者からのメッセージ							〃	
17		精神障害をもつ人と「患者－看護師関係」の構築について学ぶ							〃	
18		プロセスレコードについて学ぶ							〃	
19		精神障害をもつ人への看護援助について学ぶ							〃	
20		精神科病棟という治療的環境と患者の生活について学ぶ							〃	
21		事例で学ぶ①							〃	
22		事例で学ぶ②							〃	
23		事例で学ぶ③							〃	
24		地域精神保健福祉と社会参加について学ぶ							〃	
25		精神障害をもつ人の地域生活支援の実践について学ぶ							〃	
26		精神障害をもつ人を介護する家族への支援について学ぶ							〃	
27		リエゾン精神看護について学ぶ							〃	
28		司法精神医学と看護について学ぶ							〃	
29		災害と精神看護について学ぶ							〃	
30		まとめ、学びのふりかえりを行う							〃	
教科書		1. 岩崎弥生他編集, 新体系看護学全書 精神看護学① 精神看護学概論・精神保健 第5版, メヂカルフレンド社. 2. 岩崎弥生他編集, 新体系看護学全書 精神看護学② 精神障害をもつ人の看護 第5版, メヂカルフレンド社.								
参考図書		1. 武井麻子他著, 系統看護学講座 専門Ⅱ精神看護学①（精神看護の基礎）第5版, 医学書院. 2. 武井麻子他編集, 系統看護学講座 専門Ⅱ精神看護学②（精神看護の展開）第5版, 医学書院.								
予習・復習内容		授業に対応する事前課題を課します。								
成績評価方法・基準		評価配分：期末試験90％、課題10％の総合評価								
履修上の注意		授業中にディスカッションをしますので、積極的に参加してください。質問や疑問はそのままにしないでください。								
担当教員への連絡方法		初回の授業でアナウンスします。								
実務経験と授業科目との関連性		精神科救急外来及び精神科病棟での経験があり、臨床経験を踏まえながら講義をすることで学生はより実践的の理解が深めることができる。								
保健師助産師看護師学校養成所指定規則に定める別表の種類と教育内容 別表3 （看護師課程） 精神看護学										

看護学部看護学科 シラバス

授業科目	地域・在宅看護学Ⅰ								
担当教員	川崎 千恵 塚田 ゆみ子								
配当年次	1 年次	配当学期	前期	単位数	1 単位	必修・選択	必修	授業形態	講義
授業目標	地域で生活する人々の健康を支える看護の視点を学ぶ。プライマリ・ヘルスケア、ヘルスプロモーション及び地域包括ケア等地域看護の基本的な知識を身に付け、人々の健康ニーズをライフサイクルや健康レベルにより理解する。また、疾病予防や健康を保持増進する活動についての基本的知識を得て、プライマリ・ヘルスケアの概念に基づく医療活動、生活支援をする福祉活動を学び、看護職の役割、地域で活躍する看護職の看護活動の実際を理解する。								
学習目標	1. 地域で生活する様々な人々を対象とする地域看護の主要な概念を述べることができる。 2. 地域看護の対象、支援の対象となる場と集団の特性を理解し、説明することができる。 3. 地域看護の対象にあった支援の在り方について考察できる。								
授業計画									
回	開講日	授業内容						担当教員	
1	4/8	地域看護の基本（１）地域看護の主要な概念・理念、地域看護の基本的な知識（１）						川崎・塚田	
2	4/15	地域看護の基本（２）地域看護の主要な概念・理念、地域看護の基本的な知識（２）						〃	
3	4/22	健康ニーズに応じた支援（１）ライフサイクル・健康レベルに合わせた支援（１）						〃	
4	5/13	健康ニーズに応じた支援（２）ライフサイクル・健康レベルに合わせた支援（２）						〃	
5	5/20	演習のオリエンテーション（事前学習について）						〃	
6	未定	演習						〃	
7	未定	演習						〃	
8	未定	まとめ						〃	
教科書		荒賀直子, 後閑容子編, 公衆衛生看護学jp（インターメディカル）							
参考図書		1. 麻原きよみ編, 公衆衛生看護学テキスト1「公衆衛生看護学原論」（医歯薬出版、2014） 2. 木下由美子編, エッセンシャル地域看護学 第2版（医歯薬出版、2009） その他、講義の中で随時紹介する。							
予習・復習内容		事前に授業内容に該当する教科書・参考図書を読んで参加すること。							
成績評価方法・基準		演習グループ発表・演習レポート 30％、定期試験（筆記） 70％							
履修上の注意		なし							
担当教員への連絡方法		初回授業で連絡します。							
実務経験と授業科目との関連性			看護師・行政保健師の実務経験があり、経験を踏まえ事例を交えながら科目を展開することができる。						
保健師助産師看護師学校養成所指定規則に定める別表の種類と教育内容 別表3 （看護師課程） 在宅看護論 別表1 （保健師課程） 個人・家族・集団・組織の支援									

看護学部看護学科 シラバス

授業科目	地域・在宅看護学Ⅱ									
担当教員	川崎 千恵 麻原 きよみ 横関 祐子 塚田 ゆみ子 堀内 和子									
配当年次	3 年次	配当学期	前期	単位数	2 単位	必修・選択	必修	授業形態	講義	
授業目標	地域・在宅看護学の基本的概念を理解し、地域看護活動として公衆衛生看護、在宅看護、学校保健及び職域保健等の多様な活動について学ぶ。さらに、地域包括ケアシステムにおける在宅看護の位置づけと看護の役割を理解する。									
学習目標	1. 地域における看護ニーズおよび看護活動について述べることができる。 2. 地域における看護活動の背景にある理念、施策について説明できる。 3. 地域における看護実践について理解し、個人・家族・集団への支援方法について説明できる。									

授業計画			
回	開講日	授業内容	担当教員
1		在宅看護学総論①：在宅看護の理念と現状・課題、関連法制度、対象の理解	麻原
2		在宅看護学総論②：在宅看護の対象の理解、在宅看護における倫理的課題	〃
3		訪問看護のしくみと実際、訪問看護の看護過程の展開	横関
4		地域における医療・介護連携等の推進、地域包括ケアシステムの構築の理念	〃
5		地域におけるケアシステムの構築の実際：医療・介護連携等の推進および地域包括ケアシステム構築に向けた取組の現状と課題	川崎・塚田・堀内
6		地域における看護実践①：在宅における医療ケア、訪問診療	横関
7		地域における看護実践②：在宅看護の取組の実際	〃
8		地域における看護実践③：在宅における終末期ケア、グリーフケア	〃
9		地域における看護実践④：訪問介護、居宅介護支援事業所、地域包括支援センターにおける看護職の実践	川崎
10		演習①：演習のオリエンテーション、準備	川崎・塚田・堀内
11		演習②	〃
12		演習③	〃
13		演習④	〃
14		演習⑤：発表・グループワーク	〃
15		まとめ	麻原

教科書	秋山正子他著：在宅看護論 2019 医学書院
参考図書	秋山正子著：つながる・ささえる・つくりだす在宅現場の地域包括ケア 医学書院 その他、随時、講義の中で紹介する。
予習・復習内容	毎回、教科書の指定されたページを読んでもくる。
成績評価方法・基準	評価配分：演習提出物 20%、定期試験 80%
履修上の注意	なし
担当教員への連絡方法	初回授業で連絡します。

実務経験と授業科目との関連性	看護師・行政保健師等の地域での実務経験があり、経験を踏まえ事例を交えながら科目を展開することができる。主たる担当教員の横関は、公的機関での訪問指導や高齢者の相談業務の勤務経験を有する。赤十字健康生活支援講習の指導員として地域で看護技術の指導経験を有する。
保健師助産師看護師学校養成所指定規則に定める別表の種類と教育内容 別表3 （看護師課程） 在宅看護論 別表1 （保健師課程） 公衆衛生看護活動展開論	

看護学部看護学科 シラバス

授業科目	在宅看護論概論								
担当教員	麻原 きよみ								
配当年次	2 年次	配当学期	後期	単位数	2 単位	必修・選択	必修	授業形態	講義
授業目標	在宅看護の変遷やその社会的背景をはじめ、在宅看護の目的・基本的な理念や関連する概念を学ぶ。在宅看護の対象者の特性と支援のあり方、並びにその支援の基盤となる訪問看護制度を学ぶ。さらに、在宅ケアにおけるケアマネジメントや地域包括ケアシステムの基本、関係機関・職種との連携の必要性、社会資源を学ぶ。								
学習目標	1. 日本の在宅看護の変遷とその社会的背景について説明できる。 2. 在宅看護の目的と基本理念、関連する概念について理解できる。 3. 在宅看護の対象者の特性とその支援の基本が理解できる。 4. 現在の訪問看護制度の基本を理解できる。 5. 在宅ケアにおけるケアマネジメントや関係機関・関係職種間の連携を理解できる。 6. 在宅ケアを支える制度や社会資源を説明できる								
授業計画									
回	開講日	授業内容							担当教員
1	9/28	在宅看護の理念とその発展							麻原 きよみ
2	10/5	地域包括ケアと社会資源							〃
3	10/12	在宅看護の対象：その多様性と家族支援							〃
4	10/19	在宅療養の支援：訪問看護							〃
5	10/26	在宅療養の支援：退院調整							〃
6	11/2	在宅看護にかかわる法令・制度とその活用							〃
7	11/9	在宅におけるケアマネジメント							〃
8	11/16	事例検討：在宅におけるケアマネジメント							〃
9	11/30	在宅におけるリスクマネジメント							〃
1 0	〃	在宅における医療ケア							〃
1 1	12/7	在宅における終末期家、グリーフケア							〃
1 2	〃	地域における多職種・他機関連携							〃
1 3	12/14	在宅療養における倫理的課題							〃
1 4	〃	事例検討：在宅療養における倫理的課題							〃
1 5	12/21	まとめ							〃
教科書		在宅看護論 第5版、医学書院							
参考図書		地域看護学 第2版、医歯薬出版							
予習・復習内容		予習：教科書の関連箇所を読んでくる							
成績評価方法・基準		評価配分：定期試験70%、小テスト30%							
履修上の注意		なし							
担当教員への連絡方法		asahara@slcn.ac.jp							

実務経験と授業科目との関連性	実務経験を有することから、経験を踏また科目を展開することができる。
保健師助産師看護師学校養成所指定規則に定める別表の種類と教育内容	
別表 3 (看護師課程)	在宅看護論
別表 1 (保健師課程)	個人・家族・集団・組織の支援

看護学部看護学科 シラバス

授業科目	在宅看護論方法論								
担当教員	横関 祐子								
配当年次	3 年次	配当学期	前期	単位数	2 単位	必修・選択	必修	授業形態	講義
授業目標	地域・在宅看護の基盤となる知識や実践方法を学び、これからの少子・高齢社会を支える地域ケアシステムを考え、療養者、家族、コミュニティの健康を支援する方法を養う。								
学習目標	1. 在宅における具体的な援助技術を習得することができる。 2. 在宅療養者と家族を対象とした看護の実際について説明できる。 3. 訪問看護における看護過程の特徴を述べることができる。 4. 事例に沿った看護過程の展開を作成できる。								
授業計画									
回	開講日	授業内容							担当教員
1		在宅看護方法論の学習内容と目的、在宅看護論の振り返り、チームケアの協働・連携							横関 祐子
2		在宅における基本的看護技術および留意点 環境調整（住環境、ベッド環境）							〃
3		〔演習〕在宅における基本的看護技術および留意点 移動・移乗							〃
4		〔演習〕在宅における基本的看護技術および留意点 食事の援助①（経口摂取など）							〃
5		在宅における基本的看護技術および留意点 食事の援助②（経管栄養・服薬管理）							〃
6		〔演習〕在宅における基本的看護技術および留意点 排泄の援助							〃
7		〔演習〕在宅における基本的看護技術および留意点 清潔の援助①（入浴、清拭）							〃
8		〔演習〕在宅における基本的看護技術および留意点 清潔の援助②（洗髪、熱布浴）							〃
9		在宅における訪問診療医の役割とチームケアの協働・連携							〃
1 0		在宅における理学療法士の役割とチームケアの協働・連携							〃
1 1		在宅における作業療法士の役割とチームケアの協働・連携							〃
1 2		在宅における言語聴覚士の役割とチームケアの協働・連携							〃
1 3		精神疾患療養者の在宅看護							〃
1 4		慢性疾患及び認知症療養者の在宅看護							〃
1 5		在宅医療・看護を利用しながら生活することの意義							〃
1 6		在宅におけるエンドオブライフケア①（在宅における緩和ケア）							〃
1 7		在宅におけるエンドオブライフケア②（家族への支援）							〃
1 8		在宅におけるエンドオブライフケア③（グリーフケアとサポート）							〃
1 9		医療器具装着者の在宅ケア技術（在宅酸素 在宅人工呼吸器など）							〃
2 0		医療器具装着者の在宅ケア技術（福祉用具など）							〃
2 1		在宅看護における医療処置（褥瘡、CVポートなど）							〃
2 2		介護保険の活用と在宅ケアプラン、ケアマネジメント							〃
2 3		〔演習〕在宅における基本的看護技術および留意点①（訪問時のマナー等）							〃
2 4		〔演習〕在宅における基本的看護技術および留意点②（訪問時のマナー等）							〃
2 5		訪問看護の実際（訪問看護の特徴・展開、訪問看護師の役割）							〃
2 6		〔演習〕訪問看護の事例展開							〃
2 7		〔演習〕訪問看護の事例展開							〃
2 8		〔演習〕訪問看護の事例展開							〃
2 9		〔演習〕事例展開発表							〃
3 0		〔演習〕事例展開発表 まとめ（在宅看護の専門性と今後の課題）							〃
教科書	秋山正子他著：在宅看護論 2019 医学書院								
参考図書	1. 臺有桂 著：地域療養を支えるケア 2011 MCメディカ出版 2. 山崎章郎 他著：病院で死ぬのはもったいない 2017 春秋社								
予習・復習内容	毎回、教科書の指定されたページを読んでくる。								
成績評価方法・基準	評価配分：小テストまたは課題 2 0 %、定期試験 8 0 %								
履修上の注意	受講にあたって必ず持参すべきものがあれば明示いたします。								
担当教員への連絡方法	初回授業時に説明いたします。								
実務経験と授業科目との関連性		公的機関での訪問指導、高齢者の相談業務の勤務経験や、赤十字健康生活支援講習の指導員として地域で看護技術の指導経験を有する。また地域のグリーフサポートの運営に携わっている。経験を踏まえ事例を交えながら、学生とともに考えることができる。							
保健師助産師看護師学校養成所指定規則に定める別表の種類と教育内容									
別表 3 （看護師課程）		在宅看護論							
別表 1 （保健師課程）		個人・家族・集団・組織の支援							

看護学部看護学科 シラバス

授業科目	看護提供システム論								
担当教員	井部 俊子								
配当年次	3 年次～4 年次	配当学期	3 年後期～4 年前期	単位数	1 単位	必修・選択	必修	授業形態	講義
授業目標	看護を必要としている人々に対して、継続して看護を提供するためにどのようなしくみがあり、どのような人が関わっているのかを学修する								
学習目標	1. 看護提供システムに関連した基礎倫理を理解する。（組織化、マネジメント、人材育成、質保証） 2. 看護提供システムに影響を及ぼす制度・政策を理解する。 3. 看護職を規定している要因について理解する。								
授業計画									
回	開講日	授業内容							担当教員
1		看護提供システム論の概要と学習のすすめ方							井部 俊子
2		どこでどのようにして看護は提供されているか							〃
3		マネジメント機能とリーダーシップ機能							〃
4		看護サービスマネジメント							〃
5		看護職のキャリア開発							〃
6		医療制度と価格							〃
7		介護制度と価格							〃
8		看護の実践環境 居宅							〃
9		看護の実践環境 病院							〃
10		看護の実践環境 介護施設							〃
11		看護の実践環境 産業保健・学校保健							〃
12		保健師助産師看護師法							〃
13		職業としての看護と倫理							〃
14		医療安全							〃
15		長寿化時代の新しいステージ							〃
教科書		授業の進行に合わせてその都度提示する							
参考図書		授業の進行に合わせてその都度提示する							
予習・復習内容		指定した資料(文献)を読んでくる							
成績評価方法・基準		評価配分：筆記試験 80%、授業への積極的参加 10%、施設見学レポート 10%							
履修上の注意		なし							
担当教員への連絡方法		南館事務室へ伝言してください。							
実務経験と授業科目との関連性		看護管理者としての経験を学生の教育に活かすことができる。							
保健師助産師看護師学校養成所指定規則に定める別表の種類と教育内容									
別表 3		(看護師課程)		看護の統合と実践					
別表 4		(保健師課程)		公衆衛生看護管理論					

看護学部看護学科 シラバス

授業科目	国際看護学									
担当教員	宮越幸代									
配当年次	3～4年次	配当学期	後期（3年次）～ 前期（4年次）	単位数	1単位	必修・選択	選択	授業形態	講義	
授業目標	国際看護に必要な知識や方法、判断について理解し、幅広い視野で対象を捉え国内外で求められる国際看護を実践するための基本的な力を養う。									
学習目標	1. 国際看護の実践に必要な基礎的知識と方法を学び、国や地域、文化や人種などの違いを超えた看護の方法について具体例をあげて説明する（主に、開発途上国を中心とした国際協力）。 2. 国際看護の場面における具体的な状況判断が必要な事例への対応や国際協力方法について学び、多文化共生や効果的な国際協力の原則を例示しながら具体的に説明する。 3. 学習した基本事項をもとに、国や地域、文化や人種などの違いを超えた国際看護の実践を国内外に活かす方法について、自分の考えを整理して述べる。									
授業計画										
回	開講日	授業内容							担当教員	
1		地球規模の課題の共有、国を超えた看護の実践が求められる背景 開発途上国の定義と分類およびとらえ方（講義）							宮越 幸代	
2		プライマリ・ヘルス・ケアが求められる途上国の保健医療状況（講義）							〃	
3		国際社会の保健戦略における子どもの健康と感染症対策（講義・意見交換）							〃	
4		国際社会の保健戦略におけるNCDs対策と女性の健康（講義・意見交換）							〃	
5		地球規模の課題が起こっている現状、国際機関の実績と国際協力の原則（講義・意見交換）							〃	
6		途上国における保健医療ボランティア派遣案件等に対する具体的活動（意見交換・レポート）							〃	
7		日本と異なる看護や看護技術、医療行為等の事例検討（意見交換）							〃	
8		日本と異なる国での災害医療支援と危機管理（意見交換）							〃	
9		国際看護の場と対象に合わせた情報の整理とアセスメント（グループワーク）							〃	
10		国際看護の場と対象に合わせた情報の整理とアセスメント（グループワークの発表・意見交換）							〃	
11		在日外国人看護師候補者らの背景と現状 外国人看護師・介護士、技能実習生らとのより良い協働と課題（講義・意見交換）							〃	
12		在日外国人の背景と推移、その暮らし 多文化共生が推進される地域づくりの取り組みと保健医療職に期待される役割（講義）							〃	
13		多文化共生看護を実践する際に基本となる概念 文化的背景が異なる対象のアセスメントと看護方法（講義）							〃	
14		地域に暮らす在日外国人への健康支援と医療機関での対応（講義）							〃	
15		国内外での経験を活かす視点と活動、地球規模の課題を意識した国際看護の役割（講義・意見交換・レポート）							〃	
教科書		柳澤理子編著、国際看護学 - 看護の統合と実践 - 開発途上国への看護実践を踏まえて（改訂版）、PILAR PRESS								
参考図書		1. 大橋一友ら, 国際化と看護：日本と世界で実践するグローバルな看護をめざして, メディカ出版 2. 丸井英二ら, 国際看護・国際保健, 弘文堂. 3. 日本国際保健医療学会, 国際保健医療学 第2版, 杏林書院. 4. デビッド・ワーナー, 医者のいないところで 村のヘルスケア手引書（日本語版）, SHARE.								
予習・復習内容		単元ごとに事前に指定する教科書部分を必ず一読してくる。グループワークでは、提示されたグループ課題に沿って必要な資料を検索し、発表内容をまとめてください。								
成績評価方法・基準		課題発表および授業後レポートの内容による学習目標の達成状況（各30％）、発問に対する発言やグループワークへの参加度・貢献度（40％）								
履修上の注意		新聞やニュースなどから世界情勢を把握し、環境や教育、文化、歴史など様々な条件が人々の健康にどのように影響しているか地球規模で課題をとらえたうえで、国際的な保健・医療の課題、国際社会における看護の役割について考えてみましょう。								
担当教員への連絡方法		Email:miyakoshi.sachiyo@shitoku.ac.jp								
実務経験と授業科目との関連性		JICA青年海外協力隊およびNPOによる災害後の派遣員としての看護活動、メキシコでの看護実習や被災地での調査経験があり、学生を引率しての海外での実習指導経験も長いことから、現地に必要な保健医療協力と看護活動について、リスク管理を含めた指導が可能である。								
保健師助産師看護師学校養成所指定規則に定める別表の種類と教育内容 別表3 （看護師課程） 看護の統合と実践										

看護学部看護学科 シラバス

授業科目	災害看護学									
担当教員	宮越幸代									
配当年次	3年～4年次	配当学期	後期（3年次） ～ 前期（4年次）	単位数	1単位	必修・選択	必修	授業形態	講義	
授業目標	災害の定義、災害サイクル、災害看護の歴史、災害からの教訓、災害サイクルから見た看護ケア（急性期災害現場、避難所、中・長期避難所、仮設住宅、地域のケア）について一連のプロセスを学び、被災による生活、心身への影響を踏まえた看護のあり方を理解する。									
学習目標	1. 国内外における災害発生の現状および災害医療と災害看護の基礎的知識に基づき、身近に起こった災害を例にその特徴を説明する。 2. 災害サイクルや災害の種類、対象の特性に合わせた看護を考え、実践するための基本的知識や原則を整理して述べる。 3. 災害看護の場の特性を整理し、発災後の時間経過に沿った看護の留意点と具体的な活動を説明する。 3. これまでに発生した災害を例に防災・減災及び災害時の対応における協働や看護者の役割を列挙する。 4. 災害急性期に必要な基本的技術（トリアージ、トランスポート、トリートメント）が求められる状況およびそれらの原理・原則と留意点を説明する。									
授業計画										
回	開講日	授業内容							担当教員	
1		災害医療および災害看護に関する基礎的知識（講義）							宮越 幸代	
2		災害医療および災害看護に関する法制度と看護職の役割（講義）							〃	
3		災害看護の対象と場、災害サイクル各期における看護活動（講義）							〃	
4		災害急性期に必要な3T's（トリアージ、トランスポート、トリートメント）（講義）							〃	
5		災害急性期に必要な3T's（トリアージ）（講義および机上トリアージ演習）							〃	
6		災害における慢性疾患患者の看護および感染予防（講義）							〃	
7		災害時要配慮者・要援護者・障害のある人、外国籍の住民の看護（講義）							〃	
8		災害における妊産婦および小児の看護（講義）							〃	
9		災害における高齢者の看護（講義）							〃	
10		災害における地域看護、在宅避難者の看護、身の回りの物品等を応用した技術（講義）							〃	
11		災害における公衆衛生および保健師活動、放射線災害への対応（講義）							〃	
12		被災者および援助者の心理、心のケア、遺族ケア（講義）							〃	
13		看護師の災害派遣システムと急性期における派遣活動、多職種連携の実例（講義）							〃	
14		亜急性期以降における看護活動の実例（講義）							〃	
15		地域における災害の特徴と防災システム、静穏期における備え（講義）							〃	
教科書		1. 小原眞理子ほか. 災害看護 心得ておきたい基本的な知識 改訂第3版. 南山堂. 2. 系統看護学講座 統合分野 看護の統合と実践③ 災害看護学・国際看護学. 浦田喜久子編. 医学書院.								
参考図書		1. 井修, 災害時の公衆衛生 私たちにできること. 南山堂. 2. 特定非営利活動法人難民支援会. スフィア・プロジェクト人道憲章と人道対応に関する最低基準（2018年日本語訳版）. The Sphere Project. 3. 黒田裕子ほか. 事例を通して学ぶ避難所・仮設住宅の看護ケア. 日本看護協会出版会. 4. 平成25年 日本公衆衛生協会 全国保健師長会. 大規模災害時における保健師の活動マニュアル. 5. アメリカ国立子どもトラウマティックストレス・ネットワークほか. 災害時のこころのケア サイコロジカル 6. フィーストエイド 実践の手引き 原書第2版（日本語版）. 医学書院								
予習・復習内容		予習：事前に該当する教科書の単元部分を熟読し、授業までにワークシートの指定課題に取り組んでおく。 復習：授業後半に指示するワークシートの箇所について、毎回整理する。								
成績評価方法・基準		評価配分：ワークシートの提出状況および内容40％、定期試験60％								
履修上の注意		演習に先立ち、必ず単元ごとにワークシートでの予習・復習をしておくこと。								
担当教員への連絡方法		Email:miyakoshi.sachiyo@shitoku.ac.jp								

実務経験と授業科目との関連性	日本災害看護学会等による被災地調査を複数回経験しており、NP0による看護師として国内外での派遣活動の経験を積んでいる。また、JICA緊急援助隊、災害支援ナースの登録員のほか災害支援機関による定期的な訓練に参加し、災害ごとに更新される保健医療の知識や技術、要請をタイムリーに把握し、教育に反映できる。
保健師助産師看護師学校養成所指定規則に定める別表の種類と教育内容	
別表 3 (看護師課程)	看護の統合と実践
別表 1 (保健師課程)	公衆衛生看護管理論

看護学部看護学科 シラバス

授業科目	災害看護学演習								
担当教員	宮越幸代								
配当年度	3年～4年次	配当学期	後期(3年次)～ 前期(4年次)	単位数	2単位	必修・選択	必修	授業形態	演習
授業目標	災害看護に必要な基本的技術が求められる状況と具体的な方法を医療と保健の視点で学び、実践できる基本的な力をつける。								
学習目標	1. 既習の形態機能学、ヘルス・アセスメントなどの知識・技術を応用し、災害急性期に必要な観察と判断を述べる。 2. 既習の救急蘇生法を正しく実践し、事例に合わせた対処と留意点を具体的に述べる。 3. 災害急性期に必要な基本的技術(トリアージ、トランスポート、トリートメント)が求められる状況と方法を述べ、留意点を踏まえながら具体的に実践する。 4. 身近な地域で被災した際の避難所設営および運営を模擬的に体験し、多職種や住民間の連携と看護の役割を説明する。 5. 身近な地域に発生しやすい災害の特徴とその防災・減災に必要な自助・共助の方法について意見交換し、具体的に説明する。								
授業計画									
回	開講日	授業内容							担当教員
1		災害急性期における3T's (1) 人体の形態機能およびヘルス・アセスメントの原則の基本と応用①(事前学習に基づいた復習)							宮越 幸代
2		災害急性期における3T's (2) 災害急性期に見られる被災後の受傷状況(事前学習に基づいた復習)							
3		災害急性期における3T's (3) 災害急性期の観察と判断、救急蘇生の実際①(実技)							
4		災害急性期における3T's (4) 災害急性期の観察と判断、救急蘇生の実際②(実技)							
5		災害急性期における3T's (5) 災害急性期の観察と判断、救急蘇生の振り返り(意見交換)							
6		災害急性期における3T's (6) 災害急性期の観察と判断、救急蘇生の振り返り、まとめ(講義・意見交換)							
7		災害急性期における3T's (7) トリアージの原則と方法(事前学習に基づいた復習)							
8		災害急性期における3T's (8) PAT法トリアージの実際①(実技)							
9		災害急性期における3T's (9) PAT法トリアージの実際②(実技)							
10		災害急性期における3T's (10) PAT法トリアージの実際③(実技)							
11		災害急性期における3T's (11) 災害急性期の搬送の原則と方法(事前学習に基づいた復習)							
12		災害急性期における3T's (12) 搬送の実際(デモンストレーションおよび一部実技)							
13		災害急性期における3T's (13) 災害急性期の受傷状況とトリートメント(事前学習に基づいた復習)							
14		災害急性期における3T's (14) 受傷状況に合わせた止血法、三角巾法、固定法の実際①(実技)							
15		災害急性期における3T's (15) 受傷状況に合わせた止血法、三角巾法、固定法の実際②(実技)							
16		災害急性期における3T's (16) 受傷状況に合わせた止血法、三角巾法、固定法の実際③(実技試験)							
17		避難所開設と運営における看護の役割(1) 避難所の準備、開設、開設後に求められる役割と内容(事前学習と復習・講義)							
18		避難所開設と運営における看護の役割(2) 避難所の運営に必要な準備と住民の備えの実際①(グループワーク)							
19		避難所開設と運営における看護の役割(3) 避難所の運営に必要な準備と住民の備えの実際②(グループワークの発表)							
20		避難所開設と運営における看護の役割(4) 避難所運営ゲームと避難所運営計画の立案・共有①(机上演習)							
21		避難所開設と運営における看護の役割(5) 避難所運営ゲームと避難所運営計画の立案・共有②(机上演習)							
22		避難所開設と運営における看護の役割(6) 身近な地域における避難所開設と机上訓練の振り返り①(発表・意見交換)							
23		避難所開設と運営における看護の役割(7) 身近な地域における避難所開設と机上訓練の振り返り②(発表・意見交換)							
24		避難所開設と運営における看護の役割(8) 避難所における安全・安楽と災害関連死予防対策の実際(実技)							
25		避難所開設と運営における看護の役割(9) 避難所における安全・安楽と災害関連死予防対策のまとめ(実技試験)							
26		地域における防災・減災のための自助・共助(1) 地域における防災・減災と自助・共助の原則①(事前学習と復習)							
27		地域における防災・減災のための自助・共助(2) 身近な地域を想定した「災害図上訓練」①(机上シミュレーション)							
28		地域における防災・減災のための自助・共助(3) 身近な地域を想定した「災害図上訓練」②(机上シミュレーション)							
29		地域における防災・減災のための自助・共助(4) 身近な地域を想定した「災害図上訓練」まとめ(机上シミュレーション)							
30		演習のまとめ・意見交換							
教科書		「災害看護論」の教科書と同じものを使用する。							
参考図書		「災害看護論」の参考書に加えて以下の通り。 1. 榛澤和彦、別冊 地域保健 いのちと健康を守る避難所づくりに生かす18の視点、東京法規出版。 2. 山崎達枝、災害現場でのトリアージと応急処置第2版 DVD+BOOK、日本看護協会出版会。 3. 酒井明子ほか、災害看護の本質 語り継ぐ黒田裕子の実践と思想、日本看護協会出版会。							
予習・復習内容		1. 「災害看護論」で学習したワークシート上の指定箇所を修正および見直しをしておく。 2. 各単元ごとの事前課題を行い、演習当日までに演習事例について必要な方法と原則、それらの根拠について理解しておく。 3. 各単元ごとの事後課題についてワークシートに整理し、より適切な方法と自己の課題について具体的に示す。							
成績評価方法・基準		評価配分:各単元ごとの実技試験の評価点(20%)、グループワークや発表内容の課題達成度(30%)、グループワークにおける参加度、貢献度に関するピア評価(20%)事前学習および事後学習の実施状況(30%)							
履修上の注意		・3年次の科目「災害看護論」を事前に履修することが望ましい。 ・演習に必要な物品および身体支那にその都度注意し、準備しておくこと。演習会場に持ち込む物品は必要最小限と、安全かつ効果的な演習にできるようにしてください。							
担当教員への連絡方法		Email:miyakoshi.sachiyo@shitoku.ac.jp							
実務経験と授業科目との関連性		日本災害看護学会等による被災地調査を複数回経験しており、NPOによる看護師として国内外での派遣活動や地域住民との体験型訓練・講座等の経験を積んでいる。また、JICA緊急援助隊、災害支援ナースの登録員のほか災害支援機関による定期的な訓練に参加し、災害ごとに更新される保健医療の知識や技術、要請をタイムリーに把握し、教育に反映できる。							
保健師助産師看護師学校養成所指定規則に定める別表の種類と教育内容									
別表3(看護師課程)		看護の統合と実践							
別表1(保健師課程)		公衆衛生看護管理論							

看護学部看護学科 シラバス

授業科目	統合演習									
担当教員	林 かおり 坂口 けさみ 樋貝 繁香 川崎 千恵 田中 高政 宮越 幸代 水寄 知子 鈴木 真理子 田渕 祥恵 横関 祐子 桑原 良子 奥原 香織 宮澤 美津子 ミルズ しげ子 小林 由枝 塚田 ゆみ子 堀内 和子 風間 邦子 羽田 かおり									
配当年次	4 年次	配当学期	前期	単位数	1 単位	必修・選択	必修	授業形態	演習	
授業目標	卒業時の看護技術の基本となる能力を確保するため、複数の模擬患者事例に基づきアセスメント・計画立案・実施することにより、管理を経験し実践能力の向上を図る。授業終了時点で、臨床実務に向けての自己の課題を明らかにする。									
学習目標	1. 複数の事例のアセスメントができる。 2. 多重課題による優先順位も考慮し、実施計画の立案ができる。 3. 安全・安楽に配慮し、実践に必要な知識や技術を活用することができる。 4. チームメンバーの一員として主体的に行動することができる。 5. 看護実践における自己の課題を明確にすることができる。									
授業計画										
回	開講日	授業内容							担当教員	
1		オリエンテーション							林	
2		事例のアセスメント、実践の計画立案							林 坂口 樋貝 川崎 田中 宮越 水寄 鈴木 田渕 横関 桑原 奥原 宮澤 ミルズ 小林 塚田 堀内 風間 羽田 三橋	
3		〃								
4		〃								
5		〃								
6		〃								
7		〃								
8		実践および振り返り								
9		〃								
10		〃								
11		〃								
12		〃								
13		〃								
14		まとめ								
15		まとめ								
教科書		後日提示します。								
参考図書		後日提示します。								
予習・復習内容		1 年次から現在に至るまで学習した教科書、講義資料、ワークブック、ノート、実習記録類などを揃えて下さい。								
成績評価方法・基準		後日提示します。								
履修上の注意		この科目を履修するためには1 年次からの必修科目を履修することが必要である。受講にあたり1 年次からの教科書、科目毎の講義資料、ワークブック、各教科のノート、臨地実習記録類を持参すること。								
担当教員への連絡方法		初回時にアナウンスします。								
実務経験と授業科目との関連性		担当教員は、臨床での経験を有しており、その経験を通して授業を行える。								
保健師助産師看護師学校養成所指定規則に定める別表の種類と教育内容 別表 3 （看護師課程） 看護の統合と実践										

看護学部看護学科 シラバス

授業科目	看護研究法								
担当教員	水寄 知子								
配当年次	3～4年次	配当学期	後期（3年次）～ 前期（4年次）	単位数	1単位	必修・選択	必修	授業形態	講義
授業目標	自らの研究課題について研究計画書を作成するための基本的知識を習得する。看護学領域の研究論文を理解するための基礎的知識を習得する。また、看護を体系的に探究し、主体的に看護の課題に取り組む体験を通して、研究的思考並びに態度を養う。								
学習目標	1. 看護研究の目的と意義および研究のプロセスについて説明する。 2. 研究における問いと研究のタイプやデザイン、データ収集方法との基本的な関連を説明する。 3. 研究計画書の基本的構成とその内容について説明する。 4. 研究テーマに沿って文献検索を行う。 5. 研究論文を精読するための視点を述べる。 6. 研究における倫理的配慮の重要性を理解し、必要な倫理的事項を列挙する。								
授業計画									
回	開講日	授業内容							担当教員
1		看護研究とは何か、看護研究の目的・意義							水寄 知子
2		研究プロセスと研究計画書の概要							〃
3		文献検索の方法、文献検討の意義							〃
4		看護研究のプロセス：研究の問いと研究テーマの絞り込み、研究疑問の明確化							〃
5		〔演習〕グループで研究テーマを決めてキーワードを設定する。キーワードを用いて文献検索を行い文献を精読する。							〃
6		看護研究のプロセス：研究方法の検討							〃
7		看護研究のプロセス：データ収集の方法							〃
8		〔演習〕グループで研究テーマに関連した文献を精読し、研究の問いと研究目的、研究方法とのつながりを検討する。（1）量的研究							〃
9		看護研究のプロセス：データ収集と分析方法の検討（1）量的アプローチ							〃
10		看護研究のプロセス：データ収集と分析方法の検討（2）質的アプローチ							〃
11		〔演習〕グループで研究テーマに関連した文献を精読し、研究の問いと研究目的、研究方法とのつながりを検討する。（2）質的研究							〃
12		研究における倫理的配慮							〃
13		〔演習〕研究成果の看護実践における活用可能性をグループで検討する。							〃
14		研究論文の基本的構成と内容							〃
15		〔演習〕研究論文にふさわしい論理的な文章とはどのようなものかを学ぶ。							〃
教科書		教科書は指定しない。資料を作成して授業ごとに配布する。							
参考図書		参考図書は随時授業の中で提示する。							
予習・復習内容		授業で配布した資料を熟読してください。不明な点、疑問点、関心を抱いたことについては、提示した参考図書に当たって理解したうえで、次回の授業に臨んでください。							
成績評価方法・基準		評価配分：期末試験60％、課題レポート30％、演習の取り組み10％による総合評価							
履修上の注意		なし							
担当教員への連絡方法		E-mail:mizusaki.tomoko@shitoku.ac.jp							

実務経験と授業科目との関連性	総合病院の整形外科・産婦人科・循環器内科・心臓血管外科病棟に勤務し、臨床での看護研究に取り組んだ経験を有する。このことから、看護実践の中に問いを見出して看護を探究していく一連のプロセスを、事例に触れながら教授することで学生の理解を促すことが可能となる。
保健師助産師看護師学校養成所指定規則に定める別表の種類と教育内容 別表 3 （看護師課程） 看護の統合と実践	

看護学部看護学科 シラバス

授業科目	看護課題探求									
担当教員	井部 俊子 坂口 けさみ 水寄 知子 林 かわり 樋貝 繁香 川崎 千恵 田中 高政 宮越 幸代 鈴木 真理子 田淵 祥恵 桑原 良子 宮澤 美津子 ミルズ しげ子 小林 由枝 横関 祐子 奥原 香織 塚田 ゆみ子 堀内 和子 風間 邦子 羽田 かわり									
配当年次	4 年次	配当学期	通年	単位数	2 単位	必修・選択	必修	授業形態	演習	
授業目標	本学での学修を通じて学生自らが看護に関する課題を設定し、その課題解決に向けて、教員の指導の下、文献を検討し学生自らが得たデータ又は検証した内容を分析、解釈し、その結果を報告書にまとめる。									
学習目標	1. これまでの学修に基づき、看護実践の課題を明確にできる。 2. 看護実践の課題を取り巻く社会情勢の変化やその方向性を踏まえて、看護実践の課題の位置づけを明確にできる。 3. 課題の解決に向けた計画を立案し、データ収集ができる。 4. 収集したデータを分析し、解釈することができる。 5. 明らかになった結果を既存の知識と関連づけることができる。 6. 他者との討議を通して、考察を深めることができる。									
授業計画										
回	開講日	授業内容							担当教員	
1		オリエンテーション							井部 俊子	
2		関心のある看護実践の課題の明確化							〃	
3～28		課題解決に向けた活動							井部 俊子 坂口 けさみ 水寄 知子 林 かわり 樋貝 繁香 川崎 千恵 田中 高政 宮越 幸代 鈴木 真理子 田淵 祥恵 桑原 良子 宮澤 美津子 ミルズ しげ子 小林 由枝 横関 祐子 奥原 香織 塚田 ゆみ子 堀内 和子 風間 邦子 羽田 かわり	
		課題に関連した文献検討や課題の位置づけの明確化								
		データ収集、分析								
		結果の考察、記述								
		報告書の作成								
9		発表およびまとめ							井部 俊子	
10		〃							〃	
教科書		「看護研究法」の項参照								
参考図書		「看護研究法」の項参照								
予習・復習内容		自発的に課題探求を行うこと。								
成績評価方法・基準		評価配分：報告書60％、発表40％								
履修上の注意		担当教員と話し合いながら進めていきます。								
担当教員への連絡方法		南館事務室へ伝言してください。								

実務経験と授業科目との関連性	看護大学での指導実績にもとづいて学生の個別指導を行うことができる。
保健師助産師看護師学校養成所指定規則に定める別表の種類と教育内容 別表 3 (看護師課程) 看護の統合と実践	

看護学部看護学科 シラバス

授業科目	基礎看護技術実習													
担当教員	田渕 祥恵 水寄 知子		坂口 けさみ 宮越 幸代		樋貝 繁香 横関 祐子		田中 高政 桑原 良子		林 かおり 宮澤 美津子		川崎 千恵 風間 邦子		鈴木 真理子 塚田 ゆみ子	
配当年次	2 年次	配当学期	前期	単位数	1 単位	必修・選択	必修	授業形態	実習					
授業目標	病棟実習を通して看護実践の場や看護師の活動の実際に触れ、どのように看護を展開していくかを具体的に学ぶ。													
学習目標	1. 看護技術が提供される場面を見学し、適用された看護技術の目的と特徴を説明することができる。 2. 実在する患者の健康上の問題を理解するために、効果的なコミュニケーションを用いることができる。 3. 患者に必要な看護技術を根拠に基づき提供することができる。 4. 患者に提供した看護技術を評価することができる。 5. 看護技術は、看護の専門知識に基づいて、患者の安全・安楽・自立を目指した行為であることを認めることができる。													
授業計画														
実習内容	1. 患者を理解するための効果的なコミュニケーションの実践 2. 患者の生活の場と健康上の問題の理解 3. 患者に対応した看護技術の実践とその評価 4. 看護専門職としての態度や倫理的配慮に基づいた実践													
実習方法	1. 病院で実習を行う。 2. 実習指導者から病棟オリエンテーションを受ける。 3. 実習目標に基づき、実習計画を立案する。 4. 日々の実習計画は実習指導者および担当教員、グループメンバーと調整しながら実施する。 5. 日々自身の活動を振り返りながら学習成果と課題を明確化し、実習指導者および担当教員、グループメンバーと共有する。 本実習に関する詳細は、別途要項を配布する。実習オリエンテーションの日程は、後日提示する。													
実習場所	長野赤十字病院 飯山赤十字病院 安曇野赤十字病院 千曲中央病院 北信総合病院													
予習・復習内容	本実習に臨むためには、看護学概論、基礎看護技術論Ⅰ・Ⅱ、ヘルスアセスメント方法論、形態機能学Ⅰ～Ⅲ、病態・疾病治療論Ⅰ・Ⅱなどの講義や演習で学んだことを復習しておいてください。													
履修条件	単位を取得していることが必要な科目：看護学概論、基礎看護技術論Ⅰ・Ⅱ													
成績評価方法・基準	評価配分：目標の達成度 80％、実習に取り組む姿勢・態度 20％で評価する。													
教科書	なし													
参考図書	看護学概論、基礎看護技術論Ⅰ・Ⅱ、ヘルスアセスメント方法論、病態・疾病治療論Ⅰ・Ⅱで使用した教科書、配布資料 その他、適宜紹介する。													
担当教員への連絡方法	E-mail:tabuchi.sachie@shitoku.ac.jp													
実務経験と授業科目との関連性	担当教員は臨床での経験を有する。このことから、治療過程における看護技術について、理論と実践に基づいた授業を提供することができる。													
保健師助産師看護師学校養成所指定規則に定める別表の種類と教育内容 別表3 （看護師課程） 臨地実習 基礎看護学														

看護学部看護学科 シラバス

授業科目	看護展開論実習
担当教員	田渕 祥恵 坂口 けさみ 樋貝 繁香 田中 高政 林 かおり 川崎 千恵 鈴木 真理子 水嶋 知子 宮越 幸代 横関 祐子 桑原 良子 宮澤 美津子 風間 邦子 塚田 ゆみ子
配当年次	2 年次
配当学期	後期
単位数	2 単位
必修・選択	必修
授業形態	実習
授業目標	基礎看護技術論、ヘルスアセスメント方法論、ヒューマンケア体験実習の学修内容をもとに、安全と安楽に配慮して患者の日常生活を支える看護を実践することを通して、看護及び看護に対する考え方を習得し、看護専門職者としての態度を養う。
学習目標	1. 実在する患者を受け持ち、看護過程を展開することができる。 2. 受け持ち患者の看護に責任を持つことができる。 3. 患者や医療従事者、他の学生や指導者と効果的にコミュニケーションを図ることができる。 4. 実習体験を振り返り、根拠に基づいた看護を提供するための自己課題を見出すことができる。
授業計画	
実習内容	1. 受け持ち患者を理解するための効果的なコミュニケーションの適用 2. 受け持ち患者の生活や健康上の問題を解決・回避するための看護過程の適用 3. 受け持ち患者に対する倫理的配慮の実践 4. 受け持ち患者を取り巻く専門職者との情報の共有 5. 学習成果と学習課題の明確化
実習方法	1. 病院で実習を行う。 2. 実習指導者から病棟オリエンテーション、受け持ち患者の紹介を受ける。 3. 一人の学生が1名の患者を受け持つ。 4. 実習目標に基づき、実習計画を立案する。 5. 日々の実習計画は実習指導者および担当教員、グループメンバーと調整しながら実施する。 6. 受け持ち患者に看護技術を提供する際は、看護職者または担当教員が同行する。 7. 日々自身の活動を振り返りながら学習成果と課題を明確化し、実習指導者および担当教員、グループメンバーと共有する。
実習場所	長野赤十字病院 篠ノ井総合病院 飯山赤十字病院 安曇野赤十字病院 千曲中央病院 北信総合病院
予習・復習内容	本実習に臨むためには、看護学概論、基礎看護技術論Ⅰ・Ⅱ、ヘルスアセスメント方法論、形態機能学Ⅰ～Ⅲ、病態・疾病治療論Ⅰ・Ⅱなどの講義や演習で学んだことを復習しておいてください。
履修条件	単位を取得していることが必要な科目：看護学概論、基礎看護技術論Ⅰ・Ⅱ
成績評価方法・基準	評価配分：目標の達成度 80%、実習に取り組む姿勢・態度 20%で評価する。
教科書	なし
参考図書	看護学概論、基礎看護技術論Ⅰ・Ⅱ、ヘルスアセスメント方法論、病態・疾病治療論Ⅰ・Ⅱで使用した教科書、配布資料 その他、適宜紹介する。
担当教員への連絡方法	E-mail: tabuchi.sachie@shitoku.ac.jp
実務経験と授業科目との関連性	担当教員は臨床経験を有する。このことから、治療過程における看護技術について、理論と実践に基づいた授業を提供することができる。
保健師助産師看護師学校養成所指定規則に定める別表の種類と教育内容 別表3 (看護師課程) 臨地実習 基礎看護学	

看護学部看護学科 シラバス

授業科目	成人看護学実習Ⅰ									
担当教員	鈴木 真理子									
配当年次	3年次～4年次	配当学期	後期(3年次)～前期(4年次)		単位数	2単位	必修・選択	必修	授業形態	実習
授業目標	急性期の臨床の現場で、成人期にある患者を受け持ち対象理解を深める。そして、臨床の看護師の援助を受けながらエビデンスに基づく看護ケアを実践する。臨床場面を通して、看護の優先順位や時間管理を考えながら臨床判断や問題解決を行う場面の学びを深める。									
学習目標	1. 成人期にある患者の全身状態や病態を把握し、患者が安全に手術、検査、処置を受けることができるための援助が実践できる。 2. 手術や治療による形態的变化や障害を理解し、生体侵襲による身体的変化をアセスメントし適切な看護が実践できる。 3. 手術、治療後の回復過程を理解し、社会復帰に向け心理・社会・身体的側面から退院に向けた必要な支援を行うことができる。 4. 医療チームの一員としての自覚をもち、連絡・報告・相談ができる。 5. 急性期患者の受け持ち看護学生として相応しい態度で関わり、患者の状況に応じたコミュニケーションをとることができる。									
授業計画										
実習内容	1. 一般病棟において健康障害をもつ急性期（主に周手術期）の患者を受けもち、手術や治療による生体侵襲による身体的変化のアセスメントを行い、適切な看護を実践する。 2. 一般病棟、手術室、術後集中管理病棟等において看護の継続性を学ぶ。 3. 手術、治療後の回復過程ならびに退院に向けて必要な看護を実践する。 4. ケースカンファレンスやテーマカンファレンスなどを通して、情報・知識・体験を分かち合い、学びを広げる。									
実習方法	1. 一般病棟で健康障害をもつ急性期（主に周手術期）の患者を受けもち。 2. 原則、受け持った患者の手術見学を行う。また受け持ち患者が集中管理病棟に入室した場合は、集中管理病棟で実習を行う。 3. 自分が困ったことや疑問、問題に感じたことをテーマにしたカンファレンスや受け持ち患者を紹介し、その患者への看護について共有し深めるためのケースカンファレンスを行う。 4. 実習最終日のカンファレンスでは、自身の看護実践を振り返り、学びを共有するとともに今後の自己の課題を明確にする。 実習に関する詳細な内容については別途実習要項を配布しますので参照してください。									
実習場所	長野赤十字病院、篠ノ井総合病院									
予習・復習内容	成人看護学方法論Ⅰの講義、演習内容を中心に急性期（特に周手術期）看護に必要な一般的知識を理解しておくこと。また、本実習では既習科目（形態機能学ⅠⅡⅢ、病理病態生理学、病態疾病治療論ⅠⅡ、薬理学服薬管理論等）の知識も必須であるため、予め修得内容を復習しておくこと。									
履修条件	単位を修得していることが必要な科目：成人看護学概論、成人看護学方法論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ									
成績評価方法・基準	評価配分：目標の達成度80%、実習に取り組む姿勢20%で評価する。									
教科書	なし									
参考図書	成人看護学方法論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ及びリハビリテーション看護論・クリティカルケア論等で使用した教科書、配付資料。 竹内登美子(2019). 講義から実習へ高齢者と成人の周手術期看護 1～3 第3版. 医歯薬出版株式会社. 倉橋順子(2010). はじめての手術看護. メディカ出版.									
担当教員への連絡方法	実習オリエンテーションでアナウンスします。									
実務経験と授業科目との関連性	ICU病棟ならびに造血幹細胞移植病棟等での勤務経験有る。こうした経験より、学生とともに座学と実習を結び付けて考えていくことができる。									
保健師助産師看護師学校養成所指定規則に定める別表の種類と教育内容 別表3 (看護師課程) 臨地実習 成人看護学										

看護学部看護学科 シラバス

授業科目	成人看護学実習Ⅱ									
担当教員	林 かおり									
配当年次	3年次～4年次	配当学期	後期(3年次)～前期(4年次)		単位数	2単位	必修・選択	必修	授業形態	実習
授業目標	成人期にある看護を必要とする人及びその家族と援助関係を形成し、健康問題や生活環境をアセスメントし、保健、医療、福祉と連携をとりながら問題解決を図るプロセスについて学ぶ。患者の人生や価値観を尊重し、健康生活のあり方や意思決定を支援するとともに、他職種と協働しながら患者や患者を取り巻く人々への援助を実践する。									
学習目標	1. 成人各期の発達段階、発達課題をふまえて対象の理解をする。 2. 健康障害の状況にある対象を理解し、必要な援助を見出し実践できる。 3. 身体機能に障害を持ちながら生活する人への理解を深め、その人なりのQOLを追求し必要な援助ができる。 4. 患者を支える家族の役割と機能を把握し、家族への援助の必要性を理解する。 5. 各段階の成人期の患者を受け持つなかで、その人を取り巻く家族・職場・地域などの環境を知り、生活の再構築に必要な社会資源を考え、保健医療チームの一員として看護師の役割を認識した行動がとれる。									
授業計画										
実習内容	1. 慢性疾患を持つ人の特徴として身体的、心理的、社会的役割、発達段階の理解 2. 対象の入院前及び現在の日常生活習慣の理解 3. 対象が有する慢性的な健康障害の理解と現在の健康状態の考察 4. 現状で必要とされる援助の優先順位からの計画、実施、評価、修正 5. 対象及び家族に教育的介入を成人期の学習特徴を踏まえ実施 6. 退院後も治療をしながら生活をする意味を理解 7. 対象とその家族の生活を支えるチーム医療と社会的資源の理解									
実習方法	1. 成人期で慢性疾患にて入院加療をしている対象を受け持ち実習を行う。 2. 慢性的な健康障害のレベルを把握する。 3. 対象及びその家族と共に目標設定をし健康維持又は増進ができるように看護を実践する。 4. 対象とその家族の生活習慣にあわせた目標設定の変更及び実施をする。 5. 健康維持及び生活の再構築のための方法について考察と教育的な関わりを対象とその家族に持つ。 6. 病棟指導者、受け持ち看護師と定期的に意見交換をし目標設定から評価までを検討する。 7. 病棟で行われるカンファレンスに参加をし、多職種との連携を知りチームの一員として情報提供をする。 8. 毎日のカンファレンスでは指導者・グループメンバーとの情報交換、意見交換を行い視野を広げる。 9. 実習を通し自己の課題を明確にする。 実習に関する詳細な内容については、別途「成人看護学実習要項」を配布しますので参照して下さい。また、実習病院と病棟・オリエンテーション日程は、後日提示します。									
実習場所	長野赤十字病院 篠ノ井総合病院 千曲中央病院									
予習・復習内容	これまでの学習した基礎看護技術論、病態・疾病治療論、成人看護学概論、成人看護学方法論Ⅰ、Ⅱ、Ⅲなどの復習をして下さい。 必要とする実習前に提示される課題学習は必ずして下さい。 苦手な基礎看護技術の見直しをして下さい。									
履修条件	単位を取得していることが必要な科目：成人看護学概論、成人看護学方法論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ									
成績評価方法・基準	評価配分：目標の達成度80%、実習に取り組む姿勢20%で評価する。									
教科書	なし									
参考図書	基礎看護技術論Ⅰ・Ⅱ、病態・疾病治療論Ⅰ・Ⅱ、形態機能学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、薬理学・服薬管理論、成人看護学概論、成人看護学方法論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ及びリハビリテーション看護論、急性・クリティカルケア論で使った教科書、その他の講義で配布された資料、配属病棟で対象者に必要なものを適宜紹介します。									
担当教員への連絡方法	初回実習オリエンテーション時にアナウンスします。									
実務経験と授業科目との関連性	形成外科病棟勤務、地域高齢者専門急性期・回復期病院で勤務と実習指導者として実務を有する。このことから、座学と臨床実習を結び付けて学生とともに考えていくことができる。									
保健師助産師看護師学校養成所指定規則に定める別表の種類と教育内容 別表3 (看護師課程) 臨地実習 成人看護学										

看護学部看護学科 シラバス

授業科目	成人看護学実習Ⅲ									
担当教員	宮澤 美津子 ミルズ しげ子 小林 由枝									
配当年次	3年次～4年次	配当学期	後期(3年次)～前期(4年次)		単位数	2単位	必修・選択	必修	授業形態	実習
授業目標	終末期にある人々を理解し、一人ひとりに応じた看護の実践を通し、全人的な苦痛緩和、より人間らしい生活を送るための支援について学ぶ。									
学習目標	1. 人生の最終段階における人に関心を向け、全人的に理解することを学ぶ。 2. 人生の最終段階における人の家族を理解することを学ぶ。 3. 人生の最終段階における人(成人期)とその家族の全人的苦痛を理解し、苦痛を緩和し、その人らしく生きるために必要な援助を考え、支援する。 4. チーム医療における特徴を理解し看護師の役割および医療・福祉チームにおける協働について学ぶ。 5. 行った看護および体験を振り返り、自己の死生観、看護観を養うことができる。									
授業計画										
実習内容	1. 終末期ケア、緩和ケア、ホスピケアを必要とし医療施設で入院加療または生活をしている人とその家族についての理解 2. 受け持つ人の現状の症状からアセスメント 3. 現状から優先される看護計画の立案、実施、評価 4. スピリチュアルケアの面からその方の生き方、信念を考え計画に反映と実践 5. 多職種との連携と協働から看護師の役割を理解 6. 家族への看護師としての関わり方の理解 7. その人らしく生きる意味の理解									
実習方法	1. 一般病棟、緩和ケア病棟において実習を行う。 2. グループメンバーや実習指導者及び担当教員からの意見、現状での受け持ちの方や家族の希望をもとに看護の方向性を明らかにし、安全で安楽、安寧な看護を実践する。 3. 日々のカンファレンスでは、受け持ちの方又は家族の持つであろうテーマについて話し合い看護の意義を見出す。 4. 病棟でのケースカンファレンス、多職種連携のカンファレンスに参加をする。 5. 実習の最終日のカンファレンスでは、看護実践の振り返り、グループメンバーと学びを共有、今後の課題を明確にする。 実習に関する詳細な内容については、別途「成人看護学実習要項」を配布しますので参照してください。また、実習病院と病棟、オリエンテーション日程は、後日提示します。									
実習場所	長野赤十字病院 新生病院 篠ノ井総合病院									
予習・復習内容	受け持ち対象となる方は「人生の終末を迎える」限られた時間の中で生活されています。このことを方法論Ⅲの講義資料、自ら考えた課題等より見直して下さい。 穏やかで安寧な看護が行えるためには確実な現状把握と技術が必要となります。技術の見直しをして下さい。 1年次からの基礎科目のものを復習し対象の方とその家族の方に真摯に向き合ってください。 自己の立ち居振る舞い、言葉使い、身だしなみ及びコミュニケーションの取り方を振り返って下さい。									
履修条件	単位を取得していることが必要な科目：成人看護学概論、成人看護学方法論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ									
成績評価方法・基準	評価配分：目標の達成度 80%、実習に取り組む姿勢 20%で評価する。									
教科書	なし									
参考図書	基礎看護技術論Ⅰ・Ⅱ、病態・疾病治療論Ⅰ・Ⅱ、形態機能学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、薬理学・服薬管理論、代謝栄養学、成人看護学概論、成人看護学方法論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ及びリハビリテーション看護論、急性・クリティカルケア論で使用した教科書、その他の講義で配布された資料、配属病棟で対象者に必要なものを適宜紹介します。									
担当教員への連絡方法	初回実習オリエンテーション時にアナウンスします。									
実務経験と授業科目との関連性	看護師としての勤務と実習指導者として実務を有する。このことから、座学と臨床実習を結び付けて学生とともに考えていくことができる。									
保健師助産師看護師学校養成所指定規則に定める別表の種類と教育内容 別表3 (看護師課程) 臨地実習 成人看護学										

看護学部看護学科 シラバス

授業科目	老年看護学実習Ⅰ									
担当教員	水寄 知子 桑原 良子									
配当年次	3年次～4年次	配当学期	後期（3年次）～前期（4年次）		単位数	2単位	必修・選択	必修	授業形態	実習
授業目標	医療施設、介護保険等施設及び在宅等の様々な療養生活の場にある高齢者と家族を支える地域包括ケアシステムのあり方を理解する。療養生活を支える社会システムを活用しながら、老いと疾病により変化する健康状態を最大限に保ち、その人らしく生活ができるための看護支援、学際的ケアチームにおける協働と看護の役割について学修する。									
学習目標	1. 介護保険施設を利用する高齢者とコミュニケーションをはかり、自分自身のコミュニケーションのあり方を振り返り述べる。 2. 加齢変化や老化が高齢者の日常生活に及ぼす影響を理解する。 3. 高齢者と家族にとっての環境の意味を理解し、高齢者の特性を踏まえた生活環境を調整する。 4. 療養生活の場で高齢者とその家族に提供される社会資源の活用を知り、介護保険施設が地域で果たす役割・機能、また多職種連携を理解する。 5. 高齢者とその家族の価値観や意思を捉え、それらを尊重した支援を実施する。 6. 介護保険施設での実習の振り返りを通して、自己の洞察を深め、課題を明確にする。									
授業計画										
実習内容	1. 加齢変化や老化が高齢者の日常生活に及ぼす影響を理解するため、介護保険施設のスタッフと日常生活援助などの行動をとみしながら、介護保険施設を利用する高齢者とコミュニケーションをはかる。 2. 高齢者とその家族の価値観や意思を尊重し、高齢者の特性を踏まえた生活環境を調整することを学ぶため、介護保険施設を利用する高齢者を受け持ち、療養生活に必要な援助を実践する。 3. 介護保険施設が地域で果たす役割・機能や多職種連携を理解するため、療養生活の場における保健医療福祉専門職による高齢者生活支援の実際を体験する。									
実習方法	1. 介護保険施設を利用する高齢者を原則1名受け持ち、学習目標を達成する。 2. 実習施設と受け持ち利用者に関する基本情報の提供を受け、事前学習を行う。 3. 受け持ち利用者の生活を多面的に捉え、療養生活に必要な援助を施設スタッフとともに実践する。 4. カンファレンスや毎日の実習記録などを通して学びを深める。									
実習場所	ケアハウス南長野 グリーンヒル									
予習・復習内容	本実習に臨むにあたり、これまで学習した老年看護学概論、老年看護学方法論、病態・疾病治療論などの講義や演習で学んだ内容を、しっかり復習してください。 また、実習要項を熟読し、記載内容を十分に理解してしてください。 1年次からの学習の積み重ねができるように、自己の課題を明確にして実習に臨んでください。									
履修条件	単位を取得していることが必要な科目：老年看護学概論、老年看護学方法論									
成績評価方法・基準	評価配分：目標の達成度70%、実習記録・レポート20%、実習に取り組む姿勢・態度10%による総合評価									
教科書	教科書は指定しない。									
参考図書	老年看護学概論、老年看護学方法論で配布した資料や提示した参考図書、病態・疾病治療論Ⅰ・Ⅱなどで使用した教科書や配布資料。 その他、必要に応じて適宜紹介する。									
担当教員への連絡方法	E-mail:mizusaki.tomoko@shitoku.ac.jp									
実務経験と授業科目との関連性	総合病院の整形外科・産婦人科・循環器内科・心臓血管外科病棟に勤務し、高齢患者に対する看護を実践した経験を有する。このことから、療養生活を営む高齢者とその家族への看護について、理論と実践を教授することで学生の理解を促すことが可能となる。									
保健師助産師看護師学校養成所指定規則に定める別表の種類と教育内容 別表3 （看護師課程） 臨地実習 老年看護学										

看護学部看護学科 シラバス

授業科目	老年看護学実習Ⅱ									
担当教員	桑原 良子 水寄 知子									
配当年次	3年次～4年次	配当学期	後期(3年次)～前期(4年次)		単位数	2単位	必修・選択	必修	授業形態	実習
授業目標	認知症など慢性疾患を持ち、在宅や病院で療養中の高齢者を対象として、身体面・心理面・社会面からの健康状態を包括的にアセスメントする能力を養う。また、実践の場の特徴を理解し、多職種チームメンバーの一員として協働しながら、生活の質を向上するために必要とされる個別性のある看護を実践する。									
学習目標	1. 老化や疾病、治療が高齢者の健康状態や生活機能に及ぼす影響を理解する。 2. 医療施設に入院する高齢者の全体像を身体的、心理的、社会的側面から捉え、高齢者の健康と生活を包括的にアセスメントする。 3. 医療施設に入院する高齢者の療養生活上の課題を明確にして、必要な援助を計画し実践する。 4. 高齢者の療養生活を支援するチームアプローチの実際を通して、保健医療福祉専門職の連携のあり方や看護の専門性を理解する。 5. 医療施設に入院する高齢者への退院支援、地域との連携を理解する。 6. 高齢者の尊厳を重視した援助を実践することにより、高齢者ケアの倫理的課題を考察する。 7. 医療施設での実習の振り返りを通して自己の洞察を深め、看護者としての自己の課題を明確にできる。									
授業計画										
実習内容	1. 老化や疾病、治療が高齢者の健康状態と生活機能に及ぼす影響を理解するため、医療施設に入院して治療を受ける高齢者を受け持ち、健康と生活の状態をアセスメントする。 2. 治療を受ける高齢者の療養生活における援助に必要な基礎的能力を習得するため、受け持ち高齢者に対して既習の看護援助を指導者とともに実践する。 3. 高齢者の療養生活を支援するチームにおける専門職の連携、高齢者への退院支援や地域との連携を学ぶため、医療施設の地域連携部門等における活動の実際を体験する。									
実習方法	1. 医療施設に入院する高齢者を原則1名受け持ち、学習目標を達成する。 2. 実習施設と受け持ち患者に関する基本情報の提供を受け、事前学習を行う。 3. 受け持ち患者の健康と生活を包括的にアセスメントして療養生活上の課題を明確にし、指導者とともに看護を実践する。 4. 医療施設の地域連携部門等における専門職の活動を体験し、高齢者の退院後の生活を見据えた退院調整を学ぶ。 5. カンファレンスや毎日の実習記録などを通して学びを深める。									
実習場所	長野赤十字病院 飯山赤十字病院 千曲中央病院									
予習・復習内容	本実習に臨むにあたり、これまで学習した老年看護学概論、老年看護学方法論、病態・疾病治療論などの講義や演習で学んだ内容を、しっかり復習してください。 また、実習要項を熟読し、記載内容を十分に理解してください。 1年次からの学習の積み重ねができるように、自己の課題を明確にして実習に臨んでください。									
履修条件	単位を取得していることが必要な科目：老年看護学概論、老年看護学方法論									
成績評価方法・基準	評価配分：目標の達成度70%、実習記録・レポート20%、実習に取り組む姿勢・態度10%による総合評価									
教科書	教科書は指定しない。									
参考図書	老年看護学概論、老年看護学方法論で配布した資料や提示した参考図書、病態・疾病治療論Ⅰ・Ⅱなどで使用した教科書や配布資料。 その他、必要に応じて適宜紹介する。									
担当教員への連絡方法	実習オリエンテーションでアナウンスする。									
実務経験と授業科目との関連性	病棟に勤務し、高齢患者に対する看護を実践した経験を有する。このことから、療養生活を営む高齢者とその家族への看護について、理論と実践を教授することで学生の理解を促すことが可能となる。									
保健師助産師看護師学校養成所指定規則に定める別表の種類と教育内容 別表3 (看護師課程) 臨地実習 老年看護学										

看護学部看護学科 シラバス

授業科目	小児看護学実習									
担当教員	樋貝 繁香 風間 邦子									
配当年次	3年次～4年次	配当学期	後期(3年次)～前期(4年次)		単位数	2単位	必修・選択	必修	授業形態	実習
授業目標	子どもは個性あるひとりの人間であり、成長・発達する存在であること、また家族・地域社会の一員として生活していること、子どもの病気や入院により生じる家族への影響について理解し、様々な健康状態にある子どもと家族がその人らしく生活できる看護を実践する基本的な能力を養う。また、子どもや家族に関わる多職種の役割や機能を理解し、チーム医療のなかでの看護師の役割や機能について学修する。									
学習目標	1. 子どもの発達に応じた方法で、コミュニケーションをとり相互作用ができる。 2. 子どもを取り巻く環境や成長・発達の過程に基づいて対象を理解する。 3. 子どもの健康レベルを理解する。 4. 子どもの発達と健康レベルに応じて必要な援助を計画し、実践する。 5. 子どもをめぐる保健・医療・福祉・教育における看護の役割を考える。 6. 子どもと家族を尊重し、誠実な態度で関わる。 7. 医療・看護チームの一員としての自覚をもち、責任のある行動をとる。									
授業計画										
実習内容	1. 子どもの生活する環境の理解 2. 子どもと家族との意図的なコミュニケーションによる相互作用の展開 3. 子どもの安全に配慮した実践 4. 子どもの成長・発達ならびに子どもの健康レベルのアセスメント 5. 病気や障がいがある子どもと家族の発達や日常生活に及ぼす影響のアセスメント 6. 子どもと家族への看護計画の立案、実施、評価 7. 遊びおよび教育機会の保証、子どもの権利、継続看護の重要性について理解ならびに看護の実践 8. 保健・医療・福祉および教育に関わる多職種との連携の実際と看護師の役割についての理解 9. 子どもと家族の生活を支える社会資源の理解									
実習方法	1. 小児病棟と医療型障害児入所施設において実習を行う。 2. グループメンバーや実習指導者および担当教員からの意見、さらには子どもや家族からの希望をもとに看護の方向性を明らかにし、子どもと家族に適した看護を実践する。 3. 日々のカンファレンスでは、小児看護に特徴的なテーマについて話し合い看護の意義を見出す。 4. 実習最終日のカンファレンスでは、自身の看護実践を振り返り、グループメンバーと学びを共有すると共に、今後の課題を明確にする。 実習に関する詳細な内容については、別途要項を配布しますので参照してください。また、実習オリエンテーションの日程は、後日提示します。									
実習場所	長野赤十字病院 篠ノ井総合病院 安曇野赤十字病院 稲荷山医療福祉センター 長野県立こども病院									
予習・復習内容	本実習に臨むにあたり、これまで学習した小児看護学概論、小児看護学方法論、病態・疾病治療論などの講義や演習で学んだことを、しっかり復習してください。学習の積み重ねができるよう自己の課題を明確にし、実習に臨んでください。									
履修条件	単位を取得していることが必要な科目：小児看護学概論、小児看護学方法論									
成績評価方法・基準	評価配分：目標の達成度 80％、実習に取り組む姿勢・態度 20％で評価する。									
教科書	なし									
参考図書	小児看護学概論、小児看護学方法論、病態・疾病治療論Ⅰ・Ⅱ等で使用した教科書、配付資料。その他、必要に応じて適宜紹介します。									
担当教員への連絡方法	E-mail:higai.shigeka@shitoku.ac.jp									

実務経験と授業科目との関連性	小児病棟での勤務を有する。このことから、子どもと家族への看護について、理論と実践を伝えることで、学生はより深い理解が可能となる。
----------------	--

保健師助産師看護師学校養成所指定規則に定める別表の種類と教育内容
別表 3 (看護師課程) 臨地実習 小児看護学

看護学部看護学科 シラバス

[illegible]

実務経験と授業科目との関連性	助産師として産科病棟での勤務経験を有することから、母子及び家族に対する看護について理論と実践を伝えていくことで、より理解や興味が深まる。
保健師助産師看護師学校養成所指定規則に定める別表の種類と教育内容 別表3 (看護師課程) 臨地実習 母性看護学	

看護学部看護学科 シラバス

授業科目	精神看護学実習									
担当教員	田中 高政 羽田 かおり									
配当年次	3 年次～4 年次	配当学期	後期（3 年次）～前期（4 年次）		単位数	2 単位	必修・選択	必修	授業形態	実習
授業目標	精神疾患を有する人々との関わりを通して、精神障がい者を取りまく保健・医療・福祉・チーム医療について理解を深め、看護の役割と協働について学ぶ。また、対人コミュニケーション能力を高め、心の看護を適切に実践するための知識、技術、態度を身につける。									
学習目標	1. 精神看護の対象者と精神看護の場について理解することができる。 2. 医療チームの一員として、精神看護における看護師の役割について理解することができる。 3. 精神症状による生活上の困難や患者のストレングスを理解し、看護過程を用いて精神看護を実践することができる。 4. 治療的コミュニケーションを通して患者を全人的に理解し、看護場面をふり返りながら自己洞察することができる。 5. 精神看護における人権擁護や倫理的課題について感性を高めることができる。 6. 地域社会における精神看護の重要性を理解することができる。									
授業計画										
実習内容	1. 精神疾患を持つ人と援助的関係を形成しながら自分自身の精神障害に対する見方に気づき、その人を全人的に理解する。 2. 精神疾患を持つ人の地域での生活状況を理解し、社会資源と必要な支援、精神保健医療福祉について理解を深める。 3. 精神看護を実践するなかで、自己洞察を行う。									
実習方法	1. 病棟実習：精神科病院で患者を 1 名受け持ち、精神に障害がある「人」について心理的・身体的・社会的に理解する。また看護過程を展開し、適切な看護を実践する。 2. 精神科デイケアや就労継続支援事業所：精神疾患を持ちながら地域で生活する人々への支援や課題について理解する。 3. プロセスレコードを記述し、看護実践のふりかえりを行う。また自己をふりかえり、洞察する。 4. グループメンバー・教員・実習指導者とのカンファレンスを毎日行い、学びを共有しよりよい看護を提供する。 5. 他職種カンファレンスに参加し、学生の立場で意見を発表する。 6. リハビリテーションやレクリエーションに、患者とともに積極的に参加する。									
実習場所	長野赤十字病院 篠ノ井橋病院									
予習・復習内容	実習初日に以下のレポートを提出すること。①統合失調症および感情障害の病態・治療・看護②精神障害に関連する法律・制度③地域の社会資源について									
履修条件	単位を取得していることが必要な科目：精神看護学概論、精神看護学方法論									
成績評価方法・基準	評価配分：目標の達成度 80%、実習に取り組む姿勢・態度 20%で評価する。									
教科書	なし									
参考図書	精神看護学概論、精神看護学方法論で使用した教科書、配布資料。その他、適宜紹介する。									
担当教員への連絡方法	初回、オリエンテーション時にアナウンスします。									
実務経験と授業科目との関連性	精神科救急外来及び精神科病棟での経験があり、臨床経験を踏まえながら講義をすることで学生はより実践的を理解が深めることができる。									
保健師助産師看護師学校養成所指定規則に定める別表の種類と教育内容 別表 3 （看護師課程） 臨地実習 精神看護学										

看護学部看護学科 シラバス

授業科目	在宅看護論実習									
担当教員	横関 祐子									
配当年次	3 年次～4 年次	配当学期	後期（3 年次）～前期（4 年次）		単位数	2 単位	必修・選択	必修	授業形態	実習
授業目標	地域社会における人々の生活に焦点を当て、個人・家族・特定集団の最適な健康状態を生み出すために、人間と環境との相互作用の理解に基づき、看護職としての役割と機能を主体的に発揮し、対象に効果的に働きかける実践能力を養う。また、在宅ケアシステム及び保健医療福祉制度を理解し、アセスメントに基づく看護実践を通して、地域社会における看護の専門性を理解する。									
学習目標	1. 地域で生活する人々や家族の自己決定権を尊重しながら、その人らしい生活を支援することの重要性が理解できる。 2. 保健医療福祉従事者の相互連携や協働の必要性が理解でき、看護の役割と責任について理解できる。 3. 訪問看護実習、デイサービス実習の体験をとおして、看護の継続について考えることができる。 4. 在宅看護における看護倫理について学び、実践することができる。 5. 実習を通して、自己の人間観、看護観を養うことができる。									
授業計画										
実習内容	1. 訪問看護ステーションやデイサービスの目的・組織・特徴・役割・活動の理解。 2. 在宅の療養者および家族の日常生活を尊重した支援の実際の理解。 3. 在宅やデイサービスの療養者および家族の生活に適した援助の実際の理解。 4. 実際の活動場面から、在宅やデイサービスの療養者および家族との援助関係の構築にいての理解。 5. 在宅やデイサービスの療養者および家族との援助関係を構築するために必要な姿勢についての理解と実践。 6. 在宅の療養者および家族の願い・困難などについての関心と、援助の必要性の理解。 7. 在宅におけるチームケアの協働・連携の必要性の理解と看護の役割の理解。 8. 施設から地域への医療・看護の継続性の理解。									
実習方法	1. 訪問看護ステーション 訪問看護師に同行し、見学実習及び、一緒に援助を行う。 最終カンファレンスでは、実習を振り返り、グループメンバーと学びを共有する。 2. 在宅の生活をサポートする関係諸機関 関係諸機関の事業計画やスケジュールに沿って参加し、見学実習を行う。 3. デイサービス デイサービスのプログラムに沿って参加し、見学実習および一緒に援助を行う。 4. 学内実習 既習の知識と実習で学んだことを関連づけながら考え、実習目標に沿って学びを整理しながら学習する。									
実習場所	長野赤十字訪問看護ステーション、訪問看護ステーションしののい、訪問看護ステーションしんまち 訪問看護ステーションまつしろ、自立の森									
予習・復習内容	（1）在宅看護論実習の全般にわたり必要となる知識について学習する。 （糖尿病、慢性閉塞性肺疾患、アルツハイマー型認知症、在宅酸素、CVポートなど） （2）介護保険法に関しては十分学習し、常に参考にできるように実習施設に持参する。 （3）訪問時のマナー、コミュニケーションについては、講義や演習内容を復習し、ポイントをまとめ、実習施設に持参する。									
履修条件	単位を取得していることが必要な科目：地域・在宅看護学Ⅰ、地域・在宅看護学Ⅱ、在宅看護論概論、在宅看護論方法論									
成績評価方法・基準	・評価配分：実習での態度・行動：25％ 記録・レポート・カンファレンスでの発言：75％ 臨床指導者の意見等から総合的に評価する。									
教科書	なし									
参考図書	参考書は指定しない。適宜紹介いたします。									
担当教員への連絡方法	実習オリエンテーション時に説明いたします。									
実務経験と授業科目との関連性	公的機関での訪問指導、高齢者の相談業務の勤務経験や、赤十字健康生活支援講習の指導員として地域で看護技術の指導経験を有する。また地域のグリーンサポートの運営に携わっている。経験を踏まえ事例を交えながら、学生とともに考えることができる。									
保健師助産師看護師学校養成所指定規則に定める別表の種類と教育内容 別表3（看護師課程） 臨地実習 在宅看護論										

看護学部看護学科 シラバス

授業科目	統合実習
担当教員	田淵 祥恵 坂口 けさみ 樋貝 繁香 田中 高政 林 かおり 水寄 知子 宮越 幸代 鈴木 真理子 横関 祐子 桑原 良子 奥原 香織 宮澤 美津子 ミルズ しげ子 小林 由枝 風間 邦子 羽田 かおり 小林 明日香
配当年次	4 年次
配当学期	後期
単位数	2 単位
必修・選択	必修
授業形態	実習
授業目標	既習の知識・技術を統合し、患者個々の様々な状態を的確に判断し、状況に応じて優先順位を考慮した看護を実践できる能力を養う。また、健康の保持・増進、治療、回復において様々な役割・機能を担っている医療機関・施設での実践を通してチーム医療を行う上での看護の独自の役割を理解する。さらに、継続して健康管理が必要な人々の保健・医療・福祉のニーズ、健康観や健康問題への対処法を把握し、社会資源の活用方法や地域医療連携のあり方を学ぶ。
学習目標	1. 自己の学習課題（目標）明確にする。 2. 対象の健康問題と生活の場に即した看護過程を展開できる。 3. チームの一員として協働し、倫理的視点に根差した看護実践を行う。 4. ケア場における看護管理について理解できる。 5. 実践した看護を振り返り、看護観及び今後の課題を明確化できる。
授業計画	
実習内容	1. 病院組織における看護職の役割の理解 2. 複数の患者を受け持ち、多重課題に直面した際の意味決定
実習方法	1. 医療施設で実習を行う。 2. 基礎的知識や看護技術を統合し、対象の健康状況に応じて看護過程を展開する。 3. 看護チームならびに多職種チームと連携しながら看護活動を実施する。 4. 日々の実習体験を振り返り自己の課題を明確化するとともに、グループメンバー、実習指導者、担当教員と共有する。 5. 看護実践における倫理について、自身の体験に基づきグループメンバー、実習指導者、担当教員と共有する。
実習場所	長野赤十字病院 篠ノ井総合病院 千曲中央病院 飯山赤十字病院 安曇野赤十字病院
予習・復習内容	本実習に臨むにあたり、これまで学修した既習知識を復習してください。
履修条件	なし
成績評価方法・基準	評価配分：目標の達成度 8 0 % 実習に取り組む姿勢・態度 2 0 %
教科書	なし
参考図書	必要に応じて紹介します。
担当教員への連絡方法	E-mail: tabuchi.sachie@shitoku.ac.jp
実務経験と授業科目との関連性	担当教員は臨床経験を有する。科学的根拠に基づいた看護実践について伝えることができる。
保健師助産師看護師学校養成所指定規則に定める別表の種類と教育内容 別表 3 (看護師課程) 臨地実習 看護の統合と実践	

看護学部看護学科 シラバス

授業科目	公衆衛生看護学概論								
担当教員	川崎 千恵								
配当年次	2 年次	配当学期	後期	単位数	2 単位	必修・選択	選択	授業形態	講義
授業目標	わが国の社会保障制度（社会保険、公的扶助、社会福祉、公衆衛生と医療、戦争犠牲者援護など）の理念と目的、歴史、主要な関連法規について理解した上で、保健師が行う地域の個人、家族、住民に対する感染症対策、母子保健、健康診査、生活習慣病対策、健康増進、介護保険などにおける課題の把握と支援方法の理論と実際の基本について学び、実践活動能力を養う。								
学習目標	1．公衆衛生学・公衆衛生看護学の理念・概念について説明できる。 2．対象集団別の現状と課題について説明できる。 3．公衆衛生学・公衆衛生看護学的なアプローチによる、地域や集団を対象とした支援について説明できる。								
授業計画									
回	開講日	授業内容							担当教員
1	10/1	公衆衛生学・公衆衛生看護学序論：公衆衛生、公衆衛生看護の概念・理念、公衆衛生看護の責務、公衆衛生看護活動とは							川崎 千恵
2	10/8	国内における公衆衛生看護活動の歴史と現在の活動、活動根拠							〃
3	10/15	健康・疾病予防と健康管理の理念・概念、日本の健康政策							〃
4	10/22	公衆衛生看護の対象：個人と家族、社会的要因、環境的要因							〃
5	10/29	公衆衛生看護活動の視点とアプローチ							〃
6	11/5	母子保健、学校保健（対象集団の現状・課題と関連制度）							〃
7	11/12	成人保健、産業保健（対象集団の現状・課題と関連制度）							〃
8	11/19	高齢者保健（対象集団の現状・課題と関連制度）							〃
9	11/26	精神保健（対象集団の現状・課題と関連制度）							〃
10	12/3	障害者保健、難病保健（対象集団の現状・課題と関連制度）							〃
11	12/10	健康危機管理と感染症対策（近年の動向、関連制度）							〃
12	12/17	環境保健（環境問題、日本の環境行政、環境問題の変遷と取組み）							〃
13	1/7	国際保健（国際保健における課題と対策、アプローチ）							〃
14	1/14	公衆衛生看護における疫学							〃
15	1/21	まとめ							〃
教科書		1. 国民衛生の動向（厚生統計協会、8月発刊最新版）、 2. 荒賀直子, 後閑容子編, 公衆衛生看護学.jp（インターメディカル） 3. 麻原きよみ編, 公衆衛生看護学テキスト1「公衆衛生看護学原論」（医歯薬出版、2014）							
参考図書		1. 鳩野洋子他編, 公衆衛生実践キーワード（医学書院、2014） 2. 佐伯和子編, 公衆衛生看護学テキスト2「公衆衛生看護技術」（医歯薬出版、2014）							
予習・復習内容		事前に授業内容に該当する教科書・参考図書を読んで参加すること							
成績評価方法・基準		定期試験（筆記） 100%							
履修上の注意		なし							
担当教員への連絡方法		初回授業で連絡します。							
実務経験と授業科目との関連性		看護師・行政保健師等の実務経験があり、経験を踏まえ事例を交えながら科目を展開することができる。							
保健師助産師看護師学校養成所指定規則に定める別表の種類と教育内容 別表1（保健師課程） 公衆衛生看護学概論									

看護学部看護学科 シラバス

授業科目	公衆衛生看護学Ⅰ									
担当教員	川崎 千恵 塚田 ゆみ子									
配当年次	3年次	配当学期	前期	単位数	2単位	必修・選択	選択	授業形態	講義	
授業目標	公衆衛生看護の概念と公衆衛生看護活動を担う保健師の役割・機能、対象集団・場面の特性別の保健活動の展開方法について、必要な知識と技術を習得する。特に、長野県における公衆衛生看護実践の展開方法から具体的に理解する。これらを通して保健活動の展開方法について学ぶ。									
学習目標	1. 公衆衛生看護の理念、保健師活動について理解し、説明できる。 2. ライフサイクル別の健康課題と公衆衛生看護活動について理解し、述べることができる。 3. 公衆衛生看護活動に必要な技術を習得できる。									
授業計画										
回	開講日	授業内容							担当教員	
1		公衆衛生看護とは、保健師の活動、保健師活動指針							川崎・塚田	
2		対象者の理解とアセスメントに基づく支援（個人・家族・集団）							〃	
3		対象集団別の公衆衛生看護活動について（母子、親子）							〃	
4		対象集団別の公衆衛生看護活動について（成人・産業）							〃	
5		対象集団別の公衆衛生看護活動について（高齢者・難病）							〃	
6		対象集団別の公衆衛生看護活動について（精神・障害者）							〃	
7		対象集団別の公衆衛生看護活動について（学校）							〃	
8		対象集団別の公衆衛生看護活動について（感染症・災害）							〃	
9		対象集団別の公衆衛生看護活動について（放射線災害）							〃	
10		演習：対象集団別の公衆衛生看護活動について（放射線災害）							〃	
11		今日の公衆衛生の課題							〃	
12		保健師が行う保健指導の理論と実際							〃	
13		保健師が行う健康診査・健康相談の理論と実際（1）							〃	
14		保健師が行う健康診査・健康相談の理論と実際（2）							〃	
15		演習：健康診査・健康相談シュミレーション（1）							〃	
16		演習：健康診査・健康相談シュミレーション（2）							〃	
17		保健師が行う家庭訪問、関連する技術（1）							〃	
18		保健師が行う家庭訪問、関連する技術（2）							〃	
19		演習：家庭訪問シュミレーション・訪問記録、振り返りグループワーク（1）							〃	
20		演習：家庭訪問シュミレーション・訪問記録、振り返りグループワーク（2）							〃	
21		保健師が行う健康教育の理論と実際（1）							〃	
22		保健師が行う健康教育の理論と実際（2）							〃	
23		演習オリエンテーション：健康教育							〃	
24		演習：対象集団・地域についてのアセスメント							〃	
25		演習：健康教育展開案の作成（1）							〃	
26		演習：健康教育展開案の作成（2）							〃	
27		演習：健康教育 健康教育展開案の発表（1）							〃	
28		演習：健康教育 健康教育展開案の発表（2）							〃	
29		公衆衛生看護における倫理							〃	
30		まとめ							〃	
教科書		1. 荒賀直子, 後閑容子編, 公衆衛生看護学. jp 最新版（インターメディカル） 2. 麻原きよみ, 宮崎美砂子他編, 公衆衛生看護学各論2 最新版（日本看護協会出版会） 3. 麻原きよみ編, 公衆衛生看護学テキスト1「公衆衛生看護学原論」（医歯薬出版、2014） 4. 佐伯和子編, 公衆衛生看護学テキスト2「公衆衛生看護技術」（医歯薬出版、2014）								
参考図書		1. 鈴木和子, 渡辺裕子. 家族看護学理論と実践 第5版（日本看護協会出版会、2019） 2. 中金洋子, 野末武義他. 家族心理学 -家族システムの発達と臨床的援助-（有斐閣、2008） 3. 福田洋, 江口泰正編. ヘルスリテラシー（大修館書店、2016） 4. 井伊久美子他著「保健師業務要覧」（第3版、第4版）（日本看護協会出版会）								

予習・復習内容	事前に授業内容に該当する教科書・参考図書を読んで参加すること。
成績評価方法・基準	評価配分：提出物 30%、定期試験（筆記）70%
履修上の注意	なし
担当教員への連絡方法	初回授業で連絡します。

実務経験と授業科目との関連性	地方行政（保健師）における実務経験があり、経験を踏まえ事例を交えながら科目を展開することができる。
保健師助産師看護師学校養成所指定規則に定める別表の種類と教育内容 別表1 （保健師課程） 公衆衛生看護活動展開論	

看護学部看護学科 シラバス

授業科目	公衆衛生看護学Ⅱ									
担当教員	堀内 和子									
配当年次	3 年次	配当学期	前期	単位数	2 単位	必修・選択	選択	授業形態	演習	
授業目標	地域診断に基づきPDCAサイクルで管理する公衆衛生看護活動のプロセスについて、関連理論を踏まえて理解するとともに、地域の健康課題を解決するためにおこなう「地域診断」の進め方について、演習を通して実際に学ぶことで、エビデンスに基づく公衆衛生看護実践の力を身につける。									
学習目標	1. 地域全体を対象とした公衆衛生看護活動について理解し、述べることができる。 2. 地域診断に基づく公衆衛生看護活動の計画・実践・評価までの一連のプロセスを理解し、説明できる。 3. 地区組織化の方法について理解し、述べることができる。 4. 地域診断の考え方と方法を学び、模擬的に実施することができる。 5. 地域住民の健康課題とその背景を明らかにし、解決方法を見出すプロセスと技術について述べるすることができる。 6. エビデンスに基づく公衆衛生看護実践について理解し、述べることができる。									
授業計画										
回	開講日	授業内容							担当教員	
1		地域における保健活動：地域における活動の意義、地域・地区の定義と活動の範囲・対象、地区活動の目的							堀内 和子	
2		地域における保健活動：PDCAサイクルによる保健活動、保健活動の評価（１）活動計画の							〃	
3		地域における保健活動：PDCAサイクルによる保健活動、保健活動の評価（２）モニタリング・評価							〃	
4		政策形成過程、事業化・施策化							〃	
5		事業化・施策化、予算化の実際、起案書の作成方法とプレゼンテーション							〃	
6		演習①オリエンテーション							〃	
7		演習①企画書の作成とプレゼンテーション（１）							〃	
8		演習①企画書の作成とプレゼンテーション（２）							〃	
9		地区組織の育成・支援：地区組織化に関する理論、方法論、パートナーシップ、CBPR							〃	
10		地区組織の育成・支援：グループ支援の理論と実際							〃	
11		地域診断：地域診断の目的・プロセス・方法、活用される理論							〃	
12		健康指標関連データの活用方法（収集と解釈、データの統合等）、演習②オリエンテーシ							〃	
13		演習② 健康指標関連データの活用（１）							〃	
14		演習② 健康指標関連データの活用（２）							〃	
15		演習③オリエンテーション							〃	
16		演習③地域についての事前調査（１）（健康指標関連データの収集と解釈、地域資源データの収集）							〃	
17		演習③地域についての事前調査（２）（健康指標関連データの収集と解釈、地域資源データの収集）							〃	
18		演習③地域についての事前調査（１）（地区踏査計画の立案）							〃	
19		演習③地域についての事前調査（２）（地区踏査計画の立案）							〃	
20		演習③実習地域の地域診断の実際 地区踏査の実施（グループ別）（１）							〃	
21		演習③実習地域の地域診断の実際 地区踏査の実施（グループ別）（２）							〃	
22		演習③実習地域の地域診断の実際 地区踏査の実施（グループ別）（３）							〃	
23		演習③実習地域の地域診断の実際 地区踏査の実施（グループ別）（４）							〃	
24		演習③地区踏査結果のまとめ（グループ別）（１）							〃	
25		演習③地区踏査結果のまとめ（グループ別）（２）							〃	
26		演習③発表、グループごとの振り返り（１）							〃	
27		演習③発表、グループごとの振り返り（２）							〃	
28		エビデンスに基づく公衆衛生看護実践とは、EBM、EBHPとは							〃	
29		演習④EBM、EBHP							〃	
30		まとめ							〃	
教科書		荒賀直子, 後閑容子編, 公衆衛生看護学, jp 第4版（インターメディカル）								
参考図書		1. 麻原さよみ編, 公衆衛生看護学テキスト1 「公衆衛生看護学原論」（医歯薬出版、2014） 2. 佐伯和子編, 公衆衛生看護学テキスト2 「公衆衛生看護技術」（医歯薬出版、2014） 3. 星旦二・栗盛須雅子編, 地域保健スタッフのための「住民グループ」のつくり方・育て方（医学書院、2010） 4. 井伊久美子他著「保健師業務要覧」（第3版、第4版）（日本看護協会出版会） その他、随時講義の中で紹介する。								
予習・復習内容		事前に授業内容に該当する教科書・参考図書を読んで参加すること。								
成績評価方法・基準		評価配分：提出物 30％、定期試験（筆記）70％								
履修上の注意		なし								
担当教員への連絡方法		初回授業で連絡します。								
実務経験と授業科目との関連性		行政保健師等の実務経験があり、経験を踏まえ事例を交えながら科目を展開することができる。								
保健師助産師看護師学校養成所指定規則に定める別表の種類と教育内容 別表1 （保健師課程） 公衆衛生看護活動展開論										

看護学部看護学科 シラバス

授業科目	公衆衛生看護学Ⅲ								
担当教員	川崎 千恵								
配当年次	3 年次	配当学期	前期	単位数	2 単位	必修・選択	選択	授業形態	演習
授業目標	行政組織、行政組織における保健師の役割を理解したうえで、行政組織における公衆衛生看護管理の目的や機能、公衆衛生看護管理者の役割について、理論と実践例から理解するとともに、管理機能を果たすうえで必要なリーダーシップやチームビルディング、ファシリテーションについて理解し、その方法を学ぶ。								
学習目標	1. 行政組織、行政組織における保健師の役割について理解し、述べることができる。 2. 行政組織における公衆衛生看護管理の目的や機能について理解し、説明できる。 3. 行政組織における公衆衛生看護管理者の役割を、理論と実践例から理解し、述べることができる。 4. 公衆衛生看護活動において、管理機能を果たすうえで必要な技術を習得できる。 5. 保健師の基礎・継続教育について理解し、専門的自律のために必要なことを述べることができる。								
授業計画									
回	開講日	授業内容							担当教員
1～2		公衆衛生看護管理：公衆衛生看護管理の目的、管理の構造と機能							川崎 千恵
3～4		行政組織の特徴、行政組織における保健師の役割、行政における保健師管理者の管理の実際							〃
5～6		災害時における保健師管理者による管理の実際							〃
7～8		公衆衛生看護活動におけるマネジメント							〃
9～10		地区管理と地域ケアシステム構築							〃
11～12		リーダーシップとメンバーシップ							〃
13～14		演習：リーダーシップ（１）							〃
15～16		演習：リーダーシップ（２）							〃
17～18		公衆衛生看護活動における協働：チーム・ビルディング、ファシリテーション							〃
19～20		演習：ファシリテーション（１）							〃
21～22		演習：ファシリテーション（２）							〃
23～24		演習：地区管理（１）							〃
25～26		演習：地区管理（２）							〃
27～28		演習のまとめ							〃
29～30		保健師の人材育成：保健師教育の変遷・現状、継続教育と保健師の専門的自律							〃
教科書		1. 宮崎美砂子他編「公衆衛生看護学 各論 2」（最新版）（日本看護協会出版会）							
参考図書		1. 井伊久美子他著「保健師業務要覧」（最新版）（日本看護協会出版会） 2. 井部俊子編. 実践家のリーダーシップ（ライフサポート社、2009） 3. P.F. ドラッカー. エッセンシャル版 マネジメント-基本と原則-（ダイヤモンド社、2001） 4. 金井壽宏. リーダーシップ入門（日経文庫、2005） 5. 堀公俊. ファシリテーション入門（日経文庫、2004） その他、随時講義の中で紹介する。							
予習・復習内容		事前に授業内容に該当する教科書・参考図書を読んで参加すること。							
成績評価方法・基準		評価配分：演習提出物 30%、定期試験（筆記） 70%							
履修上の注意		なし							
担当教員への連絡方法		初回授業で連絡します。							

実務経験と授業科目との関連性	看護師・行政保健師等の実務経験があり、経験を踏まえ事例を交えながら科目を展開することができる。
保健師助産師看護師学校養成所指定規則に定める別表の種類と教育内容 別表 1 (保健師課程) 公衆衛生看護管理論	

看護学部看護学科 シラバス

授業科目	公衆衛生看護学実習Ⅰ									
担当教員	川崎 千恵 塚田 ゆみ子 堀内 和子									
配当年次	4年次	配当学期	前期	単位数	3単位	必修・選択	選択	授業形態	実習	
授業目標	地域診断（コミュニティ・アセスメント）に基づく地域住民保健活動における計画立案・実施、評価、政策提言を行うって、保健師の公衆衛生看護の実践力を習得する。									
学習目標	1. 地域に顕在・潜在する健康課題を明らかにする、地域診断（コミュニティアセスメント）の方法を習得する。 2. 地域診断の結果に基づくPDCAサイクルに沿った保健活動の計画から評価までの一連の展開方法と技術を習得する。 3. 公衆衛生看護活動の実際を理解するとともに、活動に必要な基礎的知識、技術、態度を実地に学び習得する。									
授業計画										
実習内容	実習オリエンテーション 保健所実習（5日間） 市町村役場・市町村保健センター実習（10日間） 実習報告会（グループ発表）とグループディスカッション(学内)									
実習方法	・保健所・保健センター、地域包括支援センター等において実習を行う。 ・個人・家族に対する支援について、支援計画の立案・実施・評価を行うとともに、PDCAマネジメントサイクルを用いて、継続的支援や必要な事業化・施策化・組織的な取組みについて考察する。 ・実習先の地域の特定集団のための地域ケアシステムを構成する要素を抽出するとともに、各要素、たとえば 住民活動等（地区組織）や地域包括支援センター、社会福祉協議会等の関係機関の実際の活動内容・役割・課題を明確にする。 ・実習先の都道府県・市町村が行っている保健福祉行政を、地域診断（コミュニティ・アセスメント）の結果と関連づけて理解する ・実習先の団体・組織に属する人びとの健康課題に対する公衆衛生看護活動の実際を理解し、組織的に講じる必要がある対策や、行政が講じる必要がある施策・事業等を考察する									
実習場所	長野保健福祉事務所/北信保健福祉事務所/長野市保健所/長野市三陽保健センター/長野市吉田保健センター/長野市東部保健センター/長野市犀南保健センター/長野市真島保健センター/飯山市保健センター/千曲市更埴保健センター/須坂市保健センター/須坂市地域包括支援センター/坂城町保健センター									
予習・復習内容	※実習期間前に、実習施設の指導者と実習内容に関して十分指導および助言を受けてから、実習に臨む。 ・実習開始前のオリエンテーションで、実習方法の確認を行うこと。 ・これまで講義・演習で学んだ内容について、各自が十分復習する（教科書、配布資料は少なくとも精読する） ・実習先の市町村に関する地域診断（コミュニティ・アセスメント）を事前に十分行い、地域特性を把握しておくこと。ただし、地域診断結果は、実習期間中に修正・追加等を行い、アセスメントを深める。 ・実習先の組織・団体に属する人びとの健康課題の抽出を事前に行い、集団特性を把握しておくこと。 ・実習終了後は、実習記録の整理、課題レポートの作成を個人で行うとともに、グループで作成する資料はリーダーがまとめ、期日までに提出すること。									
履修条件	保健師課程を選択した者のみ 単位を取得していることが必要な科目：公衆衛生看護学概論、公衆衛生看護学Ⅰ、公衆衛生看護学Ⅱ、公衆衛生看護学Ⅲ									
成績評価方法・基準	・評価配分：参加態度 40%、実習記録・レポート 40%、報告会における発表内容 20%									
教科書	1. 公衆衛生看護学テキスト1「公衆衛生看護学原論」（医歯薬出版, 2014） 2. 公衆衛生看護学テキスト2「公衆衛生看護技術」（医歯薬出版, 2014） 3. 公衆衛生看護学テキスト3「公衆衛生看護活動Ⅰ」（医歯薬出版, 2014） 4. 公衆衛生看護学テキスト4「公衆衛生看護活動Ⅱ」（医歯薬出版, 2014） 5. 公衆衛生看護学 jp インターメディカル									
参考図書	その他、適宜紹介する。									
担当教員への連絡方法	実習オリエンテーションで提示する。									
実務経験と授業科目との関連性	川崎・塚田・堀内ともに、地方自治体における保健師の実務経験があり、経験を踏まえ指導することができる。									
定規則に定める別表の種類と教育内容 別表1 （保健師課程） 公衆衛生看護学実習 公衆衛生看護活動展開論実習、公衆衛生看護管理論実習										

看護学部看護学科 シラバス

授業科目	公衆衛生看護学実習Ⅱ									
担当教員	堀内 和子 川崎 千恵 塚田 ゆみ子									
配当年次	4 年次	配当学期	後期	単位数	2 単位	必修・選択	選択	授業形態	実習	
授業目標	コミュニティ・アセスメントに基づく学校保健や職域保健における保健師活動の計画立案・実施・評価・政策提言を行って、公衆衛生看護の実践力を習得する。									
学習目標	1. 地域に顕在・潜在する健康課題を明らかにする、地域診断（コミュニティアセスメント）の方法を習得する。 2. 地域診断の結果に基づくPDCAサイクルに沿った保健活動の計画から評価までの一連の展開方法と技術を習得する。 3. 公衆衛生看護活動の実際を理解するとともに、活動に必要な基礎的知識、技術、態度を実地に学び習得する。 4. 個人・家族・集団・地域を対象とする継続的支援を実践することができる。									
授業計画										
実習内容	実習オリエンテーション、グループワーク(学内) 小中学校実習(5日間) 企業等(3日) 実習報告会（グループ発表）とグループディスカッション(学内)									
実習方法	・小中学校、企業等において実習を行う。 ・学校教育の概要及び学校保健活動、養護教諭の役割を理解する。（学校保健） ・児童生徒の発達や健康課題の特徴を理解する。（学校保健） ・学校保健活動における養護教諭の活動の実際を理解する。（学校保健） ・児童生徒の健康課題について適切な判断ができ、対応方法を見出すことができる。 ・児童生徒の発達や健康課題の特徴に基づいて、疾病予防・健康増進のための健康教育が選択できる。（学校保健） ・事業所の機能と健康管理の役割（義務）、産業保健師の役割を理解する。（産業保健） ・対象集団の特徴を理解し、健康課題について理解する。（産業保健） ・産業保健活動の展開方法を理解する。（産業保健） ・働く場における関連部門、他職種との連携・協働の重要性と実際について理解する。（産業保健） ・保健・医療・福祉行政等関係機関・職種との連携・協働の重要性と実際、課題について理解する。（共通）									
実習場所	長野産業保健総合支援センター/長野県総務部職員課/長野県教育委員会保健厚生課/長野県警察本部厚生課/（株）八十二銀行/（株）みすずコーポレーション/大日本法令印刷（株）長野支社/川中島中学校/更北中学校/広徳中学校/昭和小学校/川中島小学校/青木島小学校/下氷鉋小学校/三本柳小学校/真島小学校/共和小学校									
予習・復習内容	※実習期間前に、実習施設の指導者と実習内容に関して十分指導および助言を受けてから、実習に臨む。 実習開始前のオリエンテーションで、実習方法の確認を行うこと。 ・これまで講義・演習で学んだ内容について、各自が十分復習する（教科書、配布資料は少なくとも精読する） ・実習先の組織・団体に属する人びとの健康課題の抽出を事前に行い、集団特性を把握しておくこと。 ・実習終了後は、実習記録の整理、課題レポートの作成を個人で行うとともに、グループで作成する資料はリーダーがまとめ、期日までに提出すること。									
履修条件	保健師課程を選択した者のみ 単位を取得していることが必要な科目：公衆衛生看護学概論、公衆衛生看護学Ⅰ、公衆衛生看護学Ⅱ、公衆衛生看護学Ⅲ、公衆衛生看護学実習Ⅰ									
成績評価方法・基準	評価配分：参加態度 ４０％、実習記録・レポート ４０％、報告会における発表内容 ２０％									
教科書	1. 公衆衛生看護学テキスト1「公衆衛生看護学原論」（医歯薬出版, 2014） 2. 公衆衛生看護学テキスト2「公衆衛生看護技術」（医歯薬出版, 2014） 3. 公衆衛生看護学テキスト3「公衆衛生看護活動Ⅰ」（医歯薬出版, 2014） 4. 公衆衛生看護学テキスト4「公衆衛生看護活動Ⅱ」（医歯薬出版, 2014） 5. 公衆衛生看護学 jp インターメディカル									
参考図書	その他、適宜紹介する。									
担当教員への連絡方法	実習オリエンテーションで提示する。									

実務経験と授業科目との関連性

川崎・塚田・堀内ともに、地方自治体(教育委員会を含む)における保健師の実務経験があり、経験を踏まえ指導することができる。

定規則に定める別表の種類と教育内容

別表1 (保健師課程) 公衆衛生看護学実習 個人・家族・集団・組織の支援実習

看護学部看護学科 シラバス

授業科目	ヒューマンケア論									
担当教員	岩谷 力 井部 俊子 金物 壽久 川崎 千恵 松房 利憲 大町 かおり									
配当年次	1 年次	配当学期	前期	単位数	1 単位	必修・選択	必修	授業形態	講義	
授業目標	保健・医療・福祉に関する専門的な働きかけを必要とする人が、健康問題を主体的に解決し、より良く生きることを目的とした援助を行う上で地域が持っている問題解決能力を活かしていくことをソーシャル・キャピタルの醸成と活用の方策として理解する。その目的に向かって行われる働きかけに共通するヒューマンケアの方策を学ぶ。									
学習目標	1. 公衆衛生学・公衆衛生看護学の理念・迎年について説明できる。 2. 対象集団別の現状と課題について説明できる。 3. 公衆衛生学・公衆衛生看護学的なアプローチによる市域や集団を対象とした支援について説明できる。 4. ヒューマンケアの概念が登場した社会的背景と制度的背景の基礎的な知識を得る。 5. 学である「四徳」について、多様な意味に用いられることを理解し、説明できる。 6. 「コミュニケーション」の持つ意義や「ケアすることによって共に成長する自分」をみつめ、保健・医療・福祉サービスの連携の意義と重要性を説明できる。									
授業計画										
回	開講日	授業内容							担当教員	
1	4/13	ヒューマンケアを学ぶこと							岩谷	
2	4/20	ケア・ケアリングとはなにか							井部	
3	4/27	地域で暮らす人々を理解する、社会文化							川崎	
4	5/11	「答えのない問い」 ① 正義とはなにか							大町	
5	5/18	「答えのない問い」 ① 正義とはなにか グループ討議・発表							〃	
6	5/25	「答えのない問い」 ② 勇気とはなにか							川崎	
7	6/1	「答えのない問い」 ② 勇気とはなにか グループ討議 発表							〃	
8	6/8	「答えのない問い」 ③ 知恵とはなにか							松房	
9	6/15	「答えのない問い」 ③ 知恵とはなにか グループ討議 発表							〃	
10	6/22	「答えのない問い」 ④ 節制・中庸とはなにか							金物	
11	6/29	「答えのない問い」 ④ 節制・中庸とはなにか							大町	
12	7/6	老いるということ							岩谷	
13	7/13	目が不自由な生活							松房	
14	7/20	わざと言葉							〃	
15	7/27	まとめ：考えや思いを共有することについて							井部	
教科書		なし								
参考図書		1. 西研 特別授業 ソクラテスの弁明 NHK出版, *若松英輔 西田幾多郎 善の研究 NHKテキスト 2. 神島裕子 正義とは何か 中公新書 ほかに 適宜提示								
予習・復習内容		参考図書を予習、復習								
成績評価方法・基準		成績配分：各回毎に提出するレポート100%（「問い」のもつ多面性の理解、「問い」への多様な回答とその適応限界についての考察について評価）								
履修上の注意		本学の教育の基盤をなす「ヒューマンケア」は「援助」の基本的概念です。援助は多種多様な求めに、最善と考えられる支援策で応じることである。それは「正解のない問い」への「答え」を考える作業を伴う。「答えのない問い」である「四徳」について、①実例を出す ②意味を確かめ共通要素を考える ③価値あるとされる理由を考えるといった対話を通して考えを深める。								
担当教員への連絡方法		担当教員が多数であるので、連絡方法は南館事務室に問い合わせてください。								
実務経験と授業科目との関連性		臨床場面での当事者の訴える「答えのない問い」を多面的に理解し、当事者間での合意形成を図ってきた経験を基盤として対話する。								
保健師助産師看護師学校養成所指定規則に定める別表の種類と教育内容 別表3（看護師課程） 基礎看護学 別表1（保健師課程） 公衆衛生看護学概論										

看護学部看護学科 シラバス

授業科目	ヒューマンケア体験実習									
担当教員	坂口 けさみ	樋貝 繁香	川崎 千恵	水寄 知子	宮越 幸代					
	田淵 祥恵	宮澤 美津子	塚田 ゆみ子							
配当年次	1 年次	配当学期	前期	単位数	1 単位	必修・選択	必修	授業形態	実習	
授業目標	保健医療福祉に共通する対人援助の基盤を実際に学ぶ。看護は良好なコミュニケーションに裏打ちされた患者と看護師との人間関係・信頼関係のもとで行われる。本科目では、人間と人間そして患者と看護師の関係の重要性を理解し、関係を築き・深めるためのコミュニケーションに関する概念、モデル、方法及び態度を学び、看護職者の基盤を創る。									
学習目標	1. コミュニケーションの概念・モデル・方法を理解し、活用できる。 2. 日常生活におけるコミュニケーションの意義・目的・方法について理解し、活用できる。 3. 看護実践におけるコミュニケーションの意義・目的・方法について理解し、活用できる。 4. 教員と適切なコミュニケーションがとれる（報・連・相）。 5. 利用者・看護師に自己紹介をして実習の概要を伝え、コミュニケーションがとれる。 6. 講義・演習・実習を通じて、自分の考えを主体的に発言することができる。 7. 自己のコミュニケーションを深く振り返り、自分の特徴（長所、短所）と今後の課題を述べることができる。 8. 実習における個人情報保護の必要性とその方法を理解し、実践できる。									
授業計画										
実習内容	1. 地域で暮らす人々や療養生活を送る人々の生活や健康の理解 2. 対象に適したコミュニケーション技術の習得とコミュニケーションを成立させるための理論の理解 3. プロセスレコードを用いた自己のコミュニケーションの記述と振り返り、及び自己のコミュニケーションに関する課題の抽出 4. 看護学生としてふさわしい態度や実習姿勢の理解									
実習方法	実習前準備：計 4 回実施するが、日程については 4 月以降の時期に、早めに連絡する。実習要項に基づく本学の実習全般のオリエンテーション、ヒューマンケア体験実習オリエンテーション、日常コミュニケーションに関するグループワーク、実習場所別オリエンテーションを行う。 実習期間：6 / 2（火）～6 / 5（金）；1 グループ 5 人程度とし、グループに分かれて実習する。実習場所は、学生 1 人につき、老人福祉施設 2 日、観光地・地域 2 日の計 4 日間の予定で進める。 実習後学習：実習成果のまとめと発表準備、実習成果の発表：日程については 4 月以降の時期に、早めに連絡する。									
実習場所	・観光地・地域実習（善光寺周辺、今井・川中島周辺の住民自主活動への参加） ・老人福祉施設実習（ケアハウス南長野、グリーンヒル、グリーンヒル篠ノ井中央館）									
予習・復習内容	本学で 1 年前期に開講している看護学概論、基礎看護技術論Ⅰ、ヒューマンケア論、臨床心理学等の中で学習するコミュニケーションに関する理論や方法について、復習して臨む。									
履修条件	なし									
成績評価方法・基準	実習への参加、プロセスレコード、課題レポート等の結果を総合的に勘案して評価する。評価配分は、実習 6 0 %、提出物 4 0 % とする。									
教科書	なし									
参考図書	深井喜代子編集 「新体系看護学全書 基礎看護学② 基礎看護技術Ⅰ 第5版」 （メヂカルフレンド社）									
担当教員への連絡方法	e-mail：sakaguchi.kesami@shitoku.ac.jp									
実務経験と授業科目との関連性	看護職としての病院勤務経験を有する。このことから、コミュニケーションの重要性と人間関係構築の理論や実践を伝えていくことで、看護やコミュニケーションに関する理解や興味がより深まる。									
保健師助産師看護師学校養成所指定規則に定める別表の種類と教育内容 別表 3 （看護師課程） 臨地実習 基礎看護学 別表 1 （保健師課程） 公衆衛生看護学実習 個人・家族・集団・組織の支援実習										

看護学部看護学科 シラバス

授業科目	IPW論								
担当教員	宮越 幸代 松房 利憲								
配当年次	2年次	配当学期	前期	単位数	1単位	必修・選択	必修	授業形態	講義
授業目標	医療技術の複雑化に対応するために、また超高齢化に伴う全人的医療ケアを実現するために、二種類以上の専門職者が共に学びあう多職種（専門職）連携教育（Interprofessional Education:IPE）が広がりを見せている。本科目は、全学部の学生が混在する少人数グループを単位とし、クリティカルシンキング・ロジカルライティングを習得し、図書館演習及び医療をテーマとしたワークショップ活動を行うことで、IPEに必要なアカデミックリテラシー（大学で学ぶための諸能力）を学ぶ。								
学習目標	1. 多職種が連携したチーム医療の機能と意義を具体的な事例をあげて説明する。 2. チーム医療における意思疎通と医療倫理について具体的な事例について意見交換し、その留意点とその根拠を説明する。 3. チーム医療における各専門職の役割や機能、理念について、それぞれの職種の特徴と関連付けて述べる。 4. 効果的なチーム医療の方法と実践について意見交換し、自職種の役割と他職種との連携方法を例に、具体的に説明する。 5. 効果的なチーム医療の方法と実践について考える自職種とチームの課題を整理し、説明する。								
授業計画									
回	開講日	授業内容						担当教員	
1	5/22	多職種連携医療概論（1）専門職の連携が求められる背景、多職種連携医療の機能と意義（講義）						宮越・松房	
2	5/29	多職種連携医療概論（2）多職種による協働に不可欠な信頼、チームの質向上、対立の解決（講義）						〃	
3	6/12	グループワーク（1）多職種連携における意思疎通（演習）						〃	
4	6/19	グループワーク（2）多職種連携における医療倫理（演習）						〃	
5	6/26	グループワーク（3）多職種連携による対象の分析（アセスメント）（演習）						〃	
6	7/3	グループワーク（4）多職種連携による支援計画（演習）						〃	
7	7/10	グループワークの発表 事例に対する支援計画とグループワークの振り返り（発表・意見交換）						〃	
8	7/17	まとめ よりよい連携医療を提供するための課題と展望（意見交換）						〃	
教科書	水本清久ほか、実践チーム医療論-実践と教育プログラム-。医歯薬出版株式会社。 ほかにプリントを配布。								
参考図書	1. 大嶋伸雄、はじめてのIP 連携を学びはじめる人のためのIP入門。協同医書出版社。 2. 細田満和子、「チーム医療」とは何か。日本看護協会出版会。 3. 京極真、信念対立解明アプローチ入門—チーム医療・多職種連携の可能性をひらく。誠信書房。 4. 福澤一吉、看護学生が身につけたい論理的に書く・読むスキル。医学書院。 5. 河野哲也、レポート・論文の書き方入門 第4版。慶應義塾大学出版会。								
予習・復習内容	1. 多職種について想定する専門職像を整理し、質問できるようにしておく。 2. 自職種について項目に沿って整理し、説明できるようにしておく。授業後の修正を行い、他職種と共有するうえでの自己の課題を明確にしておく。 3. 多職種連携医療における意思疎通の事例に対する自分の考えを整理し、説明できるようにしておく。 4. 多職種連携医療における医療倫理の事例に対する自分の考えを整理し、説明できるようにしておく。								
成績評価方法・基準	グループワークに対する事前準備、参加度、貢献度に関する評価50％ グループ発表の内容および態度、完成度50％ グループワークでは提供された事例の課題を多面的な視点から論理的に分析し、連携・協働のプロセスを深く省察する。発表は一般論の並列でなく、根拠とともに原理原則を踏まえた具体的な内容であること。								
履修上の注意	予習・復習、グループワークでは、論理的な文章表現（大学におけるレポート執筆方法の基本）、専門文献の正しい活用・引用方法の手引きとなる資料を手元に準備し、必要時常に参照できるようにしてください。自職種と他職種の違いや葛藤に向き合い、表面的な調和でなく、共に学び、お互いから学び、お互いについて学ぶ積極的な姿勢を期待します。								
担当教員への連絡方法	Email: matsufusa.toshinori@shitoku.ac.jp, miyakoshi.sachiyo@shitoku.ac.jp								
実務経験と授業科目との関連性	松房は総合病院勤務での多職種連携医療の経験があり、宮越は災害派遣および国際協力の現場での多職種連携による協働経験があり、これまでに多職種連携科目の演習および参考書の分担執筆を担当した経験を持ち、現場と教育を関連付けて学生に理解を促すことができる。								
保健師助産師看護師学校養成所指定規則に定める別表の種類と教育内容 別表3（看護師課程） 統合分野 看護の実践と統合									

看護学部看護学科 シラバス

授業科目	IPW演習Ⅰ									
担当教員	宮越 幸代 坂口 けさみ 林 かおり 樋貝 繁香 川崎 千恵 田中 高政 水嶋 知子 鈴木 真理子 田渕 祥恵 桑原 良子 宮澤 美津子 横関 祐子 奥原 香織 塚田 ゆみ子 堀内 和子 風間 邦子 松房 利憲 大町 かおり 宮脇 利幸 山本 良彦									
配当年次	3年次	配当学期	前期	単位数	1単位	必修・選択	必修	授業形態	演習	
授業目標	地域における保健医療福祉の場を想定し、リハビリテーション学科の学生と共にグループを編成し、多職種連携について事前学習、課題の設定、チームワークを意識しながらチームの目標に向かっていくプロセスを相互に学びあう。									
学習目標	1. 多職種が連携した医療による支援計画を事例を通して立案し、自職種の役割と連携方法について具体的に説明する。 2. チーム医療における意思疎通と医療倫理の重要性について、事例をもとに意見交換し、それぞれを踏まえた具体的な協働方法を説明する。 3. 多職種で連携・協調するためのリーダーシップ、メンバーシップを発揮しながら意見交換し、合意形成した具体的な支援計画を説明する。 4. より効果的な多職種連携医療を実践するためのチームおよび自己の課題を整理して述べる。									
授業計画										
回	開講日	授業内容							担当教員	
1		学習目標および演習方法（オリエンテーション）							宮越 幸代 坂口 けさみ 林 かおり	
2		チームビルディングおよび対象の理解（20事例・20グループ）（グループワーク①）							樋貝 繁香 川崎 千恵 田中 高政	
3		対象事例の分析（グループワーク②）							水嶋 知子 鈴木 真理子 田渕 祥恵	
4		対象事例がめざす目標（グループワーク③）							桑原 良子 宮澤 美津子 横関 祐子	
5		対象事例への支援計画（グループワーク④）							奥原 香織 塚田 ゆみ子 堀内 和子	
6		グループ発表準備（グループワーク⑤）							風間 邦子 松房 利憲 大町 かおり	
7		グループ発表会①（事例に対する支援計画と質疑応答）							宮脇 利幸 山本 良彦	
8		グループ発表会②（同上）および学習のまとめ								
教科書	水本清久ほか、実践チーム医療論-実践と教育プログラム-、医歯薬出版株式会社。 ほかにプリントを配布。									
参考図書	1. 藤井博之、IPの基本と原則、協同医学出版社。 2. 藤井博之、臨床現場でIPを実践し学ぶ、協同医学出版社。 3. 藤井博之、地域医療と多職種連携、勁草書房。 4. 福原麻希、チーム医療を成功させる10か条 現場に学ぶチームメンバーの心得、中山書店。 5. 岡田晋吾、地域医療連携・他職種連携、中山書店。									
予習・復習内容	1. 2年次「IPW論」で課題となった自職種についての説明を他職種に行う上での課題を修正して、より具体的かつ正確にわかりやすく説明できるようにしてくる。 2. 多職種連携医療における各事例に対する自分の分析・解釈を整理し、根拠とともに説明できるようにしてくる。 3. 多職種連携医療における各事例の支援目標についての自分の考えを整理し、説明できるようにしてくる。 4. 各グループごとに分担した役割や共同部分に対する各自の責任と協働をはたせるようにしてくる。									
成績評価方法・基準	・支援計画における目標および根拠の具体性、論理性、実現可能性など（30％）。 ・グループ発表の内容、態度など（40％）。 ・グループワークにおける参加度、貢献度、メンバーシップ、リーダーシップについてのメンバー間での「ピア評価」（30％）。 グループ発表は、提供された事例の課題を多面的な視点から論理的に分析し、連携・協働の原則と方法について具体的に理解、共有できる内容であること。									
履修上の注意	2年次の「IPW論」を事前に履修することが望ましい。IPW論で学んだ原則や基本を具体的な事例に適用し、対象の分析と支援計画の立案に具体的に反映できることを期待します。									
担当教員への連絡方法	Email:matsufusa.toshinori@shitoku.ac.jp, miyakoshi.sachiyo@shitoku.ac.jp									
実務経験と授業科目との関連性	担当教員は、保健医療施設等での勤務での多職種連携医療の経験がある。このことから多職種連携医療の多様な場や対象を例に、学生に実践的かつ具体的な理解を促す教育を提供できる。									
保健師助産師看護師学校養成所指定規則に定める別表の種類と教育内容 別表3（看護師課程） 統合分野 看護の統合と実践										

看護学部看護学科 シラバス

授業科目	IPW演習Ⅱ									
担当教員	宮越 幸代 坂口 けさみ 林 かおり 樋貝 繁香 川崎 千恵 田中 高政 水寄 知子 鈴木 真理子 田淵 祥恵 桑原 良子 宮澤 美津子 横関 祐子 奥原 香織 塚田 ゆみ子 堀内 和子 風間 邦子 松房 利憲 大町 かおり 宮脇 利幸 山本 良彦									
配当年次	4年次	配当学期	前期	単位数	1単位	必修・選択	必修	授業形態	演習	
授業目標	ヒューマンケア論、IPW論、IPW演習Ⅰで学んだことを、地域包括支援センター、特別養護老人ホーム、ケアハウス、保育所等で実際に体験し、援助を必要とする人々・保健医療福祉に携わる人々・グループメンバーなどと直接に関わることで援助者間の「連携と統合」における実践上の基盤をつくる。									
学習目標	1. 演習先の組織と機能における各専門職の役割を整理し、IPW論で学んだ原則をもとに根拠とともに説明する。 2. 演習先で提供された事例の支援計画を多職種連携のチームで意見交換、合意形成しながら具体的に立案する。 3. 事例の課題解決における他職種との役割と機能について、具体的に説明する。 4. チーム医療における連携と協調の重要性を事例の具体的な場面を例示して説明する。 5. 自分の専門職の専門性と独自性を踏まえ、より効果的な多職種連携医療の課題を具体的に整理して述べる。									
授業計画										
回	開講日	授業内容							担当教員	
1		学習目標および演習方法（オリエンテーション①）							宮越 幸代 坂口 けさみ 林 かおり 樋貝 繁香 川崎 千恵 田中 高政 水寄 知子 鈴木 真理子 田淵 祥恵 桑原 良子 宮澤 美津子 横関 祐子 奥原 香織 塚田 ゆみ子 堀内 和子 風間 邦子 松房 利憲 大町 かおり 宮脇 利幸 山本 良彦	
2		対象事例の概要・演習計画の確認（オリエンテーション②）								
3		対象の理解、目標の共有（施設内演習①）								
4		課題解決の検討（施設内演習②）								
5		課題解決の検討（施設内演習③）								
6		支援計画の検討（施設内演習④）								
7		支援計画の検討（施設内演習⑤）								
8		支援計画の検討（施設内演習⑥）								
9		支援計画の評価（施設内演習⑦）								
10		支援計画の施設内発表会（施設内演習⑧）								
11		支援計画の修正・発表準備（学内演習①）								
12		支援計画の修正・発表準備（学内演習②）								
13		支援計画の学内発表準備（学内演習③）								
14		支援計画の発表会								
15		学習のまとめ・より効果的な多職種連携医療における課題（講義・意見交換）								
教科書	水本清久ほか、実践チーム医療論-実践と教育プログラム-、医歯薬出版株式会社。 ほかにプリントを配布。									
参考図書	1. 吉浦 輪、地域における連携・協働・事例集 対人援助の臨床から学ぶIP、協同医書出版社。 2. 小井戸雄一ら、多職種で支える災害医療、医学書院。 3. 篠田道子、多職種連携を高めるチームマネジメントの知識とスキル、医学書院。 4. 鈴木有香、交渉とメディアーション、三修社。 5. 篠原道子、チームの連携力を高めるカンファレンスの進め方 第2版、日本看護協会出版会。 6. ピーター・ホーキンス、チーム・コーチング 集団の知恵を引き出す技術、英治出版。									
予習・復習内容	1. 3年次「IP演習Ⅰ」で課題となった自己および多職種連携チームの課題を整理し、改善点について具体的に整理してくる。 2. 多職種連携医療における各事例に対する自分の分析・解釈を整理し、根拠とともに説明できるようにしてくる。 3. 多職種連携医療における各事例の支援目標についての自分の考えを整理し、説明できるようにしてくる。 4. 多職種連携医療における各事例の支援計画についての自分の考えを整理し、説明できるようにしてくる。 5. チームごとの各事例に対してチームで合意形成した支援計画を、誰もが実施できる表現と方法で発表できるようにしてくる。									
成績評価方法・基準	・各事例に対する支援計画の内容および根拠についての具体性、論理性、実現可能性など（30％）。 ・施設内および学内での各グループ発表の内容、態度など（40％）。 ・グループワークにおける参加度、貢献度、メンバーシップ、リーダーシップについてのメンバー間での「ピア評価」（30％）。 グループ発表は提供された事例の課題を多面的な視点から論理的に分析し、実際の事例に対する連携・協働について具体的に実践、評価でき、望ましい効果が期待できる内容であること。									
履修上の注意	・2年次の「IPW論」3年次の「IPW演習Ⅰ」を事前に履修することが望ましい。「IPW演習Ⅰ」で課題となった自己およびチームの課題を踏まえ、実際の事例に対してより実践的な連携・協働の力を臨地で発揮できることを期待します。 ・全体オリエンテーションのほかに各グループごとに指定された演習先の担当教員との打ち合わせがあります。社会的な常識やマナーはもちろん、適切なタイミングで必要な報告・連絡・相談と対処が行われるよう、チームで協力し合ってください。									
担当教員への連絡方法	Email: matsufusa.toshinori@shitoku.ac.jp, miyakoshi.sachiyo@shitoku.ac.jp									
実務経験と授業科目との関連性	担当教員は、保健医療施設等での勤務での多職種連携医療の経験がある。このことから多職種連携医療の多様な場や対象を例に、学生に実践的かつ具体的な理解を促す教育を提供できる。									
保健師助産師看護師学校養成所指定規則に定める別表の種類と教育内容 別表3（看護師課程） 統合分野 看護の統合と実践										